

十五國立銀行ハ政府ニ向テ他日借入金償還ノ期ニ到達シ一時ニ巨額ノ金員ヲ取引スルトキハ多少金融上ニ影響ヲ及ホスノ虞ナシトセス旁銀行ノ都合モアルニヨリ前約ヲ改修シテ明治二十八年十一月同二十九年五月及十一月ニ貳百萬圓宛同三十年五月即チ既定ノ滿期日ニ四百萬圓ノ返償ヲ受ケンコトヲ申請セリ此分割繰上ケノ返償ハ財政整理上政府ニ於テモ夙ニ希望スル所ナリシヲ以テ大藏大臣ハ同年十月右ノ申請ニ關シテ左ノ如ク閣議ニ提議セリ

去明治十年第十五國立銀行ヨリ政府ニ借入タル征討費借入金ノ儀ハ利子ノ割合現今ニ至リテハ大ニ高歩ニ失スルノ觀ナキニ非ラス乍去同借入金ノ儀ハ曾テ國家多難ノ秋ニ際シ財政上巨多ノ便宜ヲ蒙リタル來歴ヲ有シ且償還期限ハ雙方間ニ確約有之殊ニ該返還期限モ亦來明治三十年五月ニシテ僅ニ數年ノ間ニ迫リタルヲ以テ當初約束ノ通り履行ノ積ヲ以テ據置候處爾後一般經濟ノ狀況日々遷移スルモノアルノミナラス同銀行ニ於テモ亦前途整理上ノ必要有之趣ヲ以テ今回別紙(寫書面)ヲ提出セリ此申出ヲ認許スルトキハ現在ノ契約ニ比シ國庫ニ於テモ若干ノ負擔ヲ輕フシ雙方ノ便益ト存候依テ此際該行ノ申出ヲ認許セント欲ス

而シテ本件ヲ認許スルニツキテハ本年十一月ニ於テ償還スヘキ貳百萬圓ハ本年度ニ於テハ既定ノ豫算額ナキヲ以テ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例第二條ノ命スル壹億七千五百萬圓ノ内未タ募集セサル金額八百五拾壹萬七千五百五拾圓ノ剩餘アルヲ以テ此金額ノ内貳百萬圓ヲ此際特ニ之ヲ募集シ帝國憲法第六十四條第二項ニ依リ本年度整理公債ニ關スル特別會計ノ豫算外トシテ支出シ以テ之カ返還ニ充テ而シテ後日帝國議會ノ承諾ヲ求メントス又二十九年中ニ於テ兩回ニ返還スヘキ四百萬圓ハ通常ノ手續ニヨリ豫算ニ編入シテ以テ帝國

議會ノ協贊ヲ經之ヲ施行ス可シ  
右玆ニ之ヲ閣議ニ提出ス

(別紙寫書)

閣議ハ大藏大臣ノ提議ヲ納レ明治二十九年四月二十二日第十五國立銀行ニ對シ征討費借入金分割返還ノ申請ヲ聽許スル旨ヲ達セリ而シテ右ノ繰上返償ニ付テハ別ニ條約改修ノ手續ヲナサ、リシモ明治十六年ノ命令書ノ如ク該返償申請聽許ノ結果トシテ實際條約ハ改メラルタルモノナリ然ルニ明治二十九年七月第十五國立銀行ヨリ三十年五月二十日返償ヲ受クヘキ四百萬圓ノ内貳百萬圓ハ現金貳百萬圓整理公債證書ヲ交付セラレシコトヲ請求シ同年七月二十日大藏省ハ之ヲ許可シタリ此整理公債證書ヲ以テ現金ニ代ヘ之ヲ交付スルコトハ條約ノ豫期セサル所ノモノニシテ之ヲ許可シタルハ亦タ條約ノ趣旨ヲ改メタルモノト謂フヘキナリ

第二項 紙幣銷却借入金

紙幣銷却借入金ニ關スル條規ハ明治二十一年七月勅令第五十九號兌換銀行券條例改正ニ關スル規定ヲ以テ始トス即チ右勅令第五十九號ヲ以テ明治十七年五月布告第十八號兌換銀行券條例第二條ヲ改正シ日本銀行ノ兌換紙幣發行權ノ範圍ヲ擴張スルト同時ニ日本銀行ハ政府ニ對シ貳千貳百萬圓ヲ貸付クヘキ旨ヲ定メタリ即左ノ如シ

勅令第五十九號(抄錄) (明治二十一年七月三十一日)

第二條 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツ

ヘシ

日本銀行ハ前項ノ外特ニ七千萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項七千萬圓ノ内貳千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ銷却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ分更ラニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム

日本銀行ハ政府發行紙幣銷却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限リ一箇年利子百分ノ二ノ割合ヲ以テ政府ニ貸付スヘキモノトス但明治三十一年以降ハ無利子タルヘシ

前項貸付金ノ償還年限及毎年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム

然ルニ右兌換銀行券條例第二條第四項ニ依ル紙幣銷却借入金ハ未タ實際借入ヲ爲スニ至ラズシテ明治二十三年五月法律第三十四號ヲ以テ再ヒ同條例第二條ヲ改正シ左ノ如ク公布セリ

法律第三十四號 (明治二十三年五月十六日)

兌換銀行條例第二條第二項及同項但書中七千萬圓トアルヲ八千五百萬圓ニ改ム  
同條第四項ヲ左ノ通改ム

日本銀行ハ政府發行紙幣銷却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限リ無利子ヲ以テ政府へ貸付スヘシ  
紙幣銷却借入金ノ契約ハ明治二十三年八月九日大藏大臣ヨリ日本銀行ニ命任書ヲ交付シ同銀行

ハ之ニ對シ受書ヲ提出シタルヲ以テ成立シタリ而シテ其命令ノ要旨ハ同年九月一日ニ於テ貳千貳百萬圓ヲ借入ル、コト又此借入金ハ初年ヨリ三箇年間据置キ明治四十五年迄ニ政府ノ都合ニヨリ漸次償還スルコトニシテ其他紙幣ノ交換銷却ニ關スル要件ヲ定メタリ其全文ハ左ノ如シ

日本銀行

第一條 明治二十三年五月法律第三十四號兌換銀行券條例改正第二條第四項及ヒ同年七月法律第五十六號紙幣交換基金特別會計法第二條追加ノ項ニ依リ明治二十三年九月一日其銀行ヨリ金貳千貳百萬圓ヲ借入ルヘシ

第二條 前條借入金貳千貳百萬圓ハ無利子ニシテ其元金ハ初年ヨリ三箇年間据置明治四十五年マテニ政府ノ都合ニ依リ漸次償還スヘシ

第三條 壹圓以上政府發行紙幣明治二十三年九月一日ニ越流通高銷却ノ爲メ右流通高金額ニ對シ政府所有ノ紙幣交換基金及第一條ノ借入金ヲ以テ其銀行へ交付スヘシ

第四條 前條ノ交付金ヲ以テ壹圓以上政府發行紙幣ト交換スヘシ

交換シタル政府紙幣ノ金額ハ每一箇月分取纏メ翌月五日マテニ大藏大臣へ報告スヘシ  
右ノ通命任候條承諾ノ上ハ受書ヲ差出スヘシ

明治二十三年八月九日

大藏大臣

此命任書ニ依リ借入ノ期日ヲ明治二十三年九月トシ其償還期限ハ借入ノ初年ヨリ三箇年据置キ四箇年目ヨリ向二十箇年間ニ政府ノ都合ニ依リ漸次償還スヘキコトヲ約定セリ而シテ此借入金ニ關シテハ一般ノ會計法規ニ基キ收入順序ヲ左ノ如ク定メタリ

政府發行紙幣交換基金借入ニ係ル收入順序

第一條 政府ノ借入ニ係ル紙幣交換基金ニ對シ大藏大臣ヨリ日本銀行ヘノ命任書第一條ニ依リ明治二十三年度ニ於テ同行ヨリ貳千貳百萬圓ヲ借入レントスルトキハ國債局ハ納入告知案ヲ具シ大藏大臣決裁ノ上納入告知書ヲ調製シ之ヲ收入官吏ニ送付シ日本銀行ヲシテ中央金庫ヘ拂込マシムルノ手續ヲナスヘシ

第二條 收入官吏ハ前條拂込金ニ對シ金庫ヨリ日本銀行ヘ交付シタル領收證書ノ別符ヲ切リ取リタルトキハ即日國債局ニ報告スヘシ

第三條 國債局ハ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ別紙書式大藏大臣ノ借入證書ヲ調製シ即日之ヲ日本銀行ヘ交付スルノ手續ヲナスヘシ

第四條 國債局ハ明治二十三年四月勅令第六十八號第五項ニ依リ收入官吏ヨリ會計検査院ヘ提出スヘキ計算書ヲ年度後二箇月以内ニ送付アルトキハ其下検査ヲ執行シ會計検査院ヘ送付ノ手續ヲナスヘシ

第二款 一時借入金

第一項 法律ノ規定ニ依ラサル一時借入金

第一目 第八期以前ニ於ケル借入金

第八期明治八年六月迄以前ニ於ケル借入金ニ就キ如何ナル條規又ハ契約ノ存在セシヤハ今悉ク之ヲ詳ニシ難キヲ以テ此ニハ單ニ明治元年七月二十六日東洋銀行ヨリ洋銀五十萬弗ヲ借入ル

ニ就キテ結ヒタル契約書ヲ掲ク

日本皇帝政府及オソリーントール銀行會社ト約定ノ契書

一 オソリーントール銀行ノ會社洋銀五十萬元ヲ貸出シ日本政府此銀額ヲ借用ス其法左ノ如シ  
一 借債ノ期限ヲ一箇年トナシテ一箇年ニ一割五分ノ利息ヲ加ヘテ毎月五萬元宛返納ン二年ニ至リテ補足スヘシ

但利息ハ其拂ハサル剩額ノミニ附加スヘシ

一 此借債ヲ保固スル爲メニハ直ニ橫濱港ノ稅關所得ノ物ヲ出シテ質當ト定ム可シ萬一其所得ノ物ニテ充分ナラサル事ヲ知ル時ハ日本政府ニ於テ他ノ方法ヲ設テ此銀額ヲ補足ス可シ  
一 素ヨリ此借債ハ其地方ニ係リタル而已ナラス現今及爾後之日本政府ヨリ質當ヲ出シタル國債ナリト考ヘ見ルナリ

一 既ニ稅關取得ノ物ヲ質當トナス上ハ萬一故障出來シタルトキハ銀鋪直ニ稅關ニ入リテ之ヲ己レノ所有トナシ己ノ士官ヲ置キテ所有租稅ヲ取り集ム可キ理ヲ持スト知ルヘシ

一 此契約ヲ設立シ議定スル有司日本政府ニ於テハ東久世中將小松帶刀寺島陶藏及井關齋右衛門ニテ何レモ皇帝政府ノ士官ナリオソリーントール銀鋪會社ノ代人ハ「ジョンロペルトン」ナル者ニシテ現今橫濱出張銀鋪ノ管事勤方ヲ爲スナリ

一 「ジョンロペルトン」此契約ニ與スル所以ハ前文所擧ノ日本士官ハ此事業ヲ取扱フニ満足シ且其行爲ハ日本政府ノ威柄ニ屬スルヲ判然ト曉會スルヲ以テナリ故ニ此目的ノタメニ生スル威勢ハ前擧ノ日本士官ノ手ニアルヘシ

一 此借債ノ銀高ハ日本ニ於テハ洋銀ヲ以テ相拂ト雖トモ英國ニ在リテハ「ステルリング」(英ノ幣)ト看視シテ之ヲ算計ス其相場ハ洋銀一元ヲ以テ四「シルリング」三「ペンス」ノ價值トナレリ

一 全額ヲ「ステルリング」ニテ算計スルトキハ利足ヲモ「ステルリング」ヲ以テ算計シ然ル時ハ「ロンドン」ニ於テ四箇月仕切ノオリオンタル銀舗ノ手形ニテ當地ノ時相場ヲ以テ右適當ノ通用銀ヲ相拂ヘシ

一 還清ノ拂方モ同法ヲ以算計シ「ステルリング」ニテ之ヲ表ス譬ヘハ洋銀一元四「シルリング」八「ペンス」ト定ムル時ハ五十萬元ノ「ステルリング」ハ十一萬六千六百六十(十下蓋六ノ)「ポンド」十三「シルリング」四「ペンス」ナリ

一 「ステルリング」ノ全額ハ補償ス可キ高ニシテ譬ヘハ半年ニシテ八千七百五十「ポンド」ノ利足ヲ附加スヘキモノナリ此仕法ニテハ日本時相場ニ高低ノ差出來スルヲ以テ損益スルコトアルヘシ

一 此借債ノ利足ハ一割五分ト定ムト雖トモ向後此契約ノ方法宜キカ或ハ日本政府ニ昵近スヘキ商業ヲ得セシメ或ハ日本ニ於テ銀舗ノ商業ヲ擴充セシムヘキ良意ヲオリオンタル銀舗會社ニ垂レ賜フ時ハ此利足ヲモ減少シ能フヘシ

一 凡テ日本政府ニ於テオリオンタル銀舗會社ト商業ヲ爲スニハ其會中ノ人ト交際スルニアラス會社ニ交際スルナリ兼テ覺悟スヘシ會中ノ用人ハ還轉スルコトアルト雖モ之レヲ以テ銀舗ノ仕法ニ變換アルヘカラス故ニ用人還轉スル時々ニ日本政府ニ告ケ知ラシメ若病故等アル時ハ銀舗ノ代人トナルヘキモノヲ選ミ英國ノ政府之ヲ保固シテ證ト爲スヘシ

一 オリオンタル銀舗會社ニ於テハ決シテ手形(原註)ヲ日本ニ於テ出サ、ル事ヲ説明ス故ニニ外國銀舗ノ手形或ハ現今日本ニ於テ流通スル紙幣ニ於テハ一切取引致スヘカラス萬一英國ニ在ルオリオンタル銀舗會社ノ司長日本ニ出タル紙幣ヲ以テ定ムヘキ事アルトキハ速ニ報告シテ其仕法ヲ日本政府ニ指示スヘシ

一 若シ日本政府ノ方ニ於テ拂方ニ故障出來スル時ハ借債ノ元利ニ拘ラス銀舗ノ請得ヒシ損失ニ對シテ利足ヲ増シ其增高ヲ銀舗ノ所望ニ任セテ債中ニ附加ス可シ

神奈川府

裁判所

東久世中將 花押  
 小松帶刀 同  
 寺島陶藏 同  
 井關齋右衛門 同

一 オリエンタル銀舗會社ヨリ五十萬元ヲ受取リ此高ハ即「ステルリング」ニ直シ十一萬六千六百六十六「ポンド」十三「シルリング」四「ペンス」ニ當レリ此拂方ハ今日定メタル契約ニ基キ還辨スヘシ

利息ノ期限左ノ如シ

第一程 千八百六十九年第三月十二日

第二程 同年第九月十二日

- 第三程 千八百七十年三月十二日
  - 第四程 同年九月十二日
- 元銀ノ期限左ノ如シ

- 第一程 千八百七十年第十月十二日
- 第二程 同年十一月十二日
- 第三程 同年十二月十二日
- 第四程 千八百七十一年第一月十二日
- 第五程 同年第二月十二日
- 第六程 同年第三月十二日
- 第七程 同年第四月十二日
- 第八程 同年第五月十二日
- 第九程 同年第六月十二日
- 第十程 同年第七月十二日

一 第一程第二程兩度利足ノ拂方(原註、故陳ハステルリソグニ直シテ八千七百五十ポンドナルヘシ最後ノ兩度原註、殊高ノ中ニテ多少ノ拂方ニ及ハ殘銀ノ多少ニ隨テ定ムヘシ)

一 元銀拂方第一程ヨリ第九程迄ハ各程洋銀五萬元ナルヘシ最後即チ第十程ハ殘金ノ多少ヲ以テ定ムルカ故ニ五萬元ノ數ニ超過シ或ハ減縮シ總テ全數ヲ納メ終日時ノ相場ニ隨フヘシ

### 第二目 常用部不足金一時補充借入金

常用部不足金一時補充借入金ハ前章ニ於テ述ヘタルカ如ク太政官ノ裁可ヲ得テ一時貯金ヲ運用シタルモノニシテ特ニ之カ爲メニ法令ヲ發シ又ハ條約ヲ締結スルコトナカリキ

### 第三目 金祿公債償還金借入金

金祿公債償還金借入金ハ前章ニ述ヘタルカ如ク太政官ノ裁可ヲ經テ中山道鐵道公債募集金及預リ金ヨリ借入使用シタル者ナルヲ以テ特ニ之カ爲メニ法令ヲ發シ又ハ條約ヲ締結スル事ナカリキ

### 第四目 陸軍軍用新式銃及彈藥製造費借入金

陸軍々用新式銃及彈藥製造費借入金ニ關シテハ明治十九年五月二十六日大藏大臣ヨリ内閣ノ約定書案ニ基キテ約定書ヲ日本銀行ニ交付シ日本銀行ハ之ニ對シ受書ヲ提出シ茲ニ始メテ借入ノ契約成立スルニ至リシモノナリ其約定書ノ全文ハ左ノ如シ

日本銀行

- 一 金百參拾參萬七千貳百九拾八圓五拾九錢參厘
- 右金額陸軍軍用新式銃及彈藥製造費トシテ來明治二十一年三月三十一日マテノ間ニ隨時分測シテ其行ヨリ借入ル可キニ付左ノ條々ヲ茲ニ約定ス

### 第一條

隨時借入タル金額ハ各其借入レタル日ヨリ償還ノ前日迄一箇年五分五厘ノ割合ヲ以テ利子ヲ附スルモノトシ如何ナル事アリトモ此利子歩合ヲ増加スルコトヲ得ス  
但本文利子ハ毎年九月三月ノ兩度ニ拂渡スヘシ

第二條

前條隨時借入元金ハ每會計年度ニ於テ金拾九萬千四拾貳圓六拾五錢六厘宛(最終年度ハ)毎年度四回ニ償還スルモノトス

第三條

前條隨時借入金ニ對シテハ大藏大臣ヨリ其行ヘ證書ヲ交付スルモノトス

第四條

前記金百參拾參萬七千貳百九拾八圓五拾九錢參厘ハ第二條ノ如クニシテ明治十九年ヨリ同二十六年三月マテノ間ニ於テ悉皆償還スルモノトス

明治十九年五月二十六日

大藏大臣 伯爵 松方正義

第五目 假皇居御造營費借入金

假皇居御造營費借入金ハ明治二十年二月十日ヲ以テ大藏大臣ト日本銀行トノ間ニ締結シタル約定ニ基クモノニシテ其全文ハ左ノ如シ

日本銀行

一金百四拾六萬八千貳百參拾壹圓五拾六錢五厘

右金額ヲ假皇居御造營費ノ内ヘ明治二十年二月ヨリ同二十一年五月マテノ間ニ隨時分割シテ其行ヨリ借入ル可キニ付左ノ條件ヲ茲ニ約定ス

第一條

隨時借入タル金額ハ各其借入タル日ヨリ償還ノ前日迄一箇年五分ノ割合ヲ以テ利子ヲ附スルモノトシ如何ナルコトアリトモ此利子歩合ヲ増加スルコトヲ得ス

第二條

前條隨時借入元金償還並右ニ係ル利子拂渡方ハ二十年四月ヨリ二十三年七月マテノ間ニ於テ左ノ金額ヲ以テ支拂ニ充ツルモノトス  
但金繰ノ都合ニ由リ多少増減アルヘシ

金貳拾萬圓

二十年四月ヨリ

金五拾萬圓

二十一年三月マテ

金五拾萬圓

二十二年四月ヨリ

金參拾八萬九千六百七圓貳拾貳錢六厘

二十三年七月マテ

第三條

借入元金ニ對シテハ大藏大臣ヨリ其行ヘ證書ヲ交付スルモノトス

第四條

前記借入金百四拾六萬八千貳百參拾壹圓五拾六錢五厘ハ第二條ノ如クニシテ明治二十年四月ヨリ同二十三年七月マテノ間ニ於テ悉皆償還スルモノトス

明治二十年二月十日

大藏大臣

### 第六目 諸官衙及議院建築費借入金

諸官衙及議院建築費借入金ハ明治二十年五月二十三日ヲ以テ日本銀行ニ交付シタル借入金約定書ニ基クモノニシテ其全文ハ左ノ如シ

日本銀行

今般諸官省等建築費ノ内ヘ支出ノ爲メ其行ヨリノ借入ヲ要シ茲ニ左ノ條件ヲ約定ス

#### 第一條

明治二十年五月ヨリ同二十一年三月マテノ間ニ金百貳拾八萬圓ヲ隨時分割シテ其行ヨリ借入ル、モノトス

#### 第二條

前條ノ借入金ハ其借入ノ日ヨリ返償ノ前日マテ一箇年五分ノ割合ヲ以テ利子ヲ附スルモノトス

但本文利子ハ毎年九月三月ノ兩度ニ下付スヘシ

#### 第三條

借入金ハ明治二十二年三月迄ニ完償スルモノトス

但國庫ノ都合ニヨリ會計年度末ニ一旦返償シ更ニ借入ル、コトアルヘシ

#### 第四條

借入金ニ對シテハ其時々大藏大臣ヨリ其行ヘ借入證書ヲ交附スルモノトス

大藏大臣

明治二十年五月二十三日

### 第七目 鐵道建設費借入金

鐵道建設費借入金ハ明治二十一年九月十四日ノ約定書ニ基クモノニシテ其全文ハ左ノ如シ

日本銀行

今般鐵道建設費之内ヘ支出ノ爲メ其行ヨリ借入ヲ要シ茲ニ左ノ條件ヲ約定ス

#### 第一條

明治二十一年九月ヨリ同二十二年三月迄ノ間ニ於テ金貳百萬圓ヲ限リ隨時分割シテ其行ヨリ借入ル、モノトス

#### 第二條

前條借入金ハ其借入ノ日ヨリ返償ノ前日マテ一箇年五分ノ割合ヲ以テ利子ヲ附スルモノトス

#### 第三條

借入金ニ對シテハ其時々大藏大臣ヨリ其行ヘ借入證書ヲ交附スルモノトス

#### 第四條

借入金ハ明治二十三年八月マテニ完償スルモノトス

但返償期限ハ國庫ノ都合ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

明治二十一年九月十四日

大藏大臣

### 第二項 法律ノ規定ニ依ル一時借入金

#### 第一目 明治二十七年法律第十六號一時借入金

明治二十七年法律第十六號一時借入金ハ該法律第二條ノ規定ニ基クモノニシテ該法律ノ全文ハ左ノ如シ

法律第十六號 (明治二十七年二月二十日)

第一條 政府ハ國庫金出納上一會計年度間餘裕アルトキハ相當ノ利子ヲ徵シテ之ヲ當座預又ハ定期預トシテ日本銀行ニ預ケ入ル、コトヲ得

第二條 政府ハ國庫金出納上一會計年度間一時不足ヲ生スルトキハ相當ノ利子ヲ附シ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

第三條 前條ニヨリ政府ノ借入ル、コトヲ得ヘキ金額ハ大藏省證券發行額ト合セテ當該年度該證券ノ發行最高額ヲ超過スルコトヲ得ス

明治二十七年法律第十六號一時借入金中定期借入モノニ就テハ同年十月十二日大藏大臣ヨリ金九百五十萬圓借入ノ契約證書ヲ日本銀行ニ交付シタルヲ以テ契約締結ノ創始トス茲ニ其證書ニ記載シタル所ノ要旨ヲ擧ケンニ此金額ハ法律ニヨリ本證書記載年月ヨリ明治二十八年三月三十一日マテ借用ス而シテ期限ニ至リ元利皆済ス可キハ勿論ナリト雖モ期限前ニ於テモ政府ノ都合ニ依リ全額ヲ皆済シ若クハ幾分ヲ分割返済スルコトアルヘシ又利子ハ一箇年百分ノ五ノ割合ヲ以テ之ヲ付ス等ノコト是ナリ其後明治二十八年九月以降ニ至リ更ニ數回ノ借入ヲ爲シタルト雖

モ時々ノ命令書ヲ以テ返償ノ期限及利子ノ歩合ヲ定メ亦屢令達ヲ發シテ其返償ヲ延期シタリ又日歩ヲ以テセル當座借入係ルモノニ就テハ明治二十七年十一月十四日ヲ以テ大藏大臣ヨリ日本銀行ニ對シ各地金庫ヨリ中央金庫竝ニ大阪本金庫ニ向テ回送中ニ屬スル金額アル場合ニ於テ其到達以前ニ之ヲ使用スルノ必要アルトキハ相當ノ額ヲ定メ其行ヨリ借入金ヲ爲スコトアルヘシ此借入金ノ利子ハ其行ニ於テ定ムル處ノ當座貸越日歩ト同額トシ借入ノ當日ヨリ償還當日マテノ分ヲ仕拂フモノトス又其借入ヲ要スルトキハ時々命令書ヲ交付シ其元金ハ該命令書ニ添付セラル回送金明細書ニ示ス所ノ回金ノ到達スルニ從ヒ漸次償還スヘシ等ノコトヲ令達シ之カ受書ヲ徵シタリ然ルニ銀行ノ都合ニ據リ該受書ニハ右御達ニ據リ常時前以御沙汰ナク貸上候金額ノ極度ハ壹百萬圓ト相定度若シ此金額ニ超過候節ハ豫メ御打合ノ上時々御取極メ相成候様致度此旨追申候也トノ但書ヲ加ヘタリ

#### 第二目 臨時軍事費借入金

臨時軍事費借入金ハ明治二十七年法律第二十五號及二十八年法律第八號ニ據リ日本銀行ヨリ隨時借入レタルモノニシテ此等ノ法律ノ條文ハ掲ケテ軍事公債ノ部ニアリ而シテ此借入金ハ總テ定期借入ノ約定ニ係ルモノニシテ或ハ借入金額ヲ概定シテ契約證書ヲ發シタルモノアリ或ハ臨時ノ必要ニ應シ命令書ヲ交付シタルモノアリ大要前ニ敘述シタル明治二十七年法律第十六號ニ據ル一時借入金ノ例ニ同シ



### 第三目 償金預ケ合借入金

償金預ケ合借入金ノ基ク處ハ明治二十九年法律第六號償金特別會計法ニシテ其全文ハ左ノ如シ

法律第六號 (明治二十九年三月二十四日)

第一條 償金及其利子ハ一般ノ歳入歳出ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス

第二條 償金ハ金銀地金及有價券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得此場合ニ於テハ日本銀行ヲシテ其交換ヲ取扱ハシム

前項ノ交換ヨリ生スル差増減ハ本會計ノ歳入出ニ屬スルモノトス

第三條 國庫内現金融通ノ爲メ國庫ヨリハ償金ノ金地金ヲ以テ日本銀行ヨリハ之ニ相當スル兌換銀行券ヲ以テ相互間ニ貸借勘定ヲ組成スルコトヲ得此場合ニ於ケル利子ノ割合ハ大藏大臣之ヲ定ム

前項ノ金地金ハ日本銀行ニ於テ兌換銀行券ノ準備ニ供ス可キモノトス

第四條 政府ハ毎年償金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ編製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

而シテ右法律成立前即チ明治二十八年十二月十二日ヲ以テ日本銀行ハ締結シ其後同法ノ出ツルニ及テ繼承セラレタル契約ニヨレハ貸借勘定ヲ組成スヘキ金額ハ凡ソ八千萬圓ト豫定シ日本銀行ハ預ケ入ヲ受ケタル英貨若クハ金地金ノ價格ニ基キ兌換銀行券ヲ發行シ之ヲ政府ニ貸付クヘキモノトス而シテ金ノ銀ニ對スル價格ノ割合竝ニ預入貸付ノ期限及其利率ハ時々之ヲ定ムルコト

ト、ナシタリ故ニ大藏大臣ハ實際貸借勘定組成ノ要アルニ臨ミ該期限及利率等ヲ日本銀行ニ命達シ其期限ノ如キモ亦往々延期スルコトアリキ但此預ケ合ハ明治三十一年一月一日以降貸借雙方共利子ヲ付セサルコト、改メタリ

前述ノ契約ニ對スル借入金ハ明治三十年四月ニ至ルマテ前後八回ノ借入ヲ以テ一旦其局ヲ結ヒ越ヘテ翌三十一年八月以降復タ預ケ合ヲ開始セシカ此預ケ合ニ關シテハ別ニ契約書ヲ用キスシテ隨時令達書ヲ發シタリ然レトモ其貸借雙方共利子ヲ付セサルコト及其他ノ條件ニ至リテハ概ネ前例ニ準シタリ

### 第四目 臺灣事業費繰換借入金

臺灣事業費繰換借入金ハ明治三十二年法律第七十五號臺灣事業公債法第五條ニ基クモノニシテ同年九月二十八日始メテ大藏大臣ヨリ臺灣銀行ニ貳百萬圓借入ノコトヲ令達シ之ヲ三回ニ分チテ各々借入ノ期日ヲ指定シ其償還期限ハ滿一箇年以内トシ利子ハ一箇年七分ノ割合ヲ以テ六月十二月ノ兩度ニ之ヲ仕拂ヘキコト等ノ要件ヲ定メ之ニ對スル受書ヲ徵シ爾後同年十二月二十二日ニ金五拾萬圓(別本七拾萬圓ニ改メタリ)翌三十三年一月二十六日ニ金七拾萬圓借入ノコトヲ令達スルニ方リテハ何レモ借入金ノ利率利子仕拂方及償還期限等ハ總テ前回借入金同様ト心得ヘキ旨ヲ示シタリ

## 第四章 起債

### 第一節 内國公債

#### 第一款 起債ノ方法

##### 第一項 起債方法ノ類別

凡ソ起債ノ方法ニハ種々アリト雖モ今我内國公債ニ於ケル既往ノ事蹟ニ就キテ之ヲ稽フルニ概シテ普通募集、臨時特別發行、證券交換發行、紙幣交換發行、舊債代償發行及諸祿代償發行ノ六種ト爲スコトヲ得ヘシ

普通募集ハ明治十一年ノ企畫ニ係ル起業公債ノ募集ヲ以テ其濫觴トス爾來中山道鐵道公債、海軍公債、整理公債、鐵道費補充公債、鐵道公債及軍事公債等ヲ起スニ當リ概ネ此方法ヲ採用シタリ

臨時特別發行ハ歐米諸國ニ行ハル、所ノ間接募集法ヲ斟酌シテ設定シタル一種ノ起債方法ニシテ輒近各種ノ公債ニ通シテ多ク此方法ヲ用キ證券ヲ發行シタリ

又證券交換發行ナルモノハ高利國債借換整理ノ一方便トシテ整理公債ニ限リ特ニ用キタルモノナリ其他紙幣交換發行ハ金札引換公債及金札引換無記名公債ニ付舊債代償發行ハ新公債及舊公債ニ付又諸祿代償發行ハ秩祿公債、金祿公債及舊神官配當祿公債ニ付各特ニ定メタル起債方法ニシテ近時法律ノ制定ニ係ル祿高整理公債ノ如キハ將來此諸祿代償發行ノ方法ニ依リテ證券ヲ發行セラルヘキモノナリ

### 第二項 起債方法ノ概要

#### 第一目 普通募集

普通募集ハ廣ク公衆ヨリ直接ニ公債ヲ募集スルモノニシテ證券券面ノ金額ト同一ナル價格ヲ以テスルモノ即チ所謂平價募集ト券面金額ト異ナリタル低價ヲ以テスルモノ即チ所謂呼價募集トノ二様アリ而シテ從來平價又ハ呼價ヲ以テ募集スル場合ニ於テハ概ネ高價發行ノ法即チ豫メ最低價格ヲ示シ其以上ニ於テ之ヲ競争ニ付スルノ方法ヲ採用シ特定ノ呼價ヲ以テ募集シタルモノハ獨リ起業公債アルノミナリトス而シテ募集ノ手續ハ其時期及公債ノ種類等ニ由リ自ラ多少ノ異同ナキニアラスト雖モ既ニ陳敘シタルカ如ク整理公債條例ハ我國債ニ關スル法規ノ骨髄ヲ成セルモノナルカ故ニ爰ニ該條例及整理公債取扱順序ノ規定ニ依リテ其大要ヲ述ヘ且各種公債募集ノ實績ニ就キ其特殊ナル事例一二ヲ掲ケ以テ募集方法ノ一斑ヲ窺フニ便セントス

整理公債條例及整理公債取扱順序ノ規定ニ依レハ凡ソ公債ヲ募集スルトキハ大藏大臣ハ其募集豫定總額最低價格應募申込日限及應募金額拂込度數等ヲ定メ豫メ之ヲ告示シ各應募者ヲシテ應募申込期限内ニ其應募金額及價格ヲ定メ保證金ヲ添ヘテ之ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ申込マシム而シテ其應募ノ申込多額ニシテ募集豫定額即チ需要高ニ超過セルトキハ最モ高價ナルモノヨリ順次之ヲ募入シ需要高ニ滿ツルニ至リテ止ム若シ應募價格相同シキモノアリテ之ヲ悉皆募入スレハ需要高ニ超過スヘキ場合ニ在リテハ申込ノ高ニ割合ヒ之ヲ減少スルモノトス而シテ此ノ減少ニ付テハ明治二十一年勅令第四十六號ヲ以テ條例第七條ニ時宜ニ依リ貳百圓以下ノ應募

者ニハ之ヲ減少セサルコトアルヘシトノ但書ヲ加ヘタリ是レ本邦ニ於テ小額無減少法ヲ設ケタルノ創始トス蓋シ僅少ノ貯蓄ヲ以テ募集ニ應セント欲スル者ニ對シ巨額ノ申込ヲナセル銀行會社其他富豪家等ト同一ノ比例ヲ以テ減少スルトキハ細民ヲシテ貯蓄心ヲ沮喪セシムルノ虞ナシトセス經濟上及社會上ノ不利益決シテ尠ナラサルモノアレハナリ又應募金ノ拂込ヲ數回ニ分チタル場合ニ於テ拂込期間ノ末日迄ニ拂込未済ノモノアルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ一箇年百分ノ七ノ割合ヲ以テ利子ヲ徴收シ若シ拂込期日後三箇月ヲ過クルモ尙ホ拂込ヲ爲サ、ルトキハ其應募申込ヲ無効トシ保證金及既ニ拂込ミタル金額ヲ沒收スルモノトス

右整理公債條例及整理公債取扱順序ノ規定ハ爾後ノ起債ニ係ル各種公債ノ募集ニ適用セゾレタルモノナリ而シテ其以前ニ在リテ募集シタル起業公債ノ如キ中山道鐵道公債ノ如キ多少ノカ手續ヲ異ニセリ即チ起業公債ノ募集ニ際シ其需要高ニ超過セル應募高ヲ減却スルニハ先ツ一口千圓以下ノモノハ其申込金額ヲ募入シ千五百圓以上千圓未滿ハ悉ク一口千圓ニ減却シ其需要殘額ヲ千圓以上申込ノモノニ配當シテ募集額ヲ定メ又中山道鐵道公債證書條例第五條ニ此公債證書引受ノ申込高ノ需要スル金額ヨリ超過スルトキハ其超過シタル高ニ比例シ各申込人ヘ對シ證書渡高ヲ減少スルモノトス但價格ヲ定メテ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高ヲ減少セサル可シト規定シタルノ類是レナリ

又應募者ヲシテ其申込ヲ爲スト同時ニ應募保證金ヲ納メシムルコトハ各種ノ公債皆其軌ノ一ニスル所ニシテ其割合ノ如キモ起業公債ニ於テハ證券券面金額百圓ニ付八圓ト定メタルノ外券面高ノ一割即チ百圓ニ付拾圓ヲ以テ保證金額トスルコト殆ント恒例トナレリ而シテ保證金ハ募入

ニ外レタル者ニ對シテハ日割利子ヲ付シテ之ヲ還付シ募入トナリタルモノニ對シテハ直一之ヲ拂込金ニ振換ヘ殘金ノ拂込ハ概ネ之ヲ二回ニ分チタリ(毎回拂込高ノ割合ハ場合ニヨリ)但シ起業公債ニアリテハ三回ニ鐵道公債ノ第一回募集ノ際ニアリテハ五回ニ同第二回募集ノ際ニハ殘金ノ全部ヲ一時ニ各之ヲ拂込マシメ又軍事公債ニアリテハ大ニ其拂込度數ヲ増シテ六回若シハ七回トナシタリ

又應募者ニ於テ拂込期日迄ニ其拂込ヲナサ、ルトキハ應募ノ申込ヲ無効トシ且ツ既納ノ金額アレハ之ヲ沒收スヘキコトハ起業公債及中山道鐵道公債募集ノ場合ニ於テ規定シタル所ニシテ畢竟應募拂込ノ履行ヲシテ確實ナラシメントスルノ趣旨ニ出テタルモノナリト雖モ些少ノ時日ヲモ假借セスシテ直ニ其中込ヲ無効ニ歸セシムルノミナラス既納ノ金額ヲ沒收スルカ如キハ聊カ苛酷ノ嫌ナキニアラス是ニ於テ整理公債條例ニハ此際ニ處スル方法ヲ改良シタリ亦募集方法ノ一進歩ト云フヘシ

## 第二目 臨時特別發行

抑モ公債募集ノ事タルヤ社會經濟ノ一張一弛ニ密接ノ關係ヲ有スルカ故ニ宜シク其金融繁閑ノ狀況ヲ察シテ之ヲ舉行セサル可カラズ殊ニ我國市場ノ狹隘ナル或ハ公債募集ノ一舉ハ爲ノニ世上金融ノ動搖ヲ來スコト甚ダシキ場合ナシトセス且ツ募集ヲ行フニハ若干ノ時日ト手數トヲ要シ到底敏捷ノ動作ヲナスコト能ハス故ニ財政上時ノ宜シキニ從ヒ中央金融機關タル日本銀行ヲ利用シテ證券ノ特別發行ヲ爲シ以テ其需要ヲ充タスハ實ニ便宜ノ措置ト云フ可シ是ニ於テ明治

二十一年六月勅令第四十六號ヲ以テ大藏大臣ハ豫告募集ノ手續ニ據ラス市場ノ時價ニ準シ整理公債證書ノ價格ヲ定メ臨時之ヲ發行シテ日本銀行ニ交付スルコトヲ得ル旨整理公債條例第六條ニ追加シ爾來屢、此方法ニ依リテ起債スルコトヲ得タリ而シテ此ノ規定ニ據レハ大藏大臣ハ市場ノ時價ニ準シ證券ノ價格ヲ定メ臨時之ヲ發行シテ日本銀行ニ交付スルモノナルヲ以テ其價格ノ如キハ時價ノ高低ニ從ヒ時ニ或ハ平價ナルアリ或ハ高價若クハ低價ナルコトアルハ固ヨリ其所ナリ而シテ右發行價格ヲ定ムルノ方法ハ當初ハ東京株式取引所相場付所載ノ市中直取引相場ニ付發行ノ日ヨリ週一最近一週日間ノ相場ヲ平均シテ以テ發行價格ト定メタリ然ルニ右相場表ハ二三仲買人ノ直取引セシモノニ過キス取引ノ區域狹隘ニシテ從テ時價ノ真相ヲ得ル能ハサルノ虞アルニ由リ明治二十八年十月以降東京株式取引所相場及中外商業新報時事新報讀賣新聞日本新聞所載ノ相場ニ付公債證書發行ノ日ヨリ週一最近一週日間分ヲ平均シテ之ヲ定ムルコトニ改定セリ但シ之ニ關シテ重要ナル慣例三アリ第一、新ニ發行スル證券ニハ其發行日カ月ノ十五日前ニアルト否トニ由リ其下半箇月若クハ翌月ヨリ利子ヲ付スルモノナルヲ以テ其期ニ於ケル經過月數ノ利子額ヲ計算シ(舊ハ三月上十日ニ於テ整理公債證書ノ臨時特別發行ヲ爲ストキハ一月ハ七月ヨリ十月マテノ四箇月分利子額ヲ計算スルカ如シ但シ經過ノ之ヲ時價ヨリ控除スルコト第二、計算上發行價格ニ錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ四捨五入ノ法ニ依リ之ヲ錢位ニ止ムルコト第三、所謂發行ノ日トハ實際發行ノコトヲ發議スル前日ナルコト是レ(乙)ハ甲日ノ相場ニ據ルカモ其其ハ實際發行ノ日ノ相場ナリナリ

### 第三目 證券交換發行

證券交換發行ハ整理公債條例及整理公債取扱順序ノ規定ニ據リ六分以上上利付ノ國債證券ト交換シテ整理公債證券ヲ交付シタルモノニシテ其方法ニ四種アリ茲ニ其要目ヲ舉クレハ第一六分以上上利付ノ國債償還元金ノ代リトシテ整理公債證券ヲ交付スルコト第二整理公債募集ノトキ六分以上上利付ノ證券ヲ以テ其應募拂込金ニ代用セシメ之ニ對シテ整理公債證券ヲ交付スルコト第三第一ノ場合ニ於テ其償還額ニ整理公債證券ノ最小券面金額未滿ノ端數アルトキハ交付ヲ受クル者ヲシテ他ノ六分以上上利付ノ未償還證券ヲ以テ之ヲ補足セシメ其金額ニ對シテ整理公債證券ヲ交付スルコト(此場合ニ於テ其一部ハ償還元金代リ交付ナレトモ他ノ一部分ハ當籤證券へ補足ノ交換ナリ)第四臨時ニ六分以上上利付ノ證券ト引換ニ整理公債證券ヲ交付スルコト是レナリ

凡ソ證券交換ノ方法ニヨリテ交付スル證券ノ發行價格ハ券面金額ニ據ルモノトシ其交換セラルヘキ證券ノ價格モ亦券面金額ヲ以テ計算スルモノト定メタリ且ツ前掲第二ノ場合ニ於テハ最後ノ拂込ノ際ヲ除ク外其代用拂込證券ノ券面金額カ大藏大臣ノ指定シタル毎期ノ拂込金額ニ超過スルモ妨ケナシトシ又其代用證券ヲ以テセル應募ノ申込ニ限り縦令需要高ニ超過スルモ之ヲ減少セシテ悉ク募入スヘキモノト爲シタリ

### 第四目 紙幣交換發行

紙幣交換發行ハ太政官札民部省札及新圓札等ノ各紙幣ヲ回收シ之ヲ銷却センカ爲メ紙幣所持人

ノ請求ニ應シ平價ヲ以テ之ト引換ニ公債證券ヲ交付シタルモノナリ茲ニ金札引換公債證券發行條例ヲ案スルニ太政官札民部省札及新圓札ノ所持人ニ於テ之ヲ公債證券ニ交換センコトヲ欲スルトキハ東京横濱大阪西京神戸長崎函館新潟及之ニ接近セル場所ハ大藏省紙幣寮又ハ其出張所又ハ第一國立銀行本支店等へ其他銀行支店ノ設ナキ所ニアリテハ其地方管廳(明治十三年地方官廳ニ差出スモ)へ各願書ト共ニ該紙幣ヲ差出スヘキモノトス又金札引換無記名公債證券條例ニ據レハ此公債證券ハ希望者ノ申込ニ任セ隨時之ヲ發行スルモノニシテ其之ヲ引受ケンコトヲ望ムモノハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ申出ツヘシトノ規定アリ而シテ此證券ト交換ス可キ紙幣ニ付テハ金銀貨ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ許シ此場合ニアリテハ其前日ノ市價ニ依リ之ヲ紙幣ニ換算スルコト、爲シタリ

### 第五目 舊債代償發行

舊債代償發行ハ舊藩ノ債務ヲ政府ノ負擔ニ移シ以テ帝國ノ公債トナシ新公債證券及舊公債證券ト名ツクル證券ヲ各債權者ニ交付シタルモノナリ而シテ此證券ハ最小券面金額ヲ貳拾五圓ト爲シタルカ故ニ各人ニ對スル債額ニ貳拾五圓未滿ノ端數アルトキ其端數ハ新舊公債ノ年限ニ應シ一割利引ノ算法ヲ用キ一時ニ現金ヲ以テ之ヲ償還シタリ

凡ソ新舊公債證券ヲ交付スルニハ債權者ヲシテ舊證券ヲ提出セシメ之ト交換スヘキハ固リナリト雖モ一種ノ證券ニ登記セル債額中公債ニ立ツヘカラサルモノヲ包含スルトキハ之ヲ交換スルコトヲ得サルニ由リ此場合ニ於テハ其舊證券ニ内何圓ハ新舊公債證券ヲ以テ交付シタル旨ノ

裏書證印ヲ爲シ而シテ從前證文アラサリシモノニ付テハ交付ノ債券ニ對スル領收書ヲ徵スルコト、定メタリ又舊藩債ノ内米穀ノ借入ニ係ルモノハ各地方壬申年三月ノ平均相場ヲ以テ金額ニ改算シ銀貨ニ付テハ東京ハ金壹圓ニ付六十目トシ京都ハ一箇年平均相場ニヨリ大阪ハ戊辰年五月銀目廢止ノ節ニ於ケル布達ノ平均相場ニ據リ各計算シ藩札ハ新貨價格比較表ニ從ヒ計算シ以テ公債處分ノ額ヲ定ムルモノト爲セリ

### 第六目 諸祿代債發行

諸祿代債發行ノ起債方法ニ付テハ茲ニ秩祿公債金祿公債及舊神官配當祿公債ノ三段ニ分チ聊カ其概要ヲ説カントス

秩祿公債ハ家祿及賞典祿ノ奉還出願者ニ對シ永世祿ニアリテハ六箇年分終身祿ニアリテハ四箇年分又年限祿ニアリテハ其年限ノ長短ニ應シ四箇年分ヨリ一箇年分ニ至ル數階ノ等差ヲ付シ何レモ之ヲ癸酉年貢納石代相場ヲ以テ金額ニ換算シ產業資金トシテ一時ニ給與スルモノトシ内凡ソ半額ハ現金ニ代ヘテ此公債證書ヲ交付シタルモノナリ而シテ家祿及賞典祿ノ奉還ハ其初メ祿高百石未滿ノ者ニ限り允許スルモノナリシヲ以テ此半額ヲ證券ニ代ヘ半額ヲ現金トシテ交付スルノ制ハ專ラ小祿ノモノヲ標準トシテ定メタルモノナリシカ後百石以上ノ者ニ對シテモ其請ヲ容ル、事ト爲シタルニ由リ現金支出ノ節減ヲ圖リ百石以上ノモノニハ其祿高ノ多寡ニ拘ラス產業資金ノ内五十石ニ相當スル金額ノミ現金ヲ以テ支給シ餘ハ悉ク證券ヲ交付スルコト、セリ金祿公債ハ金祿支給ノ制度ヲ改メテ該國債證券ヲ交付シタルモノニシテ明治十年ヲ以テ起債ノ

始期トス凡ソ金祿ハ當初之ヲ分チテ永世給與終身給與及年限給與ノ三種トセシカ後之ヲ公債ニ組換フルニ當リ永世給與額ニ付テハ千圓以上ハ其年限ヲ十一等ニ(七萬圓以上ハ五箇年分ヲ積算ノ額ヲ定メタルノ類ナリ以下之ニ依テ)別チ之ニ五分利付證券ヲ交付シ千圓未滿百圓以上ハ其年限ヲ十三等ニ別チ六分利付證券ヲ交付シ百圓未滿ハ其年限ヲ六等ニ別チ七分利付證券ヲ交付スル者トシ又終身給與ノ者ニハ永世祿年限十分ノ五ヲ給シ利子ノ割分ハ永世祿ノ區別ニ從ヒ年限ノ給與ノ者ハ之ヲ六等(十年以上ハ永世祿年限十分ノ四ヲ支給シ十年未滿八)ニ別チ永世祿ト同一ノ利付證券ヲ交付スヘキモノト爲セリ又舊藩ニ於テ祿券賣買ヲ許可セシモノニ限り其支給額ノ多寡ニ拘ラス總テ十箇年分ノ金高ヲ積算シ之ニ對シ一割利付ノ證券ヲ交付シタリ而シテ其積算金高ノ内證券券面金額ニ滿タサル端數ハ現金ヲ以テ支給セリ

金祿公債ノ目的タル畢竟金祿制度ヲ廢シ以テ永遠ニ國庫ノ負擔ヲ輕減セントスルニ在ルモノナレハ其公債額ヲ量定スルニ方リテハ之ヨリ生スヘキ毎歲ノ利子額ヲシテ從前ノ給祿高ニ比較シ適宜ノ程度マテニ低下セシムルヲ必要トス而シテ單ニ各自ノ祿高ニ比例シテ其債額ヲ定メ且同一ノ率ヲ以テ利子ヲ付スルトキハ大祿ノ者ハ比較的ニ許多ノ利子ヲ取得シテ生計上餘裕アルニ反シ小祿ノ輩ニ在リテハ得ル所ノ證券高些少ナルカ故ニ其利子ハ以テ生計ノ必要ヲ充タハニ足ラスシテ爲メニ困厄ノ境ニ沈淪スルノ虞ナシトセス是ヲ以テ政府ハ前述ノ如ク祿高ノ寡少ナルニ從ヒ却テ元高附與ノ年限ヲ遞加シ且ツ利子ニ至リテモ祿高ノ低下スルニ從ヒテ其率ヲ高クシ以テ小祿者ヲシテ相當ノ資給ヲ得セシメントテ圖リタリ而シテ其年限及利率ノ差等ヲ付シタル結果其分界ニ當ル者ニアリテハ祿高ノ寡キ者却テ其多キ者ヨリモ多額ノ證券若クハ利金ヲ得

ルノ奇觀ヲ呈スルコト、爲ルヲ以テ條例ニ於テ之カ制限ヲ設ケ小祿者ニ附與ス可キ元高ヲ減シ其得ル處ノ利金額ヲシテ敢テ大祿者ノ所得高ニ踰越スルコト莫カラシメタリ譬へハ元高附與ノ規定ニ據レハ祿高貳萬圓未滿壹萬圓以上ノ者ニハ元高六箇年半分ヲ給シ壹萬圓未滿七千五百圓以上ノ者ニハ元高六箇年七分五厘分ヲ給シ各一年五分ノ利子ヲ給スルモノトス故ニ此場合ニ於テ祿高壹萬圓ノ者ハ金六萬五千圓ニ相當スル證券ヲ得其利子一箇年分參千貳百五拾圓ナルニ祿高九千九百圓ノ者ハ證券高六萬六千八百貳拾五圓ニ相當スル證券ヲ得此利子年額參千參百四拾壹圓貳拾五錢ヲ得ルコト、ナリ却テ祿高ノ大ナル壹萬圓ノ者ヨリハ利子ヲ得ルコト多シ故ニ此九千九百圓ノ者ニハ壹萬圓ノ者ト同額即六萬五千圓ノ證券ヲ交付スルカ如シ又祿高百五拾圓未滿ノ者ニハ十一箇年分ヲ積算シ六分利付ノ證券ヲ交付シ百圓未滿七拾五圓以上ノ者ニハ十一箇年半分ヲ積算シ七分利付ノ證券ヲ交付ス可キモノナルニ由リ九拾九圓ノ者ハ當ニ千百參拾五圓ノ證券外ニ端數現金參圓五拾錢ヲ得へキ筈ナレトモ然ルトキハ其利子年額七拾九圓四拾五錢ニシテ百圓ノ者カ受クル處ノ利子額六拾六圓(證券高千百圓ニ對スル六分ノ利子)ヲ超過スルヲ以テ此場合ニ於テハ九拾九圓ノ者ノ受クル利子年額ヲシテ六拾六圓ヲ超過セサル様元高即チ證券交付高ヲ減却スルカ如シ

舊神官配當祿公債ハ舊神官ニ於テ從前各社領朱黑印地竝ニ除地收額中ヨリ配當ヲ受ケ來リタル米額ヲ祿制ニ換へ其改算金高五箇年分ノ合計額ヲ證券トシテ一時ニ交付シタルモノナリ但シ端數現金ハ金祿公債ト同シク現金ヲ以テ之ヲ給與セリ

### 第二款 起債ノ實況

維新以來政府ハ制度ノ改革財政ノ整理及經濟ノ發達等時々ノ必要ニ應シテ諸種ノ公債ヲ起シタルコトハ既ニ前ニ敘述セシカ如シ仍テ茲ニハ前ニ示シタル起債方法ノ分類ニ從ヒ内國公債ノ毎年起債額ヲ表出セントス但シ證券交換發行方法中第二ノ方法ニ依ル起債額ハ今之ヲ普通募集ノ内ニ算入セリ

年	次	普通募集	臨時特別發行	證券交換發行	紙幣交換發行	重價代價發行	附屬代價發行	合計
五	年	〇	〇	〇	一五八〇、〇〇〇	〇	〇	一五八〇、〇〇〇
六	年	〇	〇	〇	六、三三三、〇〇〇	〇	〇	六、三三三、〇〇〇
七	年	〇	〇	〇	一〇、九〇九、五〇〇	〇	〇	一〇、九〇九、五〇〇
八	年	〇	〇	〇	一〇、九〇九、五〇〇	〇	〇	一〇、九〇九、五〇〇
九	年	〇	〇	〇	〇	六、七〇〇	〇	六、七〇〇
十	一	一、三、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	一、三、〇〇〇、〇〇〇
十	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十	四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
合計		〇	〇	〇	一五八〇、〇〇〇	〇	〇	一五八〇、〇〇〇

年	普通募集	臨時特別發行	證券交換發行	紙幣交換發行	預備代價發行	請願代價發行	合計
三十二年	0	0	0	0	0	0	0
三十一年	0	1,710,000	0	0	0	0	1,710,000
三十年	0	3,800,000	2,000,000	0	0	0	5,800,000
二十九年	10,000,000	3,000,000	0	0	0	0	13,000,000
二十八年	7,900,000	1,000,000	0	0	0	0	8,900,000
二十七年	1,000,000	0	0	0	0	0	1,000,000
二十六年	1,000,000	2,000,000	1,500,000	0	0	0	4,500,000
二十五年	1,000,000	0	0	0	0	0	1,000,000
二十四年	5,000,000	2,000,000	1,000,000	0	0	0	8,000,000
二十三年	0	0	3,000,000	0	0	0	3,000,000
二十二年	11,000,000	0	1,000,000	0	0	0	12,000,000
二十一年	3,000,000	7,000,000	1,000,000	0	0	0	11,000,000
二十年	1,000,000	0	2,000,000	0	0	0	3,000,000
十九年	5,000,000	0	0	0	0	0	5,000,000
十八年	5,000,000	0	0	0	0	0	5,000,000
十七年	1,000,000	0	0	0	0	0	1,000,000
十六年	0	0	0	0	0	0	0
十五年	0	0	0	0	0	0	0
十四年	0	0	0	0	0	0	0
十三年	0	0	0	0	0	0	0
十二年	0	0	0	0	0	0	0
十一年	0	0	0	0	0	0	0
十年	0	0	0	0	0	0	0
九年	0	0	0	0	0	0	0
八年	0	0	0	0	0	0	0
七年	0	0	0	0	0	0	0
六年	0	0	0	0	0	0	0
五年	0	0	0	0	0	0	0
四年	0	0	0	0	0	0	0
三年	0	0	0	0	0	0	0
二年	0	0	0	0	0	0	0
一年	0	0	0	0	0	0	0
合計	37,700,000	3,700,000	22,500,000	1,500,000	22,300,000	19,000,000	104,700,000

三十三年度の計 三七、七〇〇、〇〇〇  
 三二年度の計 三、七〇〇、〇〇〇  
 三一年年度の計 二二、五〇〇、〇〇〇  
 三十年年度の計 一四、五〇〇、〇〇〇  
 二十九年年度の計 二二、三〇〇、〇〇〇  
 二十八年年度の計 一八、〇〇〇、〇〇〇  
 二十七年年度の計 一、〇〇〇、〇〇〇  
 二十六年年度の計 四、五〇〇、〇〇〇  
 二十五年年度の計 一、〇〇〇、〇〇〇  
 二十四年度の計 八、〇〇〇、〇〇〇  
 二十三年年度の計 三、〇〇〇、〇〇〇  
 二十二年年度の計 一二、〇〇〇、〇〇〇  
 二十一年年度の計 一一、〇〇〇、〇〇〇  
 二十年年度の計 三、〇〇〇、〇〇〇  
 十九年度の計 五、〇〇〇、〇〇〇  
 十八年度の計 五、〇〇〇、〇〇〇  
 十七年度の計 一、〇〇〇、〇〇〇  
 十六年度の計 〇  
 十五年度の計 〇  
 十四年度の計 〇  
 十三年度の計 〇  
 十二年度の計 〇  
 十一年度の計 〇  
 十年年度の計 〇  
 九年年度の計 〇  
 八年年度の計 〇  
 七年年度の計 〇  
 六年年度の計 〇  
 五年年度の計 〇  
 四年年度の計 〇  
 三年年度の計 〇  
 二年年度の計 〇  
 一年年度の計 〇  
 合計 一〇四、七〇〇、〇〇〇

備考  
 本表各年の起債額ハ前ニ掲ケタル起債及償還額統計表ノ備考ニ同シ  
 十二年ニハ起債ノモノナシ

又前表ノ記載額ヲ各種公債ニ区分スレハ左表ノ如シ

公債名稱	普通募集	臨時特別發行	證券交換發行	紙幣交換發行	預備代價發行	請願代價發行	合計
新公債	0	0	0	0	0	0	0
舊公債	0	0	0	0	10,000,000	0	10,000,000
金札引換公債	0	0	0	6,669,250	0	0	6,669,250
秩祿公債	0	0	0	0	0	1,655,850	1,655,850
金祿公債	0	0	0	0	0	1,655,850	1,655,850
舊神官配當祿公債	0	0	0	0	0	3,000,000	3,000,000
起業公債	11,500,000	0	0	0	0	0	11,500,000
中山道鐵道公債	10,000,000	0	0	0	0	0	10,000,000
金札引換無記名公債	0	0	0	7,900,000	0	0	7,900,000
合計	11,500,000	0	0	14,569,250	10,000,000	3,355,850	49,425,100



公債名稱	同次集	募集豫定高	應募高	募集高ニ對スル應募高ノ歩合	募入決定高	實收額
海軍公債	一七〇〇〇〇〇〇	〇	〇	〇	〇	一七〇〇〇〇〇〇
整理公債	三〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一,九〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二,五七〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	〇	一,七五〇,〇〇〇,〇〇〇
鐵道費補充公債	二,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	二,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
鐵道公債	二,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一,五九〇,〇七三,五〇〇	〇	〇	〇	一,七九〇,〇七三,五〇〇
軍事情債	八,九九九,六五〇,〇〇〇	三,四九一,九二五,〇〇〇	〇	〇	〇	三,四九一,九二五,〇〇〇
事業公債	〇	四,一三九,〇五〇,〇〇〇	〇	〇	〇	四,一三九,〇五〇,〇〇〇
北海道鐵道公債	〇	一,四一九,九五〇,〇〇〇	〇	〇	〇	一,四一九,九五〇,〇〇〇
合計	一七,二七〇,〇〇〇,〇〇〇	一,二二四,〇四七,五〇〇,〇〇〇	二,五七〇,〇〇〇,〇〇〇	一四,九九九,一五〇,〇〇〇	三,三三九,五五〇,〇〇〇	一六,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇

前表ノ内普通募集及臨時特別發行ノ起債額ニ就キテ其各種公債ニ於ケル事蹟ヲ概括シ以テ彼此對照ノ便ニ供スルハ敢テ無益ノ業ニアラスト信ス因テ左ニ四表ヲ掲出ス

第一表 (普通募集ノ金額)

公債名稱	同次集	募集豫定高	應募高	募集高ニ對スル應募高ノ歩合	募入決定高	實收額
起業公債	一	一,二五〇,〇〇〇,〇〇〇	二,四七七,七五〇,〇〇〇	一九八,二〇〇,〇〇〇	一,二五〇,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
中山道鐵道公債	二	一〇,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	八,三七六,四〇〇,〇〇〇	一六七,五三三,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四,五〇〇,〇〇〇,〇〇〇
合計	三	一一,二五〇,〇〇〇,〇〇〇	一三,八五四,一五〇,〇〇〇	一九八,二〇〇,〇〇〇	一,二五〇,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇

公債名稱	同次集	募集豫定高	應募高	募集高ニ對スル應募高ノ歩合	募入決定高	實收額
海軍公債	一	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	三,八四八,五〇〇,〇〇〇	一九八,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
整理公債	二	六,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	九,一七四,二五〇,〇〇〇	一八三,四九九,〇〇〇	六,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
鐵道費補充公債	三	二,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一九八,二〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
鐵道公債	四	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	七,一七二,五〇〇,〇〇〇	一九八,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
軍事情債	五	八,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一,八三三,八〇〇,〇〇〇	一九八,二〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
事業公債	六	四,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一,九三三,〇〇〇,〇〇〇	一九八,二〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
北海道鐵道公債	七	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一,四一九,九五〇,〇〇〇	一九八,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
合計	八	二二,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	三二,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一九八,二〇〇,〇〇〇	二二,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二二,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇

合	計	計	計	計
	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇 円	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇 円	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇 円	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇 円
	九〇,〇〇〇,〇〇〇 円	一七,七三〇,三九五〇 円	九〇,〇〇〇,〇〇〇 円	八七,七〇三,四八一,六五六 円
	一七,七三〇,〇〇〇 円	三三五,八一九〇,五〇〇 円	一七,七三〇,〇〇〇 円	一六,七六一,五五九,〇二〇 円
	一七,七三〇,〇〇〇 円	一九,三五六 円	一七,七三〇,〇〇〇 円	

備考

整理公債應募現金ノ代リトシテ六分以上利付ノ公債證券ヲ納付セシメタルモ  
ノハ現金ノ實收ナシト雖モ今計算ノ便宜ヲ圖リ假ニ其額面高フ實收額ト看做  
シテ掲上セリ  
軍事公債募集回次ノ區ニ「三」トアルモノハ第四回發行ノ募集ニ相當スルモノト  
ス蓋シ此公債ハ證券ノ發行ニ付テ四回ノ區分ヲ付シタルトモ第三回發行ハ普  
通募集ノ法ニ依リサルモノナルカ故ニ本表ニハ之ヲ除キ第四回發行ノ募集ノ  
以テ第三次トナシタルモノナリ次ノ第二表及第三表皆之ニ同シ  
軍事公債募入決定高九千萬圓ノ内參千五百圓ハ應募金拂込延滞ノ爲メ其申込  
ヲ無効ト爲シタルニ由リ起債額ニ減少ヲ來シタリ

第二表 (普通募集ノ申込口數)

起業公債	公債名稱	募集應募高	應募申込口數	平均一口應募金額
	回次			
		二四,七七五,二五〇 円	三四,七二五 口	七,一三四七 円

中山道鐵道公債	一	八,三七六,四〇〇	六七八	一二,三五四,五七二
	二	一五,二八四,七〇〇	一,六八六	九,〇六五,六五八
	三	一四,七六八,六〇〇	一九〇一	七,七六八,八五八
	計	三八,四二九,七〇〇	四,二六五	九,〇一〇,四八一
	一	一六,六四二,三〇〇	二,〇〇六	八,二九六,二八一
	二	八,四四七,七〇〇	一,〇二三	八,二五七,七七二
	三	三,八四五,五〇〇	四六一	八,三四一,六四九
	四	五,〇三三,三〇〇	三〇五	一六,五〇二,六二三
	計	三三,九六八,八〇〇	三,七九五	八,九五〇,九二五
	一	一六,五三七,一五〇	一九七四	八,三七七,四八二
整理公債	二	九,一七四,二五〇	一,一〇七	八,二八七,四八九
	三	五,〇二四,三五〇	七二六	七,〇一七,二四九
	四	七,一七一,五〇〇	一,二二二	五,九一七,〇七九
	五	五,七七六,四五〇	一,六一九	三,五六七,九二二
	計	四三,六八三,七〇〇	六,六二九	六,五九〇,七八二
鐵道費補充公債	一	五,四四二,三五〇	六三六	八,五五七,一五四
	二	七,五五四,三五〇	一,五四六	四,八八六,三八四
	計	四,六七〇,九五〇	一,一五〇	四,〇六一,六九六

公債名稱	募集最低價格		應募價格		募入價格	
	最高	平均	最高	平均	最低	平均
中山道鐵道公債	九〇・〇〇〇	九〇・〇〇〇	九一・一五〇	九〇・〇〇五	九〇・〇〇〇	九〇・〇〇八
海軍公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・一〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
整理公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・二〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
鐵道費補充公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・五〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
鐵道公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・五〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
軍事公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・五〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
合計	三三五八二九・〇五〇	三三四六九六・九	二六九九六	四、五三四・六〇七	六四七・〇〇〇	五二一・八一九

第三表 (普通募集ノ價格)

公債名稱	募集最低價格		應募價格		募入價格	
	最高	平均	最高	平均	最低	平均
中山道鐵道公債	九〇・〇〇〇	九〇・〇〇〇	九一・一五〇	九〇・〇〇五	九〇・〇〇〇	九〇・〇〇八
海軍公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・一〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
整理公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・二〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
鐵道費補充公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・五〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
鐵道公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・五〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
軍事公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・五〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
合計	三三五八二九・〇五〇	三三四六九六・九	二六九九六	四、五三四・六〇七	六四七・〇〇〇	五二一・八一九

公債名稱	募集最低價格		應募價格		募入價格	
	最高	平均	最高	平均	最低	平均
中山道鐵道公債	九〇・〇〇〇	九〇・〇〇〇	九一・一五〇	九〇・〇〇五	九〇・〇〇〇	九〇・〇〇八
海軍公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・一〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
整理公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・二〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
鐵道費補充公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・五〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
鐵道公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・五〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
軍事公債	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇一・五〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇	一〇〇・〇〇〇
合計	三三五八二九・〇五〇	三三四六九六・九	二六九九六	四、五三四・六〇七	六四七・〇〇〇	五二一・八一九

備考

起業公債ハ證券券面金額百圓ニ付八拾圓ノ特定價格ヲ以テ募集シタルモノニシテ高價發行ノモノト比較シ難キニ由リ本表ニハ之ヲ除キタリ

六分以上利付ノ國債證券ヲ以テ整理公債ノ募集ニ應シタルモノ、價格ハ總テ券面金額ヲ以テ計算シタルカ故ニ本表ニハ亦之ヲ除キタリ  
應募價格ノ最低ハ募集最低價格ニ又募入價格ノ最高ハ應募價格ノ最高ニ同シ

第四表 (臨時特別發行)

公債名稱	發行	高	發行價格	平均	實收額
整理公債	一九〇八九、一五〇	一九〇、二九五	一九、一四五、五一九、八七〇		
鐵道公債	一五、九〇七、三五〇	九六八〇二	一五、三九八、六四五、六一五		
軍事公債	三四、九一九、二五〇	九九、四五七	三四、七二九、六七三、六五〇		
事業公債	四一、二二九、〇五〇	九四、一五一	三八、七二三、四三三、〇〇〇		
北海道鐵道公債	一、四一九、九五〇	九〇、二四八	一、二八〇、〇五五、〇〇〇		
合計又ハ平均	一一二、四六四、七五〇	九七、二六六	一〇九、二七七、三二九、一二五		

又起債方法ノ區別ニ基キ茲ニ内國公債ノ起債額及實收額竝ニ其歩合等ヲ表出スレハ左ノ如シ

起債方法ノ區別	公債名稱	起債額	合計高ニ對スル歩合	實收額	起債額百圓ニ對スル平均實收額
平價募集	海軍、整理、鐵道、及軍事情債	八〇、九三九、三五〇	〇、一六三	八一、四一八、八六三、三三九	一〇〇、〇〇〇
呼價募集	中山、鐵道、及軍事情債	七九、九八八、七〇〇	〇、一四九	七九、九三三、四三三、七九一	九四、九一九

普通募集	同上定價發行	起業公債	起債額	合計高ニ對スル歩合	實收額	起債額百圓ニ對スル平均實收額	臨時特別發行			合計	
							平價	高價	低價		
證券交換	整理及軍事情債	一七、三七〇、〇〇〇	〇、二七二	一六、七六一、五六九、〇二〇	一〇〇、〇〇〇	九六、四九七	整理、鐵道、及軍事情債	六八、三三五、六五〇	〇、一〇六	六八、二二九、三〇〇	九七、一六六
紙幣交換	整理、鐵道、及軍事情債	三三、五〇〇、〇〇〇	〇、〇五七	三三、五〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	整理、鐵道、及軍事情債	一一、四六四、七五〇	〇、一七五	一一、二八九、二七五	一〇〇、〇〇〇
諸債代價發行	整理及軍事情債	一九、〇八〇、二八〇	〇、二九七	一九、〇八〇、二八〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	整理、鐵道、及軍事情債	一、九〇〇、〇〇〇	〇、〇三三	一、九〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
諸債代價發行	整理、鐵道、及軍事情債	一、九〇〇、〇〇〇	〇、〇三三	一、九〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	整理、鐵道、及軍事情債	一、九〇〇、〇〇〇	〇、〇三三	一、九〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
合計		二八、五九〇、二八〇	〇、四四六	二八、五九〇、二八〇	一〇〇、〇〇〇	九六、七五七	整理、鐵道、及軍事情債	六四、〇六六、九六〇	〇、〇〇〇	六四、〇六六、九六〇	九八、五五三

普通募集ノ内證券交換トアルハ應募現金ノ代リトシテ證券ヲ納付セシメタルモノナリ交換發行及代價發行ハ起債ニ對シ現金ノ實收ナント雖モ今計算ノ便宜ヲ圖リ假ニ其證券高ヲ以テ實收額ト看做シテ掲上セリ

### 第一項 新公債及舊公債

明治四年十一月十九日布告同年十二月十日及五年三月二十四日太政官達竝ニ六年第三百四十一號布告等ヲ以テ從來諸藩へ調達シタル金穀及郷印證文ヲ以テ借入レタル金額ハ之ヲ大藏省へ届出ツヘキ旨ヲ公布セシニ藩債ノ申請高ハ總計七千八百拾參萬貳千九百貳拾七圓四拾九錢七厘ニ達シタリ然ルニ該期限ヲ經過スルモ尙ホ其申請ヲ爲スモノアリテ殆ント際限ナキカ故ニ明治八年第五百十九號ヲ以テ更ニ自今藩債ノ申請ヲナスモ一切之ヲ採用セサル旨ヲ公布シタリ抑本公債ノ起因タル頗ル錯雜ニシテ目錄書ノミニテハ了解シカタクモ虞アルヲ以テ各府縣公債掛ヲシテ出省質疑ノ上施行ニ支障ナカラシムヘキ旨明治六年四月八日大藏省令第五十八號ヲ以テ各府縣ニ令達セリ而シテ同年四月始メテ公債證書ノ交付ニ著手スルニ及ヒ之カ取扱手續ヲ一定センカ爲メ同年六月三十日大藏省ニ於テハ左ノ如ク省議ヲ決シ且之ヲ各府縣ニ通達セリ

一 新舊公債證書各債主へ交付スル時從前ノ本證文引換相渡候筈ニ付若證文中金高年度等明細目錄ニ照會セサル歟又ハ詐偽ノ所爲アルト察スル時ハ證書渡方見合置其段早々當省へ可申立事

一 引換ノ爲差出タル從前ノ證文ハ地方官廳へ取纏メ置追テ當省へ差出可申事

一 金高貳拾五圓以下現金渡ノ分竝ニ明治五年同六年度迄ノ利息金舊債元金ハ其時々可相渡金高ヲ合計シ當省國債寮主任ノ切符相渡候間右ヲ以テ第一國立銀行ヨリ受取渡方可取計事

一 公債證書ニ添ヘテ相渡候明細目錄ハ證書發行條例第二節ノ如ク地方官廳ニテ簿冊ニ登記

シ渡方取計濟ノ上右目錄へ債主毎ニ相渡候證書ノ番號ヲ書記シ當省へ返納可致事

一 藩屏列前後ノ借入金一紙證文ニ相成居候分ハ引揚ニ不及候間裏エ表書金額ノ内何圓ハ公債相立(新)證書相渡候事ト認メ年號月日竝公債掛ノ名印ヲ調シ債主へ下戻シ其假簿冊竝目錄へ書記可致事

一 從前ノ證文無之者ニテ公債證書相渡ヘキ分ハ債主押印ノ請取書取置當省へ可差出事

一 明細目錄書ノ内新舊債引分計算致シ候分モ有之候間朱字證文ノ押印有之候ヲ目的ニ從前ノ證文引揚可申事

又公債證書ノ額面金額ニ就キテハ製造上之ヲ制限スヘキモノナルヲ以テ貳拾五圓未滿ノ金額ニ對シテハ明治六年ヨリ年限ニ應シ一割利引ノ上現金ヲ以テ一時ニ償還スヘキコト藩債處分規則ノ規定スル所ナリ然ルニ其算法ハ未タ府縣官吏ノ熟知セサル所ナルヲ以テ明治六年七月九日之カ算法書ヲ各府縣公債掛ニ配布シタリ

#### 四 朱利年賦支消ノ法

爰ニ金千兩ノ負債アリ年四朱利ニテ二十二年賦ト定メ每年平均同員數ヲ以テ返償スルトキハ一年分何程ト問

答曰金六拾九兩永百九拾八文八分壹厘

術ニ云

一ヲ置キ目安四朱ノ利ニ元一ヲ加ヘ一零四ヲ以テ右一ヲ割時ハ(九六一五三八四六一)トナル之ヲ一年ノ法トス是ニ又一ヲ加ヘ又一零四ヲ以テ割トキハ(一八八六零九四六七四)トナル之

ヲ二年ノ法トス是レニ又一ヲ加ヘ又一零四ヲ以テ割ルトキハ二七七五零九一零三二トナル  
 之ヲ三年ノ法トス以下此ノ如ク年々加除ノ手ヲ經テ終年ニ至レハ即チ二四四五一一一五三  
 三二トナル之ヲ二十年ノ法トス是レヲ以テ一ヲ割レハ則チ元利平均一年分ノ目安ヲ占ム  
 之ヲ元金ヘ乘スレハ則チ年別ノ員數ヲ得ルナリ

一割利引一時償還之法

前件ノ金千兩ヲ償却スルニ三箇年ハ元據ニシテ四米ノ利ノミヲ渡シ四箇年目ヨリ同利二十二  
 年賦トシ此年別金六拾九兩永百九拾八文八分壹厘宛漸償ノ約定ナルヲ都合ニヨリテ二箇年目  
 ノ正月ニ至リ一割利引ニシテ一時ニ償還スルトキハ此現金何程ト問

答曰金六百拾兩永五拾七文九分

術曰

一ヲ置キ目安ニ一割之利ニ元一ヲ加ヘ一一ヲ以テ割ルコト前法ノ如クシ年々加除ノ手ヲヘ  
 テ二十二年ノ末ニ至レハ則八七七一五四〇二六二トナル之ヲ年賦金六拾九兩永百九拾八文  
 八分壹厘ニ乘スレハ即二十二年間一割ト四米トノ利差ヒ減除シテ現金六百六兩永九百八拾  
 文壹分五厘トナル之ニ又四拾兩ヲ加ヘテ金六百四拾六兩永九百八拾文壹分五厘トス之ヲ一  
 一ニテ割レハ金五百八拾八兩永百六拾參文七分七厘トナル之ニ又四拾兩ヲ加ヘ金六百貳拾  
 八兩永百六拾參文七分七厘トス之レヲ又一一ニテ割レハ金五百七拾壹兩永五拾七文九分七  
 厘トナル之ニ又四拾兩ヲ加ヘ合金六百拾壹兩永五拾七文九分ヲ得ルナリ之ヲ現金直シノ定  
 法トス

又各地方數萬ノ申請中或ハ事蹟ノ判明セサルモノアリ或ハ詐偽欺罔ノ疑アルモノアリテ其調査  
 困難ヲ極メ單ニ進達ノ文書ノミヲ以テ事實ノ當否ヲ知ル能ハス是ニ於テ政府ハ大ニ官吏ノ各地  
 ニ派出シ實地ニ就キテ精細ノ調査ヲ遂ケ明治六年第八十二號布告藩債處分規則ニ照シ之カ給否  
 ヲ甄別シ各相當ノ處分ヲ定メ漸ク満足ナル結果ヲ得タリ今聊カ其結果ヲ陳述セシニ前記申請總  
 額ノ内維新ノ初年地方石高ニ應シ政府ヨリ貸與シタル紙幣ノ返納殘額及軍資金等ノ上納未濟額  
 ヲ藩債トシテ申出テタルモノ六百四拾參萬五千九百四拾九圓五錢九厘アリ此金額ハ各藩ヨリ政  
 府ニ對スル處ノ負債ニシテ亦藩債ノ一部ナリト雖モ已ニ舊藩ノ負債ヲ收メテ之ヲ國庫ニ引受ク  
 ルノ日ニ至リテハ債權債務ノ混同ニ由リテ是等ハ自ラ公債處分ヲ要セサルモノト爲ルハ勿論ナ  
 リ其餘天保十四年以前ノ負債及舊藩主ノ私債等ノ類ニシテ公債ニ立ツヘカラサルモノ四千四拾  
 六萬七千參拾七圓七拾錢アリ故ニ差引公債處分ヲ爲スヘキモノハ全ク參千百貳拾貳萬九千九百  
 四拾圓七拾參錢八厘ト爲リタリ因テ此内債額貳拾五圓未濟ノ端數ノ藩債處分規則ニヨリ新舊公  
 債ノ年限ニ應シ一割利引ノ方法ヲ以テ一時ニ現金ヲ交付シ其餘ハ新公債證書若クハ舊公債證書  
 ヲ發行シテ之ニ交付シタリ然レトモ藩債ノ種類ニ由リテハ一時ニ現金ヲ以テ償還シタルモノナ  
 キニアラス又前陳ノ外明治五年中宮方ノ負債ヲ國庫ニ引受ケ舊藩債處分ニ準シ一割利引ノ算法  
 ヲ以テ一時ニ償還シタルモノ參萬四千餘圓アリ又明治十三年第七號布告ニ據リ舊琉球藩ノ負債  
 ヲ一時ニ償還シタルモノ拾四萬餘圓アリ尙ホ核ニ是等ノ處分金高ヲ表出スレハ左ノ如シ

科	目	證券發行高	現金交附高	合計
新	公債	一四二八二五〇〇〇	一六八三三九四〇二	一五九一六四四〇二

舊 公 債	一〇、九七三、七二五、〇〇〇	五四、一九六、九七八	一一、二〇六、九二一、九七八
一時償還(外國債即償)	〇	七、一八八、八八二、八五一	七、一八八、八八二、八五一
宮 方 負 債	〇	三四、〇九一、九一八	三四、〇九一、九一八
舊 琉 球 藩 負 債	〇	一四〇、四二五、五九〇	一四〇、四二五、五九〇
合 計	二三、三九五、五五〇、〇〇〇	七五、八五、九二六、七三九	三〇、九八一、四七六、七二九

備考

一時償還ノ内即償債トハ士族卒へ頃與ノ賞秩ヲ抵當トセル負債北海道開拓費不足知藩事家味ノ渡不足及各地爲替會社ニ對スル負債ニシテ現金ヲ以テ一時償還セシモノヲ云ヒ租稅債トハ舊藩ニ於テ石高借入金ヲ返納シ若クハ軍資金ヲ上納シ又ハ廳費及堤防道路等ノ諸費ニ充ツルカ爲メ納期ニ先タチ租稅ヲ徵收シ或ハ之ヲ抵當トシテ借入レタル負債ヲ云フ

本表中公方及舊琉球藩ノ負債ニ係ルモノヲ除キ其合計高壹千八拾萬六千餘圓ニシテ前文ニ陳述シタル公債處分ヲ爲ス可キ高壹千百貳拾貳萬九千餘圓ニ對シ四拾貳萬貳千餘圓ノ差アルハ一割引利ヲ以テ償還シタルカ爲メ現金ノ交付高ヲ減少セシニ由ル

新公債及舊公債ハ共ニ明治五年ノ起債ニ係ルト雖モ實際證券ヲ交付スルニハ各遲速アリテ新公債ハ明治二十四年舊公債ハ明治十六年ニ至リ始メテ完結ヲ告ケタルモノナリ今毎年ノ交付高等ヲ區別表出スレハ左ノ如シ

年 次	新 公 債		舊 公 債	
	交付高	還納高	交付高	還納高
六 年	八、二四六、三〇〇	〇	七、四八一、〇二五	〇
七 年	三、一〇三、九〇〇	〇	二、七〇五、七五〇	〇
八 年	六九六、一二五	〇	六〇八、四七五	〇
九 年	一八四、五二五	〇	一六五、一五〇	〇
十 年	七五、〇〇〇	〇	一七、五五〇	〇
十 一 年	一一、四〇〇	〇	四、一二五	二七五
十 二 年	一、九〇〇	〇	〇	四、二〇〇
十 三 年	一、五二五	〇	〇	一、一四七、五
十 四 年	四七五	五〇	二、〇七五	〇
十 六 年	〇	〇	四、五二五	〇
二 十 四 年	四、六五〇	〇	〇	四、五二五
合 計	一一、四三三、八〇〇	一、二、九七五、二二五	一〇、九八八、六七五	一五、九五〇、一〇、九七二、七二五

備考

本表還納高トハ交付済證券ノ内處分取消等ノ爲メ還納セシメタルモノヲ云フ

又明治六年以降明治二十四年度迄ニ交付シタル端數現金及一時償還金ヲ總計スルトキハ新公債ハ拾六萬八千參百貳拾八圓四拾錢貳厘舊公債ハ五萬四千百九拾六圓九拾七錢八厘トス其詳細ハ

左表ノ如シ

年 度	新公債端數現金及一時償却金		舊公債端數現金及一時償却金	
	交付高	還納高	交付高	還納高
六 年 期	八〇、五二九、一五四	〇	二四八、一八、六九九	〇
七 年 期	五三、九五八、八五八	〇	二四八、五一、五四三	〇
八 年 期	八三、一一二、七六六	〇	八、三二一、二七六	〇
八 年 度	七、一四七、二四四	〇	七、一四七、二四四	〇
九 年 度	一、三八四、八四三	〇	一、三八四、八四三	〇
十 年 度	二、六三八、〇五三	〇	二、七六三、三七七	〇
十 一 年 度	二、三〇、九六九	〇	二、三〇、九六九	〇
十 二 年 度	一、四四八、〇	一、〇九〇、六六六	四、〇〇〇	八八、三三五
十 三 年 度	六九、四一一	一、八七九、五八九	五〇、二五四九	四九八、五四九
十 四 年 度	一、七七八、一	一、三〇〇、九	五、六四〇、三	三、五二五
十 五 年 度	六、七三三	〇	一、七七八、一	五〇、五七六
十 六 年 度	〇	七、三三四、四	六、七三三	〇、五六〇
十 七 年 度	一、二一九、〇	一、五六七、二	二、九一三	〇、〇〇五
十 八 年 度	〇	〇、七七八	三、四八二	〇、八七三
十 九 年 度	〇	〇	〇、七七八	二、〇六三
合 計	一、七〇、四三三、二八二	二、〇九四、八八〇	一、六八三、三三八、四〇二	五、九七九、〇〇九

年 度	交付高	還納高	交付高	還納高
二十 年 度	〇	〇	〇	〇
二十 一 年 度	〇	〇	〇	〇
二十 四 年 度	三、六三三、四〇一	〇	五、四七九、八八七	〇
合 計	一、七〇、四三三、二八二	二、〇九四、八八〇	一、六八三、三三八、四〇二	五、九七九、〇〇九

備考  
 新公債現金交付高ノ内壹萬四千九百拾九圓八拾貳錢ハ八期ヨリ九年度マテニ一時銷却シタル元利金ニシテ千六百貳拾七圓八二十四年度ノ追加處分ニ係ル利子ノ仕拂額ナリ  
 舊公債現金交付高ノ内百八拾五圓八十年年度以前ニ屬スル一時償却金ナリ

第二項 金札引換公債

金札引換公債ハ當初太政官札民都省札及新圓札ノ所有者ニシテ利子ヲ得ンコトヲ望ム者ノ爲メ之ト引換ニ證券ヲ發行セルモノナリ而シテ之ヲ交付スル方法ハ此等金札ノ所有者ヲシテ東京横濱大阪西京神戸長崎箱館新潟及右ニ接近セル場所ニ於テハ大藏省國債寮(後ニ國債局)若クハ其出張所又ハ第一國立銀行本支店等(又其銀行支店ノ設ナキ場所ニ於テハ其地方管廳(明治十三年條例改正後ハ都府地方官廳ト爲レリ)ヘ該金札ヲ差出シ證券ノ交付ヲ請求セシメ平價ヲ以テ之ヲ交付シタリ而シテ其證券ニハ記名ト無記名トノ二種アリト雖モ明治八年以前ハ無記名證券ヲ請求スルモノ一人タモ之



アルコトナク又九年ヨリ十二年マテハ記名無記名トモ總テ其交付ヲ請求スル者ナカリキ是レ他  
 ナシ當時金利ハ概ネ一割五分餘ニシテ此公債ノ利率ニ超過スルコト九分餘ナリシト一般ニ國債  
 證券ノ價格低落シ秩祿公債證書ノ如キ八分利付ノモノスラ尙ホ八拾圓以内ニテ購買シ得ラル、  
 ノ景況ナリシトヲ以テナリ而シテ明治十三年ニ至リ條例ノ改定前漸ク無記名證券ヲ請求スルモ  
 ノアリ尋テ改定ノ條例ニ據リ爾後明治十六年マテノ間請求者ノ増加ヲ見ルニ至リタルハ當時紙  
 幣價格ノ下落漸次其度ヲ加ヘタルニ而モ此公債ノ元利金ハ金銀貨幣ヲ以テ仕拂フヘキモノトセ  
 ルニ由ルモノニシテ是レ即チ改定條例ノ目的トスル處ナリ今茲ニ證券ノ發行高ヲ各年ニ區分表  
 出スレハ左ノ如シ

發行年	六年	七年	八年	十三年	十四年	十五年	十六年	合計
事由	太政官札及民 部倉札ト交換	太政官札及民 部倉札ト交換	太政官札及民 部倉札ト交換	太政官札及民 部倉札ト交換	太政官札及民 部倉札ト交換	太政官札及民 部倉札ト交換	太政官札及民 部倉札ト交換	太政官札及民 部倉札ト交換
金額	1,500,000	6,311,100	1,500,000	1,500,000	6,175,500	4,175,500	3,311,100	21,882,600
合計	1,500,000	6,311,100	1,500,000	1,500,000	6,175,500	4,175,500	3,311,100	21,882,600

前表合計六百六拾六萬九千貳百五拾圓ノ内五百貳拾壹萬九千五百五拾圓ハ舊條例ニ據リ發行シ  
 タルモノニシテ百四拾四萬九千七百圓ハ條例改定以後ノ發行ニ係ルモノナリ而シテ其請求者ノ  
 種類ヲ區別スレハ銀行會社最モ多數ヲ占メ其高四百四拾六萬五千六百五拾圓ニシテ殆ト全額ノ  
 六割七分弱トス之ニ次クモノハ宮内省ニシテ其高百參拾九萬四千參百圓即チ二割一分弱ニ當リ  
 其餘ノ一割二分強ハ府縣町村ノ團體及皇族華士族及平民ノ一個人ニシテ各少額ニ止マレリ

### 第三項 秩祿公債

明治六年十二月第四百二十五號ヲ以テ秩祿高百石未滿ノ者ニ限り家祿及賞典祿ノ奉還ヲ允許スヘ  
 キ旨ヲ布告シ尋テ七年十一月第百十八號布告ヲ以テ百石以上ノ者ニモ之ヲ許スコト、爲シタル  
 ハ既ニ敘述セルカ如シ此ニ於テ明治七年ヨリ八年ニ亘リ家祿若クハ賞典祿ノ奉還ヲ出願スル者  
 陸續相踵キ其人員總テ十三萬五千八百八十四人ノ多キニ及ヘリ然ルニ奉還者中政府誘導ノ趣旨  
 ヲ辨セス單ニ目前ノ浮利ニ迷ヒ目的ヲ失ヒ爲メニ產業未タ興ラスシテ早ク既ニ困弊ヲ極メ彷徨  
 流離ノ慘狀ヲ呈シ到底就産ノ目的ナキ者少カラス就中東京府及北條縣管下ノ如キハ其弊最モ甚  
 シク秩祿奉還ノ允許ハ却テ得策ニアラサルノ事實ヲ示シタリ是ニ於テ廟議之カ停止ニ決シ明治  
 八年七月ニ至リ太政官達第百二十五號ヲ以テ奉還ノ事ヲ停止シタリ而シテ其處分タルヤ明治九  
 年ヲ以テ一旦結了セシト雖モ其後處分ノ取消若クハ訂正等アリタルカ爲メ延テ明治十五年ニ及  
 ヒ全ク結了ヲ告ケタリ今其資金交付ノ順序ヲ明カナラシメンカ爲メ明治七年三月三日大藏省ノ  
 省議決定ニ係ル順序ヲ左ニ掲出セン

- 一 家祿奉還願出候ハ、之ヲ秩祿課へ受ケ祿高帳ト照合相違無之分ハ別紙雜形之通一府縣限  
 リ資金調帳二冊ヲ製シ(但其府縣限リ)之ヲ頭ニ呈ス頭之ニ檢印ノ上卿輔ノ決判ヲ乞ヒ公債掛  
 へ下付ス右掛リニテ資金可渡旨府縣へ達シ又ハ正金公債券等渡方トモ可取計事  
 但資金高ノ内正金並ニ公債證書ノ割合或ハ各種ノ券渡方割合等ハ別紙伺濟ニ照シ取調可  
 申事

一 府縣ヨリ申請ノ書類ハ右資金調帳ヲ添(以下調帳ヲ之ニ)願ノ一覽ニ供シ秩祿課へ備置可  
申事

右ノ如キ順序ニヨリ資金ヲ交付シタリト雖モ資金被下方規則第二條ニヨレハ其資金ハ公債證書  
ト現金ト凡ソ半額宛ヲ以テ之ヲ交付スヘキモノニシテ且ツ證券ノ額面ニハ自ラ制限アルヲ以テ  
貳拾五圓未満ノ額面ノモノハ發行セザリシニヨリ之カ割合ヲ定ムルノ必要アリ然レトモ之カ割  
合ヲ定ムルニ當リテハ可成の現金ノ支出ヲ避ケ以テ國庫ノ經濟ヲ計ラサル可カラズ是ニ於テカ  
大藏卿ハ明治七年二月二十四日左ノ如ク其割合ヲ定メ度旨太政官へ伺出テタルニ太政官ハ同年  
三月十四日伺ノ通リト指令シタリ

家祿賞典祿奉還之者へ資金渡方之儀ハ營ハ資金高貳百拾圓ノモノ折半百五圓ハ正金百五圓ハ  
公債證書ヲ以テ可相渡等ニ候得トモ公債證書ハ參百圓ヨリ貳拾五圓迄之四種ヲ(參百圓百圓五圓)  
製造致候儀ニ付貳拾五圓以下ノ端金ハ公債證書ヲ以渡方難致然レトモ右端金正金ヲ以テ相渡  
候テハ正金ノ出高相嵩ニ計算上差支ヲ生シ可申因テ別紙割合書ノ通渡方可致存候ニ付此段奉  
伺候也

(別紙)

資金賜候内正金公債證券渡方割合

資金貳百圓以下ノ例

一 資金貳百圓以下ノ分半數公債證券可相渡高ノ内貳拾五圓以下ノ端金ハ悉皆正金ヲ以相渡  
可申則凡例左ニ

一家 米肆七石四斗六箇半分

代金百九拾九圓八拾錢 但一石ニ付凡金四圓五拾錢カへ以下同

内 七拾五圓 公債證券

但本文百九拾九圓八拾錢折半九拾九圓九拾錢公債證券可相渡處七拾五圓迄ハ各種ノ券  
ヲ渡殘貳拾四圓九拾錢ハ正金渡ノ方へ結込可相渡事

一家 米肆一石八斗六箇半分

代金四拾八圓六拾錢 皆正金渡

但本文金高折半シ貳拾五圓未満ニ付悉皆正金渡シ可致事

資金貳百圓以上四百圓迄之例

一 資金高貳百圓以上四百圓迄其半數ハ公債證券ヲ以可相渡等ノ處各種ノ證券ヲ渡シ殘端金  
拾貳圓五拾錢(但貳拾五圓之公債)以下ニ候得ハ是ヲ正金ニテ渡シ拾貳圓五拾錢以上ノ分ハ貳  
拾五圓之公債證券ヲ以相渡シ其過スル金高ハ正金ノ内ニテ相減可申則凡例左ノ通

一家 米肆八石三斗六箇半分

代金貳百貳拾四圓拾錢

内 百貳拾四圓拾錢 公債證券

但本文貳百貳拾四圓拾錢ノ内百拾貳圓五錢公債證券可相渡等ノ内百圓ノ券ヲ渡シ(貳拾  
五拾錢ナリ)以差引端金拾貳圓五錢正金渡ノ部へ結込可相渡事

一家 米肆八石八斗六箇半分

代金貳百參拾七圓六拾錢

內 百貳拾貳圓六拾錢 正金

但本文貳百參拾七圓六拾錢ヲ折半百拾八圓八拾錢公債證券ヲ以可相渡內百圓迄ハ各種ノ券ヲ渡ス殘端金拾八圓八拾錢(則拾貳圓五拾錢)此處へ貳拾五圓ノ券ヲ渡シ候得ハ六圓貳拾錢過上此分正金渡ノ内ニテ差引減シ置候

資金四百圓以上ノ例

一 資金四百以上ノ者ハ半數公債證券ヲ以可相渡高ノ内貳拾五圓以下之端金モ數ノ多少ニ不拘悉皆公債證券ヲ以相渡正金ノ方相減可申則凡例左ニ

代金四百參拾貳圓

內 貳百貳拾五圓 公債證券渡

但本文四百參拾貳圓ヲ折半貳百拾六圓公債證券可相渡處貳百圓證券ヲ渡差引端金拾六圓也此處へ又貳拾五圓ノ券ヲ渡シ候得ハ九圓證券之方過ス之ヲ正金渡ノ内ニテ引去リ可相渡積リ以下右ニ準シ可取計候也

右經伺ノ要ハ資金額五拾圓以下ノモノニハ悉皆現金ヲ以テ之ヲ交付シ次ニ貳百圓以下ノモノニハ貳拾五圓以下ノ端金ヲ現金ニテ交付シ次ニ四百圓以下ノモノニハ貳拾五圓ノ半額即チ拾貳圓五拾錢以下ノ端金ハ現金ヲ以テ交付シ同額以上ノ端金ハ貳拾五圓券ノ公債證券ヲ以テ交付シ其不足ハ現金ヨリ補足シ終リニ四百圓以上ノモノニ對シテハ貳拾五圓以下ノ端金ト雖モ公債證券

ヲ以テ交付シ其不足額ハ現金ヨリ補足スルニアリ然ルニ明治七年十一月ニ至リ百石以上ノモノモ奉還ヲナスヲ許容セラル、ヤ同時ニ布告第百十九號ヲ以テ資金被下方規則中ヲ改定シテ百石以上奉還ノモノニハ五十石ハ現金其他ハ公債證券ヲ以テ交付スルコト、セリ是ニ於テ大藏卿ハ前記四百圓以上ノモノニ對スル例ニ倣ヒ貳拾五圓以下ノモノト雖モ其端金ハ總テ公債證券ヲ以テ交付シ其不足ハ現金ヨリ補足スルコトニ定メラレ度旨明治七年十一月十九日太政官へ伺出テタルニ太政官ハ同年十二月十二日伺之通ト指令シタリ其稟議ハ左ノ如シ

士族以下家祿賞典祿百石以上ノ者モ奉還被開屆候就テハ資金渡方改正云々當年第百十九號ヲ以公布相成候處右規則之内第二條ニ譬へハ百五十石奉還ノ者ハ内五十石分ハ現貨百石分ハ公債證券ヲ以相渡スト有之候へ共兼テ上申致置候通公債證券ハ(參百圓百圓五)之四種ヨリ製造不致然ルニ百石分ノ代價ニ貳拾五圓以下ノ端金出來候節之ヲ正金ニテ相渡候テハ是迄資金四百圓以上ノ者へ相渡候現貨證券割合ノ定規ニ(乙號ノ通り先般何)悖戻シ且正金出高相嵩自然差支可相生モ難計因テハ百石以上奉還ノ者へモ乙號之割合ニ準シ別紙比例甲號之通渡方取計可然哉(中)早々御下知被下度候也

甲號

家祿百石以上奉還願出候者へ下賜候資金之内現貨公債證券割合凡例左ニ

家祿百五十拾石奉還高

內 百石六箇年分

合米六百石

代金貳千七百四拾八圓 (將ハ一石ニ付四圓)  
(此分證券ノ内ヨリ可相渡答ニ候ヘ共貳拾五圓以下ノ證券無之ニ付左ノ)  
 正金渡ノ内ヨリ貳圓ヲ足シ候部合貳千七百五拾圓ノ公債證券ヲ渡ス  
 内 五十石六箇年分

合米三百石

代金千參百七拾四圓 (同上)

(此分現貨ヲ以可相渡處公債證券渡方部合ニ寄本文ノ内貳圓ヲ引去公)  
 債券ニテ渡ス因テ殘金千參百七拾貳圓ヲ現貨ヲ以下渡スヘキコト

メ資金高四千百貳拾貳圓

内 現貨千參百七拾貳圓渡ス

證券貳千七百五拾圓渡ス

右割合之通相渡候就テハ假令公債證券ヲ以可相渡端金壹錢壹厘之少數タリトモ貳拾五圓ニ滿ル迄之殘員數ハ正金渡之方ニテ引去本文ニ準シ渡方取計積ニ候也

(乙號略ス)

以上ノ如ク政府ハ可成的現金ノ支出ヲ避ケ公債證券ヲ以テ支給スルノ方針ニヨリタリト雖モ實際小祿奉還者ノ多キト證券ノ最小券面金額貳拾五圓未滿ノ端數ニ對シテ現金ノ支出ヲ要スルモノ少カラサルトニヨリ遂ニ公債證券交付額千六百五拾六萬五千八百五拾圓現金交付額千九百參拾貳萬六千八百貳拾九圓七拾八錢五厘總計參千五百八拾九萬貳千六百七拾九圓七拾八錢五厘ニシテ現金ノ支出ハ公債證券ヲ超過スルコト貳百七拾六萬九百七拾九圓餘ニ及ヒタリ此ノ如ク一時巨額ノ支出ヲ要セシト雖モ右支辨ノ目的ヲ以テ明治六年中英圖ニ於テ額面千七百七拾壹萬貳千

圓ノ公債ヲ募集シタルニヨリ其收入金ヲ以テ之ニ充テ其他ハ普通歳入ヲ以テ支辨シタリ依テ之カ爲メ生スル國庫ノ負擔ト毎年支給ス可キ秩祿トヲ比較センニ右ノ資金及公債證券ノ總額參千五百八拾九萬貳千六百七拾九圓餘ニ對シ假ニ八分ノ利子ヲ付スルモノト看做ストキハ毎年ノ利子ハ貳百八拾七萬四千四百圓餘ナリト雖トモ奉還ノ祿高六百九萬八千九百五拾參圓餘(内米給百八拾貳萬五千七百六拾七升一合金給)ハ毎年支出ヲ免ル、ヲ以テ之ヨリ右ノ利金ヲ控除スルモ猶參百貳拾貳萬七千五百五拾參圓餘ハ國庫ノ利益トナル可キモノナリ故ニ之カ差額ヲ以テ資金ノ總額參千五百八拾九萬貳千圓餘ヲ償却スルモノトセハ凡ソ十一箇年ニシテ此ノ負擔ヲ免ルルコトヲ得ヘク又此奉還高ヲ明治七年ノ家祿及賞典祿支給額貳千六百貳拾貳萬千七百參拾圓拾五錢七厘ニ對比スレハ凡ソ四分一ヲ減スルコト、ナルナリ而シテ右公債證券ハ明治七年ヨリ九年マテノ發行ニ係ルヲ以テ其間ニ於ケル證券發行高及證券ニ附帶シテ交付シタル現金高トヲ表出スレハ第一表ノ如シ然レトモ實際ノ交付ハ明治十四年度ニ亘リ其間處分取消ノ爲メ返納ヲ爲シタルモノ尠カラサルヲ以テ更ニ交付ノ年度ニヨリ之ヲ區別スレハ第二表ノ如シ

第一表

年	次	證券發行額	現金交付高	計
七	年	六三、五二、九〇〇	七、六八三、七六一〇二四	一四、〇三六、六六一〇二四
八	年	一〇、二〇五、五五〇	一一、六三〇、七六〇九一〇	二一、八三六、三一〇九一〇
九	年	七、四〇〇	一一、三〇七、八五一	一九、七〇七、八五一
合	計	一六、五六五、八五〇	一九、三二六、八二九七八五	三五、八九二、六七九七八五

第二表

年 度	証書交付高		証書還納高		差引交付高		現金交付高		現金還納高		差引交付高	
	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期
七 年 期	五,八六八,七三五	一	五,八六八,七三五	一	七,八三七,二一九	七,八三七,二一九	〇	七,八三七,二一九	〇	七,八三七,二一九	〇	七,八三七,二一九
八 年 期	二,八一八,三五〇	一	二,八一八,三五〇	一	三,八四〇,四三八	三,八四〇,四三八	〇	三,八四〇,四三八	〇	三,八四〇,四三八	〇	三,八四〇,四三八
八 年 度	七,九五六,七七五	一	七,九五六,七七五	一	七,九五四,七七五	七,九五四,七七五	〇	七,九五四,七七五	〇	七,九五四,七七五	〇	七,九五四,七七五
九 年 度	一,四八,九五〇	一	一,四八,九五〇	一	三,七二,七五	三,七二,七五	〇	三,七二,七五	〇	三,七二,七五	〇	三,七二,七五
十 年 度	六〇〇	〇	八,九五〇	〇	八,三五〇	八,三五〇	〇	八,三五〇	〇	八,三五〇	〇	八,三五〇
十 一 年 度	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十 四 年 度	五〇	〇	三〇,四二五	〇	三〇,三七五	九,二六六	〇	九,二六六	〇	九,二六六	〇	九,二六六
合 計	一六,七九一,四五〇	三三,三〇〇	一六,五八八,一五〇	一六,五八八,一五〇	一六,五八八,一五〇	一六,五八八,一五〇	一六,五八八,一五〇	一六,五八八,一五〇	一六,五八八,一五〇	一六,五八八,一五〇	一六,五八八,一五〇	一六,五八八,一五〇

又前表ノ資金及受給者ヲ使府縣ニヨリ區別スレハ左表ノ如シ

使府縣名	人 員	証書發行高	現金交付高	計
開 拓 使	一,四一三	二二七,一〇〇	二一九,七〇三	四四六,八〇三
東 京 府	四,七四八	一,一三二,四九五	一,〇四七,〇三三	二,一七九,四八八
京 都 府	二,四二九	三三九,三七五	三六七,二五〇	七一六,六二五
大 阪 府	五四〇	七六,一五〇	八一,九六八	一五八,一一八

神奈川縣	兵 庫 縣	長 崎 縣	新 潟 縣	堺 縣	奈 良 縣	三 重 縣	愛 知 縣	靜 岡 縣	足 柄 縣	千 葉 縣	群 馬 縣	栃 木 縣	新 治 縣
一九二	七三七	二,一四九	二,七四三	一,一〇四	二,二七〇	二,七二七	八七三	五,九一九	三,一七八	二,八六八	三〇四	一,〇三三	五,三三二
三三,七五〇	一四,五八二	一三三,三二五	二二,七七五	一六,九八七	二六八,〇七五	四〇〇,一五〇	一四二,六五〇	九〇四,八五〇	四九四,〇七五	三九四,四七五	四五,七五〇	二〇〇,一七五	八六,四二五
三二,二四七	一三,九一七	一二八,四八四	二六,三七八	一七,六一一	三四二,一九一	四一八,三二四	一五七,一九九	九七三,九〇四	五〇一,六三三	四二二,八四三	四四,四三五	二〇八,〇六八	八七,四三三
六三,九九七	二八,〇一五	三六〇,八九二	四七,六五九	三四五,九八六	六一〇,二六六	八一八,三七二	二九九,八四九	一,八七八	九九五,七〇七	八〇七,二八九	九〇,一八五	四〇八,二四三	一七,三五七
一,七四二	二,一六七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二〇八,七七五	二七八,四〇〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二二,二四七	一三,九一七	一二八,四八四	二六,三七八	一七,六一一	三四二,一九一	四一八,三二四	一五七,一九九	九七三,九〇四	五〇一,六三三	四二二,八四三	四四,四三五	二〇八,〇六八	八七,四三三
四四〇,二二二	六二一,〇五一	一〇,二二〇	一〇,二二〇	一〇,二二〇	一〇,二二〇	一〇,二二〇	一〇,二二〇	一〇,二二〇	一〇,二二〇	一〇,二二〇	一〇,二二〇	一〇,二二〇	一〇,二二〇

新川縣	石川縣	秋田縣	鶴ヶ岡縣	置賜縣	山形縣	青森縣	巖手縣	磐井縣	福島縣	磐前縣	宮城縣	滋賀縣	岐阜縣	長野縣	筑摩縣	山梨縣	茨城縣
七九六	六六七四	三五六五	八七五	一二六	四一五	五〇六	五八一	四三	一二七	一四〇九	二六三〇	二七四二	一四二六	二〇二三	一一四六	一四八	二八七三
五四三五〇	七六〇三五〇	二八四八〇〇	八七三五〇	五〇〇	一五二七五	七三九五〇	六二四二五	三、五〇〇	五、三七五	一一二、八二五	一〇八、三二五	二二六、四〇〇	一九八、二七五	二二七、〇〇〇	二二九、五二五	二七、六〇〇	一一八、〇〇〇
七六、二一六、五〇四	八八六、二〇〇、一三七	三四一、五六一、一二四	一〇一、五一七、三三六	三、二〇〇、七六一	二八、九六二、六四一	一三八、八五四、五四五	七三、二六九、六三四	三、九九二、七八九	一三、九七六、七九〇	一五九、〇〇八、八〇四	二六〇、八一三、一〇一	三一九、三〇四、六七六	二二一、二八八、三九五	二七七、八八一、七一四	一四八、六〇四、三〇三	二五、五七〇、四二九	三三〇、一六四、二二〇
一三〇、五六六、五〇四	一、六四六、五五〇、一七三	六二六、三六一、一二四	一八八、八六七、三三六	三、七〇〇、七六一	四四、二三七、六四一	二二二、八〇四、五四五	一三五、六九四、六三四	七、四九二、七八九	一九、三五一、七九〇	二七一、八三三、八〇四	三六九、一三八、一〇一	五四五、七〇四、六七六	四一九、五六三、三九五	四九四、八八一、七一四	二七八、一二九、三〇三	五三五、一七〇、四二九	三四八、一六四、二二〇

敦賀縣	豐岡縣	北條縣	飾磨縣	濱田縣	小田縣	鳥取縣	岡山縣	廣島縣	山口縣	島根縣	小倉縣	三浦縣	大分縣	高知縣	愛媛縣	名東縣
六六五	一、九八六	一、七五九	三、三九〇	一〇七	三、一〇八	八一〇	三、九六二	五、四一一	一、一五八	二、三四九	一、九八一	一、〇三九	三、六〇五	二、四二二	三、七七四	六、一八一
四四、七七五	一六三、〇五〇	一六〇、一〇〇	三六九、五五〇	一六、四七五	三三〇、三〇〇	六二、六七五	三四一、〇七五	八五九、二五〇	三六、五〇〇	五〇七、八二五	二八〇、四〇〇	一六二、九二五	四四五、七二五	二四四、八〇〇	五三四、四五〇	八一三、六〇〇
七九、八五三、一〇二	一九五、一〇九、〇九六	二二二、六〇八、二八八	四六八、八九九、九九六	一七、九六六、七一五	三六七、二七五、三一五	八二、五七三、五三六	四九八、五四一、七八一	九〇九、八八〇、七五九	九六、八二〇、八一五	四九九、七一〇、二二四	三一四、六五七、四九八	一八三、四〇七、三〇三	五一五、三二八、六三四	二九二、九八五、九四六	六二五、七七六、七〇四	八九四、一五四、〇三八
一二四、六二八、一〇二	三五八、一五九、〇九六	三八二、七〇八、二八八	八三八、四四九、九九六	三四、四四一、七一五	六八七、五七五、三一九	一四五、二四八、五三六	八三九、六一六、七八一	一、七六九、一三〇、七五九	一三三、三二〇、八一五	一、〇〇七、五三五、二二四	五九五、〇五七、四九八	三四六、三三二、三〇三	九六一、〇五三、六四三	五三七、七八五、九四六	一、一六〇、二二六、七〇四	一、七〇七、七五四、〇三八
一、五九八、二三一、五二四																

和歌山縣	白川縣	佐賀縣	宮崎縣	鹿兒島縣	香川縣	合計
七,四四二	二,二六九	八一六	二,〇〇四	二五	一	一三五,八八三
五七五,三〇〇	二〇五,四五〇	五四,四五〇	九,四〇〇	二,〇二五	〇	一六五,五六五,八五〇
八七九,三三四,〇一〇	二七六,九五七,一四四	九五,三一五,〇一八	一六,二三一,三三八	三,六五八,四八六	一七二,六六五	一九,三二六,八二九,七八五
一,四五四,六三四,〇一〇	四八二,四〇七,一四四	一四九,七六五,〇一八	二五,六三一,三二八	五,六八三,四八六	一七二,六六五	三五,八九二,六七九,七八五

受給者ニ交付ス可キ公債證書ト現金トノ割合ハ既ニ述ヘタル如シト雖モ公債證書ノ券面ハ其給與額ノ多少ニヨリ斟酌セサル可カラサルヲ以テ何レモ明治七年三月中經伺ニ係ル證券配當ノ割合ニヨリ交付シタルモノナリ左ニ其割合ヲ掲ケン

- 一 七百圓以上ノモノハ參百圓券貳枚ヲ加ヘ其他ハ適宜ノ額面ヲ以テスヘシ
- 一 五百圓以上ノモノハ可成參百圓券ヲ以テシ其他ハ百圓五拾圓貳拾五圓券ノ内ヲ以テスヘシ但六百圓ノモノハ參百圓券一枚百圓券三枚ヲ以テスヘシ
- 一 貳百圓以上ノモノハ可成百圓券ヲ以テシ其他ハ五拾圓貳拾五圓券ノ内ヲ以テスヘシ但參百圓ノモノハ百圓券一枚ヲ加フヘシ
- 一 貳百圓以下ノモノハ五拾圓券及貳拾五圓券ヲ以テスヘシ

#### 第四項 金祿公債

金祿公債ハ封建ノ遺法タル華士族及平民ノ祿制ヲ廢止シ國家財政ノ基礎ヲ鞏固ニセントスルノ目的ヲ以テ起シタルモノニシテ實ニ我國維新ノ大業ニ伴フ顯著ノ事業ナリトス其起債ノ由來目的及方法等ハ既ニ之ヲ陳敘シタリ請フ今一步ヲ進メテ證券發行ノ概況ヲ述ヘン

舊藩主及其士民ノ家祿賞典祿ハ明治四年七月廢藩置縣後ハ直接ニ國庫ヨリ支給スルモノトシ爾來數年間之ヲ繼續シタリト雖モ明治九年ニ至リ大ニ其制度ヲ改メ渾テ華士族及平民ノ祿制ヲ廢止シ全ク公債處分トナシタリ而シテ明治十年六月三十日ニ於ケル處分概定高ハ壹億七千參百參拾六萬九千九百壹圓餘ニシテ内現金支給高八拾萬六千四百貳拾六圓餘ヲ控除シ全ク證券ヲ發行スヘキ高ハ壹億七千貳百五拾五萬五千四百七拾五圓ナリトス

尙ホ之ヲ利率ノ差等ニ由リテ區別スレハ左表ノ如シ

區別	證 券 額 面 高
五分利付	三一,二八五,〇九五
六分利付	二五,〇七四,九〇〇
七分利付	一〇七,五八九,九一〇
一割利付	八,六〇五,五七〇
合計	一七二,五五五,四七五





ニシテ總人員ニ於テ重複スルモノヲ云ヒ本籍ト重複トハ一人ニシテ家籍ト從  
典籍トヲ併有セル者各別ニ公債處分ヲ受ケタルニ由リ自ラ本表人員ニ重複ヲ  
生シタルモノヲ云フ

前表ニ掲クル御手當追渡及賜高ノ三者ニ就テハ茲ニ聊カ説明ヲ要スヘキモノアリ即チ御手當ト  
ハ華族ニシテ家祿賞典祿ヲ奉還シ及士族以下ノ者明治六年第四百二十五號布告以前ニ於テ  
同シク奉還ヲ爲シ何レモ同年第四百二十六號布告ノ資金被下方規則ノ適用ヲ受ケサリシ輩ヘ特  
ニ金祿公債證書ヲ交付シタルモノヲ云ヒ又追渡トハ舊名古屋藩募集ノ兵士及雜使ト唱フル者ニ  
對シ追加處分ヲ爲スニ方リ九年以前ニ屬スル給祿不足ノ高ヲモ十年以降ノ分ト併セテ金祿公  
債證書ヲ以テ給與シタルモノニシテ終リニ賜高ナルモノハ明治十二年四月琉球藩ヲ廢シ内地ト  
同シク新ニ縣治ノ制ヲ布クニ方リ舊藩王尙泰ヘ一割利付金祿公債證書ヲ下賜セラレタルモノト  
ス而シテ此等三種ノ證券發行ハ皆特殊ノ處分ニ出ツルモノニシテ之ニ關スル當時ノ文書ハ以テ  
其事蹟ヲ考證スルニ足ルヘシ依テ左ニ之ヲ抄出ス

大藏省伺 (明治九年十一月十七日)

華族前田利總本多康稷戸田忠綱三名儀去ル庚午辛未年之際國家多事政府ノ費用萬般ニ涉リ最  
困難ノ折柄右三名自家ノ奉承ヲ節約シテ一ハ藩債ノ支消ヲ患ヒ一ハ國家ノ多費ヲ患ヒ就レモ  
政府歲計ノ一端ヲ裨補セントノ赤心立願ニ出別紙頭書ノ通各永世奉還ノ舉アリ今日ヨリ之ヲ  
回顧思考仕候ニ一時國家多端之折柄神妙ノ立意御採用相成候得共家祿ノ儀ニ付テハ追々御規  
則モ被仰出候折柄右三名ノ奉還ノ儘依然御差置相成候モ如何可有之哉且ハ先年奉還ノ節別

ニ賜リ物等モ無之旁以即今一般家祿之御處分ト格外不平均ノ御處分不相成候様仕度依テ勘考  
候處別紙之通一名コトニ先年奉還ノ金高ヲ三箇年分ツ、奉還ノ御手當トシテ來ル十年ヨリ發  
行金祿公債證書ヲ以一時下賜候方ト存候右三名ヘ今般下賜候ハ、別紙借侶華族大谷光尊外二  
名儀モ昨八年中奉還御聽屆後何等御手當等モ無之尤奉還ノ旨趣前文三名トハ稍異同モ有之候  
得共御手當可下賜筋ニ於テハ同様平均之御處分相成度則別紙計算書前三名同様御手當一時下  
賜方取調相候將又士族ノ内去ル辛未年廢藩後新縣治ニ至リ一般御手當被下方内規則モ無之  
時ニ際シ家祿ヲ奉還シ歸農致シ候旨屆濟ニテ其儘打過候者稀ニ可有之此等ハ人名員數當今取  
調方相立兼候得共約リ僅少ノ高ニテ最稀有ノ儀ト存候得共萬一前文恩賜ノ舉傳承御手當被下  
度旨願出候者有之候ハ、其實實地取調同様下賜候積リ豫定致シ置度依テ此段モ併セテ及上陳  
候條特別ノ高議ヲ以御裁可有之度別紙相添此段伺候也 (別紙略)

太政官指令 (明治九年十一月十八日)

伺之趣開屆別紙之通相違候事

(別)

從四位前 田利總

先般家祿ノ内千四百三十六石五斗奉還候ニ付特別ノ詮議ヲ以爲手當金壹萬五千八百八拾參圓  
四拾八錢貳厘來明治十年發行金祿公債證書ヲ以下賜候事

(外本多康稷以下五名ニ對スル違文ハ大同小異ニ付略ス)

內務兩省 (明治九年九月二十日)

大藏兩省

舊名古屋藩ニ於テ去ル明治戊辰年前後勤王ノ爲メ募集候兵士(此兵士元身分種々ノ者ニテ多ク  
ハ草莽間ヨリ召集スル者ニテ多ク  
テハ隊名數種ニ立有之候)凡千二百七十二人外ニ山同心農同心ト唱へ同シク兵役ニ從事セシ  
者百五十三人雜使ト唱へ藩内雜事ニ使役セシ者凡ソ二千八百五十五人都合四千二百八十八人族  
籍給祿トモ去ル辛未壬申年間廢藩置縣ノ際處分一定セス本人共ヨリ苦情歎願百出スト雖モ縣  
官及舊參事輩申立ル所不分明ノ慶不尠途ニ今日迄百端調査仕リ漸ク今般明晰了解致候得共多  
人數復舊之儀ニテ一般ノ影響ニ關シ不容易次第ニ付再三再四討議審按候處右人員今般復舊可  
致ハ萬不得止之儀ニテ一々確證明文ヲ徴シ成規ニ的合致シ候儀ニ付他ノ影響ニ關シ候後患ハ  
無之ト見込候且右人員各種ニ別レ各自來歷區々ニシテ其區々タル筋脈ヲ分晰セサレハ復舊處  
分ノ由緣明白難相成然ル處是迄調査濟ノ書類多數且推問答辯ノ順序最煩重ニ候得共一々其順  
序ニ就キ高覽ヲ經サレハ事實御洞解難相成依テ別紙一覽表ヲ製シ竝沿革概目ヲ略記シ其間ニ  
兩省意見ヲ付シ首尾顛末ヲ完結シテ一讀ノ下御了解相成候様調査ノ上別冊第一號ヨリ第十號  
迄綴添へ而シテ兩省見込相立族祿永世竝終身ノ區分其他是迄渡不足ノ分トモ來ル十年ヨリ束  
ネテ金祿公債證書ヲ御給與ノ見込等熟議ノ上別紙ニ上陳候右ハ特別ノ高議ヲ以御裁可有之度  
此段相伺候也 (一覽表ヲ略ス)

沿革概目竝復舊見込 (沿革概目ハ略ス)

前條惣人員種類査定ノ趣ニ據リ今般御處分可相成見込左ノ通

- 一 拔群有功隊兵士 二十六人 永世士族ニ編入  
シ永世祿ヲ給ス
- 一 有功隊兵士 四百十三人 前同斷

一 山同心 百一人 前同斷

一 農同心 五十二人 實際ニ代ヲ賜フ者ハ永世一  
代ノ者終身祿平民籍ニ入ル

一 但多クハ一代ノ者ニ有之候

一 宿持雜使 八百四人 永世士族永世祿

抱替二代勤續雜使 農同心ト同斷

抱替雜使 合千二百三十一人

一 昇轉卒 八百二十人 永世士族永世祿

右ハ一般處分ノ公規ニ照ラシ見込具狀致シ候右之通御裁可相成候ハ、總人員祿高ノ儀ハ更ニ  
調定可致儀ニ有之一體是迄差出有之候帳簿ニ記載ノ祿高ハ舊藩中未タ改正ヲ經サル者ニシテ  
若シ下賜相成候ハ、更ニ舊藩士族卒ノ改正式ニ照準シ調出候積リニ付即今祿高概數難相分將  
又右御裁可相成候ハ、總人員へ祿高渡方ノ儀ハ前文陳述ノ通元來兵士ハ節減御取消後一時俸  
給壬申癸酉二箇年分既ニ渡濟雜使ハ代數ニ據リ一時俸給二箇年分ヲ賜リ一旦處分相濟候處追  
追苦情不止ヨリ途ニ再三再四調査ノ上是迄ノ處分全ク失誤ノ姿ニ相成リ而シテ其失誤ノ來歷  
ヲ推究候へハ到底廢藩後ノ引繼方竝之ヲ引受候新縣官共ニ曖昧模稜ノ取扱方仕來リ立願ノ本  
人共ト雖昨八年ニ至リ初テ舊記ヲ見出シ心付候程ノ儀ニ付之ヲ要スルニ上下交々心得方疎漏  
ノ所致ナリト可申歟右等ノ事情ヲ推シ候へハ外復舊之處分トモ稍異狀ノ次第ニ有之且ハ本年  
第百八號ヲ以テ家祿ノ制限ヲ改定セラレ金祿公債證書發行候折柄旁以是迄渡不足ノ分竝當九

年分渡高トモ來ル十年分ヨリ京ネテ悉皆公債ニ立證書ヲ以御給與相成候方時宜適當ノ儀ト相考候尤此儀ハ縣官ヘモ篤クト及諮詢候處右ニテ異存無之實際支障有之間敷旨申出候一付總人員族祿復舊ノ大體御決議ノ上ハ是迄渡不足ノ分トモ公債證書ヲ以御給與ノ儀モ併テ御裁可有之度右兩條御裁可相成候ハ、實際永世終身ノ區別其他祿高ノ多寡確實調査ノ上更ニ復舊ノ旨本人共ヘ可相達手續ニ有之候此段見込上陳候也

太政官指令 (明治二十九年九月二十三日)  
何之通

内務兩省達 (明治二十九年十月二十八日)

去ル七年十二月中伺替申出候舊名古屋藩元兵卒族祿處分之儀舊參事輩竝本縣舊官員取調方疎漏ノ廉々確證明白ニ歸シ本年第二百二十三號公布被 仰出候以前正院伺濟ニ付是迄及指令候廉々悉皆取消シ左之通更ニ指令候事

一 元拔群有功隊及ヒ有功隊兵士同心昇轉卒ト唱候者共竝宿持雜使  
右之分士族ニ編入シ永世祿給與可致事

一 元無戰功兵士農同心抱替二代勤績雜使抱替雜使  
右之分舊藩中ニ家系相續候代數ヲ精査シ實際二代以上ヲ襲候者ハ士族ニ編入シ永世祿給與可致一代ノ者ハ終身祿ヲ給シ平民ニ編籍可致候且給與高ノ儀ハ舊藩士族卒改正ノ祿制ニ照準更ニ改正ノ上給與方可伺出候右伺出候上本年第八號ヲ以被 仰出候金祿公債證書發行條例ノ通是迄渡不足ノ分竝來ル十年分ヨリノ給祿共悉皆金祿公債證書ヲ以テ下賜候右ハ今般特別ノ

詮議ヲ以確定相達候ニ付テハ向後異議申立候トモ一切採用不相成候條此旨相心得候事  
但人名員數精確取調金祿帳二冊ヲ製シ可差出竝先年中下渡候金米トモ返濟差引等は亦委詳取調可申出事

太政官達 (明治二十七年十月七日)

華族從三位尙泰ヘ一割利付ノ金祿公債證書貳拾萬圓下賜候條渡方可取計此旨相達候事  
又證券ノ發行高ニ就キテ其交付高及還納高ヲ各年次及證券ノ各種類ニ區別スレハ左表ノ如シ而シテ此ニ還納高トハ六分利付證券ヲ交付シタル後之ヲ七分利付ノモノニ改メタルカ如キ所謂處分換ト處分取消等ノ事故トニ由リ還納セシメタルモノヲイフ

年次	五分利付		六分利付		七分利付		一割利付		合	
	交付高	還納高	交付高	還納高	交付高	還納高	交付高	還納高	交付高	還納高
十一年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十二年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十三年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十四年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十五年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十六年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十七年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
十八年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇



年度	五分利付	六分利付	七分利付	一割利付	合計
岩手縣	○	○	三〇、九七五	九一四、八二〇	九四五、七九五
青森縣	○	六八、八四〇	一、六〇三、三二五	○	一、六七一、一五五
秋田縣	○	二二六、九一〇	二、五二五、一三〇	○	二、七五二、〇四〇
山形縣	○	二七九、四一〇	三、〇七三、〇〇〇	三三〇	三、三五一、六四〇
石川縣	三〇六、七八〇	三、五二四、六三〇	八、八一三、八〇五	○	一二、五四五、二一五
島根縣	四二、九三〇	一、二〇八、六四五	三、八四一、三九五	○	五、〇九二、九七〇
岡山縣	○	二一六、九二〇	二、七五八、二一〇	○	二、九七五、一三〇
廣島縣	二六、四七〇	三二七、〇五〇	一、八二〇、一三〇	○	二、一七三、六五〇
山口縣	一三、八三五	一、〇五八、九三〇	五、四三二、〇三五	一三、四一五	六、五二八、二一五
和歌山縣	二三、三二五	七四〇、五一五	二、〇七〇、九一五	○	二、八三四、七五五
愛媛縣	一五、五七〇	六八三、〇二五	四、一〇八、九二〇	○	四、八〇七、五一五
高知縣	二九二、五八五	二、五七八、〇五五	五、七六三、六五〇	四七六、〇六〇	九、一〇三、三六〇
福岡縣	三四、八五〇	一、九四五、一六五	六、七六一、四五〇	○	八、七四一、四六五
大分縣	○	三三三、七二〇	二、六〇四、四三五	○	二、九七八、一五五
熊本縣	一四、二九五	二、三一〇、四二〇	三、五六〇、七〇五	○	五、八八五、四一〇
鹿兒島縣	八四、八九五	二四二、三五五	四、三五一、二七五	八、四六七、七〇〇	一三、一四六、二一五
合計	三一、四二二、四〇五	二五、〇〇三、七〇五	一〇八、二四二、七八五	九、一八五、七〇〇	一七三、八四四、五〇五

次ニ各年度ニ於ケル端數現金支給高ヲ表出スレハ左ノ如シ

年度	五分利付	六分利付	七分利付	一割利付	合計
十年年度	一、二八二、九六四	○	○	○	一、二八二、九六四
十一年度	○	○	○	○	○
十二年年度	○	○	○	○	○
十三年度	○	○	○	○	○
十四年度	○	○	○	○	○
十五年度	○	○	○	○	○
十六年度	○	○	○	○	○
十七年度	○	○	○	○	○
十八年度	○	○	○	○	○
十九年度	○	○	○	○	○
二十年度	○	○	○	○	○
二十一年度	○	○	○	○	○
二十二年度	○	○	○	○	○
合計	一、二八二、九六四	○	○	○	一、二八二、九六四

備考

十一年度ニハ仕拂ナシ又還納高ノ説明ハ證券ニ同シ

第五項 舊神官配當祿公債

舊神官配當祿公債ハ明治八年大藏省達乙第七十七號ヲ以テ各府縣ニ令シ舊神官ノ祿高ヲ調査セシメタルノ結果遂ニ明治十年第三十二號布告ヲ以テ公債處分ノ事ヲ公布シタルモノナリ而シテ此布告ニ從ヒ同年四月三十日マテニ公債證書ノ交付ヲ其管應ニ申請シタル舊神官ハ其數甚タ多ク結局公債處分ニ與リタル人員四千八十一人ニ達シタリ而シテ之カ調査ヲナスニ當リ事實錯綜セル爲メ容易ニ之カ處分ヲ終了スルヲ得ヌ明治十二年ニ至リ始メテ公債證書ヲ交付スルヲ得ルニ至リタルヲ以テ之カ交付ノ證據ヲ明カナラシメンカ爲メ明治十二年五月十九日左ノ伺ノ如ク大藏省ノ省議ヲ決定セリ

各(府)管内舊神官配當祿ノ儀追々調整頓相成候ニ付テハ公債高調帳別紙雜形ノ振合ニ取調下ケ渡可申ト存候尤於管應本人共へ證書下付之際番記號記入シ各受取印濟之上帳簿還納爲致候積リ依テ此段相伺候也

(別紙略ス)

又其證書ハ實際交付ノ時期ヲ以テ發行ノ時期トナス見込ミナリシト雖モ發令以來殆ント三箇年ノ時日ヲ經過セシニ當リ其交付ノ時ヲ以テ發行ノ時トナストキハ時日遷延ノ嫌アルニヨリ明治

十二年七月十一日左ノ伺ノ通り大藏省ノ省議決定シタルヲ以テ實際交付ノ時ニ拘ラス總テ明治十一年一月四日ノ日付ヲ以テ發行シ而シテ既ニ經過セル期間ノ利札ハ之ヲ切斷シ現金ヲ以テ之カ利金ヲ支拂フコト、セリ

各府縣管内舊神官配當祿ノ儀ハ該祿額ノ五箇年分合計ヲ配當祿公債證書ヲ以テ一時可賜積十年三月太政官第三十二號公布以來調査ニ間斷無之ト雖モ調煩雜ナルヨリ積滯現今ニ至リ追々整理相成候儀ニ有之就テハ右公債證書之儀ハ秩祿公債ノ振合ニ準シ調整ニ隨ヒ實際交付之年ヨリ發行ノ積ニ候處調査ノ爲メ遷延トハ乍申發令ヨリ殆ト三箇年間經過セシ事故夫是酌量致シ假令二十三年ニ及ヒ交付候トモ一般證書ハ明治十一年發行トシ(新舊)振合(隨)テ利金モ同年分ハ利札切取り現金ヲ以御下附相成候方可然ト存候因テ此段相伺候也

(但書略ス)

又配當高貳拾五圓未滿ノ少額竝ニ證券券面金額未滿ノ端數ハ現金ヲ以テ一時ニ之ヲ交付セリ而シテ其處分ハ明治十五年二月ニ至リ漸ク完結ヲ告ケタルモ其後訂正處分ノ爲メ追給ヲナシ又ハ處分取消ノタメ還納ヲナサシメ遂ニ十八年度ニ及ヒ全ク之ヲ終了セリ今證券ノ發行額及現金ノ交付額ヲ年度竝ニ府縣ニ區別スレハ左表ノ如シ

第一表

年 度	證書交付高	證書還納高	差引交付高	現金交付高	現金還納高	差引交付高
十二年度	三三五、二五 <sup>四</sup>	〇 <sup>四</sup>	三三五、二五 <sup>四</sup>	〇 <sup>四</sup>	〇 <sup>四</sup>	〇 <sup>四</sup>

府縣名	社 員 數		證券發行高	現金交付高	計
	人	數			
東京府	五九九	七二八	八,七二五	四三五,一〇五	九,一六〇,一〇五
京都府	二二〇	四二〇	六四,二二五	一〇,〇〇六,三四〇	七四,二三一,三四〇
大阪府	四二〇	四二〇	七九,四二五	五,七六六,二三〇	八五,一九一,二二〇
神奈川縣	一五六	一五六	一,二七〇〇	一,八九一,三六〇	一四,五九一,三六〇
兵庫縣	六一五	六一五	五,九五〇	五七五,一五五	六,五二五,一五五
新潟縣	一〇六	一〇六	三,一五〇	七四〇,一九〇	三,八九〇,一九〇
埼玉縣	四一六	四一六	一,八〇〇	五三九,〇三〇	二,三三九,〇三〇
群馬縣	五二六	五二六	八二五	五二〇,四二五	一,三四五,四二五
合計	三三四,二二五	三三四,二二五	一七五,〇〇〇	四六,三七九,三五〇	四六,三六一,八一〇
十三年度	六,〇〇〇	二,〇二五	〇	四五,八四二,八四〇	四五,八四二,八四〇
十四年度	二,〇二五	二,〇二五	一,九〇〇	〇	二,一五〇
十五年度	二,七五	二,七五	〇	二,一〇五	〇
十六年度	〇	〇	〇	五三四,四〇五	五三四,四〇五
十七年度	八〇〇	〇	八〇〇	〇	一七,五三〇
十八年度	〇	〇	五〇	〇	一七,五三〇
合計	三三四,二二五	三三四,二二五	一七五,〇〇〇	四六,三七九,三五〇	四六,三六一,八一〇

第二表

千葉縣	一五二	二〇九	四,一二五	一,七三三,六一〇	五,八五八,六一〇
茨城縣	二〇九	二〇九	一,一七二五	一,八八七,五六〇	三,〇六〇,一六〇
栃木縣	三九四	三九四	三,四七五	四五四,六三五	三,九二九,六三五
三重縣	五二	五二	一六,五七五	三四九,七八五	一六,九二四,七八五
愛知縣	三七二	三七二	二六,二五〇	三,〇二七,二二五	二九,二七七,二二五
靜岡縣	二六三	二六三	三三,二二五	三,四二六,七三五	三六,五五一,二七五
山梨縣	一七九	一七九	一,二〇〇	二,二九五,四七〇	一三,四九五,四七〇
滋賀縣	七九〇	七九〇	五,九九五	八四三,五七〇	六,八三九,一四〇
岐阜縣	八四六	八四六	二〇,二二五	五五八,九七五	二,五八三,九七五
長野縣	一六三	一六三	一三,二二五	一,八九〇,四七五	一四,一五九,七二五
福島縣	一〇三	一〇三	二,四〇〇	一,〇五七,九三〇	三,四五七,九二〇
山形縣	三五八	三五八	一三,一〇〇	三,九〇八,〇〇五	一七,〇〇八,〇〇五
福島縣	一一一	一一一	一,一五〇	一,五六六,〇〇五	一,三〇六,六〇五
島根縣	一四八	一四八	七,八二五	一,六八九,六四五	九,五一四,六四五
岡山縣	五六	五六	一一五	一五六,一二五	二八一,一二五
廣島縣	二六	二六	二五	三九一,〇四〇	四六一,〇四〇
和歌山縣	二一	二一	三〇〇	八,五八〇	二〇八,五八〇
愛媛縣	六七八	六七八	三,八〇〇	七二三,四六五	四,五二三,四六五

福岡縣	二二	五〇 <sup>四</sup>	三五九九〇	八五九九〇
大分縣	一三九	一七七五	一二九二〇六〇	三〇六七〇六〇
合計	四、八五〇	三三四〇五〇	四六、三六一八二〇	三八〇、四一一八二〇

### 第六項 起業公債

明治十一年四月三十日第七號布告ヲ以テ起業公債募集ノ要旨ヲ發表シ募集ノ事ヲ擧ケテ之ヲ大藏卿ニ委任セラル、ヤ大藏卿ハ五月一日布達甲第十三號ヲ以テ起業公債證書發行條例ヲ公布スルト同時ニ是月二日募集事務ノ取扱ヲ第一國立銀行及三井銀行ニ命任シ募集價格ヲ券面金額百圓ニ付八拾圓ト特定シ應募申込期日ヲ同年八月三十一日限リトシ應募保證金ヲ券面金額百圓ニ付八圓トシ其殘金ノ拂込ハ之ヲ三回ニ分チ第一回拂込券面金額百圓ニ付貳拾貳圓ハ同年十一月三十日限第二回拂込同上貳拾五圓ハ十二年二月二十八日限第三回拂込同上貳拾五圓ハ同年四月三十日限ト定メ該兩銀行ヲシテ募集ノ廣告ヲ發セシメタリ當時我國ハ已ニ巨額ノ公債ヲ有セシト雖モ些少ナル外國公債ノ外ハ其原因何レモ舊藩債ノ處分或ハ祿制ノ改革ニ在リシヲ以テ其起債ノ方法モ特殊ノ證券發行方法ニ依リ未タ嘗テ一般人民ヨリ資金ヲ募集セシコトアラサリシカ玆ニ至リ始メテ內國ニ於テ普通募集法ノ實行ヲ試ミタリ故ニ政府ハ其結果ニ付頗ル憂慮スル所ナキニアラス殊ニ其募集額ハ壹千貳百五拾萬圓ノ巨額ニ上リ其募集期限ノ如キモ僅々四箇月間ニ過キササルヲ以テ募集上特ニ注意スル所ナカル可カラス是ニ於テカ大藏卿ハ五月三日各地方長

官ニ内翰ヲ發シ募集上ノ斡旋ヲ依頼シタリ而シテ本公債ノ取扱銀行タル第一國立銀行及三井銀行ハ明治十一年五月二日募集委員ノ命令ニ接スルヤ即日該募集ニ關スル公告文案竝ニ諸證券ノ書式ヲ具シ大藏省ニ伺出テタリシカ大藏省ニ於テハ多少修正ノ上之ヲ認可シタリ是ニ於テ兩銀行ハ同月六日之カ公告ヲナセリ其要款ハ左ノ如シ

大日本政府六分百分ノ六利附ノ內國公債ハ明治十一年四月三十日御布告竝ニ同年五月一日大藏省ノ御布達ニ因テ明示セラレタルモノナリ

此公債ノ呼高ハ通貨壹千貳百五拾萬圓ニシテ公債證書ノ種類ハ五百圓、百圓、五拾圓ノ三種トス而シテ此證書ハ之ヲ無記名ニシテ讓受自由ニスルトモ又ハ姓名記載スルトモ債主即チ引受人ノ隨意タルモノナリ

發行ノ價直ハ百圓ニ付八拾圓トス故ニ債主即チ引受人ハ通貨八拾圓ヲ拂フテ年々六圓宛ノ利息ヲ得而シテ此公債元拂ノ籤ニ當レハ實額百圓ヲ得ルノ割合ナリ

此公債ノ拂戻シハ當明治十一年ヨリ向二十五箇年ノ期限ニシテ其元金ハ本年ヨリ二箇年据置シテハ其年ノ分ヲ拂戻シ而シテ明治三十五年ノ末ニ至リテ皆高ヲ消却シ盡スヘシ

此公債證書元金拂戻シノ爲メニ行フ所ノ抽籤ノ方法ハ其年ノ十月中第一國立銀行又ハ三井銀行ノ本店ニ於テ大藏省國債局ノ官員ト地方官廳ノ官員ト其他身柄ノ人ニテ此公債證書ヲ所持スル者五人以上ヲ選ミ其立會ヲ乞ヒ抽籤ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號番號ヲ公定シ當リ籤ノ番號ハ新聞紙ヲ以テ之レヲ公告シ而シテ其證書ニ對スル元金ハ其年ノ十二月迄ニ之ヲ



拂戻スヘシ

此公債ノ利息ハ證書額面百圓ニ付一箇年六圓宛ノ割合トシ初回ノ利息拂ハ來ル明治十二年六月ニ於テシ爾後毎年兩度(六月十二月)ニ證書面ニ付シタル利息ノ小札ト引換ニ之ヲ拂渡スヘシ故ニ此公債引受方申込ノ節ニ拂込ムヘキ手附金及割拂拂込金ニ係ル利息ハ其拂込ミタル月ヨリ當年十二月三十一日迄年六歩ノ割合ナル月割ヲ以テ計算シ其月十五日迄ノ入金ハ半箇月分十六日以後三十一日迄ノ入金ハ翌月分ヨリノ利息ヲ割引シテ本人ニ拂ヒ渡スヘシ

但明治十二年六月ニ於テ拂渡スヘキ利息ト云フトモ此ノ半年間ハ割拂ノ入金中タルヲ以テ本條ト比シク其入金月割ヲ以テ拂渡スヘシ

此公債ノ元利拂戻シ方ハ都テ兩行本支店竝ニ兩行ト爲換取組ノ約定、コルレスボンデンスアル各地方ノ銀行又ハ諸會社ニ於テスヘシ此公債ノ引受ヲ望ム諸君ハ當明治十一年八月三十一日迄ヲ限リ次ニ揭示スル第一書式ニ從テ額面五拾圓以上公債證書ノ種類ニ適セハ何程ニテモ申込ノ書面ヲ作り且公債呼高百圓ニ付八圓宛ノ手附金ヲ添ヘテ兩行ノ本支店竝兩行ト爲換取組ノ約定アル各地方ノ銀行又ハ諸會社ニ申出ツヘシ(申込ノ場所地名ハ下文ニ詳カナリ)兩行本支店及各地方ニアル代理店ハ右ノ申込ヲ得其手附金ヲ受取レハ次ニ揭示スル第二書式ニ從テ手附金受取書ヲ本人ニ發付スヘシ

此公債ノ引受方申込ハ本年八月三十一日ヲ以テ期限トスルニ付望人ノ都合ニヨリテ右ノ時日前ニ申込ヲ爲シ手付金ヲ拂込メハ其拂込ミタル月ヨリ(十五日)前ナレハ半月分十六日後ナレハ翌月分期限(八月三十一日)ヲ云フ迄ノ利足トシテ年六分ノ割合ヲ以テ手付金ノ現高中ヨリ之レ

ヲ減却シテ本人ニ拂戻スヘシ

兩行ニ於テハ申込期限ノ日ニ至リテ全般ノ申込高ヲ總計シテ此公債ノ呼高ニ割付ケ其割付ケタル金額ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ申込ノ本人ニ通達スヘシ故ニ此申込ノ高公債呼高ニ超過スレハ總體ノ申込高ニ割付ケテ平等ニ之レヲ減却シ而シテ其手付金ノ過剩トナル分ハ第一割拂出金ニ廻シ置クヘシ尤モ其都合ニヨリテハ別ニ方法ヲ設ケテ之レヲ減却スルコトモアルヘシ

此公債引受申込ヲ爲シテ其割付ケノ通達ヲ得タル諸君ハ左ノ割合ヲ以テ割拂ノ出金ヲ爲スヘシ  
例ヘハ公債呼高百圓ニ付

引受方申込ノ節手付金	明治十一年八月三十一日マテ	金八圓
第一割拂出金	明治十一年十一月三十日マテ	金貳拾貳圓
第二割拂出金	明治十二年二月二十八日マテ	金貳拾五圓
第三割拂出金	明治十二年四月三十日マテ	金貳拾五圓
合計		金八拾圓

此公債ノ割付高定マリタル後ハ債主即チ引受人ノ都合ニヨリ第一割拂ノ時ニ於テ第二又ハ第三迄ノ割拂ヲモ爲スヲ得ヘシ然ルトキハ其現金ヲ拂込ミタル月ヨリ(十五日)前ナレハ半月分十六日後ナレハ翌月分(次ノ拂期限)第二割拂又ハ第三割拂共迄ノ利足ヲ年六分ノ割合ヲ以テ減却シテ本人ニ拂渡スヘシ  
若シ又申込ノ節手付金ヲ差入レタルモ第一割拂ノ期日ニ其拂込ヲ怠ルカ又ハ第一割拂ヲ爲ス

モ第二第三ノ割拂ヲ其期ニ怠リタル人アラハ此公債ノ割付ケヲ除キ其前ニ拂込タル金高ハ都テ本人ノ損失タルヘシ

第一割拂出金ヲ爲ス時ニハ其金額ト共ニ手付金受取書ヲ差出スヘシ然ルトキハ引換ニ第三書式ニ從テ公債假證書ヲ交付スヘシ第二割拂出金ヲ爲ス時モ其金額ト共ニ前ノ假證書ヲ差出スヘシ然ルトキハ引換ニ第四書式ニ從テ同シク公債假證書ヲ交付スヘシ第三割拂ノ時ニ於テハ引換ニ公債證書ヲ交付スヘシ尤モ此證書若其時ニ出來セサレハ公債拂濟假證書ヲ渡シ置キ追テ時日ヲ定メテ本證書ト交換スヘシ

若シ債主即チ引受人ノ都合ヲ以テ第一割拂ノ時ニ第二割拂ノ分ヲモ入金スレハ其期ニ應スル公債假證書ヲ交付シ第三割拂ノ分迄モ入金スレハ公債拂濟假證書ヲ渡シ置キ追テ時日ヲ定メテ本證書ト交換スヘシ

此公債證書ノ拂込金皆済ニ至ラスシテ公債本證書ヲ受取ラサル以前タリト雖モ第一割拂出金ノ假證書ヨリシテ當人ノ都合ニヨリ隨意ニ賣買讓受ケ及ヒ質入書入ニスルヲ得ヘシ(外國人ヲ除キ)但讓渡人ハ證券ノ裏面ニ讓受人ノ住所姓名ト自分ノ姓名トヲ記載シ且之レニ調印スヘシ證券ノ讓受賣買ニ前條ノ如ク所持人ノ自由ニ任スト云フトモ其後ノ割拂ノ出金ハ必ス引受方ヲ申込ミ手付金ヲ差入レタル土地ノ銀行又ハ其代理店ニ於テスヘシ

右ノ都合ナルヲ以テ此公債引受方手付金ノ受取書及第一割拂出金ノ假證券迄ハ當人ノ望ニ從ヒ何枚ニテモ之レヲ分割スルヲ得ヘシト云フトモ申込高千圓以上ノ者ハ一枚ノ假證券高五百圓以下ニハ區分セス千圓未滿ノ者ニモ百圓以下ニハ區分セサルヘシ

若シ此證券ヲ盜ミ取ラレ又ハ紛失シ又ハ流焼失セシ者アラハ其證券ノ番記號證券ノ最初ノ名宛人及其證券ヲ讓受ケシ人ノ姓名等ヲ認メテ速ニ其證券ヲ發行シタル土地ノ銀行又ハ其代理店ニ報知スヘシ銀行又ハ代理店ハ本人ニ就テ此證券ヲ失フタル手續ヲ詳明セシメ且其次第ヲ新聞紙ニテ公告シ三箇月ヲ經テ尙此證券ヲ見出サ、ルキハ兩人以上ノ證印アル證券ヲ以テ其事ヲ保證セシメテ代リ證券ヲ渡スヘシ(尤モ右代リ證券ヲ渡シタル上ハ舊證券ハ廢物タルヘシ)但此時間中ニ割拂出金ノ期ニ際スルコトアラハ此分ハ本人ヨリ別段ニ入金セシメテ銀行又ハ其代理店ヨリ假預書ヲ渡シ置テ本條ノ決定ヲ俟テ本手續ニ復スヘシ

此公告文及諸書類ノ書式ハ別ニ印刷シテ一冊子ト爲シ兩行ノ本支店竝ニ各地方ノ代理店ニ貯蓄スルニ付望人ハ何時ニテモ就テ之レヲ求ムルヲ得ヘシ  
若シ債主即チ引受人タルヘキ諸君此公告ノ趣旨充分ニ了解セラレサルコトアルカ又ハ此公債ニ屬スル事務ニ付別ニ質問セララルヘキ事アラハ兩行本支店竝ニ各地方ノ代理店ニ來リテ諮詢アルヘシ  
右之通大藏省ノ允許ヲ經テ公告仕候事

第一國立銀行  
三井銀行

第一書式

起業公債引受方申込證書

今般起業公債募集ノ儀ニ付明治十一年五月 日附ヲ以テ貴行ヨリ公告相成候要  
 款書ノ旨趣ヲ領掌シ實額 圓ノ高引受可申ニ付右手附金トシテ一割ノ割合ヲ以  
 テ金 圓御拂入申置候間額面 圓ノ公債證書拙者へ御配付有之度候尤モ此公債  
 引受方ニ就テハ明治十一年五月一日大藏省ヨリ頒布セラレタル起業公債條例及  
 貴行ノ公告文ノ要旨ハ總テ遵奉可致候間引受證書差出候處如件

明治十一年月日  
 銀行 御中

住所職業  
 姓

名印

第二書式

手附金受取書

第 番

一金

右ハ當明治十一年五月一日大藏省ヨリ頒布セラレタル起業公債發行條例ニ遵ヒ  
 其募集ノ内實額 圓ノ高引受方御申込ノ手附金トシテ前書ノ通御拂入相成正ニ  
 受取申候處相違無之候追テ第一割御出金ノ節其金額ト共ニ此受取書御持參可  
 被成候也

明治十一年月日

姓 名 殿

、 、 、 銀行

第三書式

公債假證券

第 號

一金

右ハ明治十一年四月三十日太政官第七號ノ公布ニ從ヒ大藏省ニ於テ募集スル起  
 業公債ノ内何町何丁目住何ノ誰ノ引受ケタル公債證書高 圓ニ對スル第一割拂  
 出金迄ハ成規ニ從テ書面ノ通入金シタルコト相違ナキニ付其證トシテ此券狀ヲ  
 附與スルモノナリ

明治十一年月日

、 、 、 銀行

此券狀ヲ讓リ渡サント欲セハ書面ノ枠内へ讓受人ノ住所姓名ヲ記シ此證券ノ所  
 持人(讓渡人)記名調印シタル上ハ何人ヲ論セス(外國人ヲ除クノ外)之ヲ授受スルヲ  
 得ヘシ  
 第二割拂出金ノ期日ニハ證書ノ所持人其期ノ出金ト共ニ此證券ヲ持參シ次回ノ  
 假證券ト引換ヲ乞フヘシ  
 此證券ヲ所持スルモノハ定期ノ出金ヲ怠ルヘカラス若シ之ヲ怠ルトキハ此公債  
 ノ割付ヲ除名スルニ付此證書面ノ金額ハ本人ノ損失トナルヘシ

裏面雛形

讓 渡 日 附	讓 受 人 住 所	讓 受 人 姓 名	讓 渡 人 記 名 調 印

第四書式

公債假證券

第 號

一金

右ハ明治十一年四月三十日太政官第七號ノ公布ニ從ヒ大藏省ニ於テ募集スル起業公債ノ内何町何丁目住何ノ誰ノ引受ケタル公債證書高 圓ニ對スル第二割拂出金迄ハ成規ニ從テ書面ノ通入金シタルコト相違ナキニ付其證トシテ此券狀ヲ附與スルモノナリ

明治十一年月日

、 、 、 銀行

此券狀ヲ讓リ渡サント欲セハ裏面枠内へ讓受人住所姓名ヲ記シ此證券ノ所持人(讓渡人)記名調印シタル上ハ何人ヲ論セス(外國人ヲ除クノ外之ヲ授受スルヲ得ヘシ)

第三拂出金ノ期日ニハ證書ノ所持人其期ノ出金ト共ニ此證書ヲ持參シ公債本證書ト引換ヲ乞フヘシ

此證書ヲ所持スル者ハ定期ノ出金ヲ ルヘカラス若シ之ヲ怠ルトキハ此公債ノ割付ヲ除名スルニ付此證書面ノ金額ハ本人ノ損失トナルヘシ

裏面雜形

讓渡日附	讓受人住所	讓受人姓名	讓渡人記名調印

第五書式

公債拂濟假證券

第 號

一金

右ハ明治十一年四月三十日太政官第七號ノ公布ニ從ヒ大藏省ニ於テ募集スル起業公債ノ内何町何丁目住何ノ誰ノ引受タル公債證書高 圓ニ相當スル割拂ノ出金ハ都テ成規ニ從テ書面ノ通入金シタルコト相違ナキニ付其證トシテ假ニ此券狀ヲ交付シ置キ追テ本證書調製ノ上此證券ト交換スヘシ

明治十一年月日

、 、 、 銀行

此券狀ヲ讓リ渡サント欲セハ裏面ノ枠内へ讓受人ノ住所姓名ヲ記シ此證券ノ所持人(讓渡人)記名調印シタル上ハ何人ヲ論セス(外國人ヲ除クノ外之ヲ授受スルヲ得ヘシ)

公債本證書ノ調製シタルトキハ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其由ヲ公告スルニ付其節此證券ヲ所持スル人ハ之ヲ持參シテ假證書ト引換ヲ乞フヘシ

裏面雜形

讓渡日付	讓受人住所	讓受人姓名	讓渡人記名調印

右ノ如ク募集上ノ要件ヲ公告シタリト雖モ要款第七項ノ規定ニヨレハ初回ノ利子ハ明治十一年

六月ニ於テ拂渡スモノナリ然ルニ右ノ仕拂タル利札引換ノ上交付スヘキモノニアラサルニヨリ其渡方ニ手數ヲ要スルコト尠少ナラサルヘキヲ以テ本年分ノ利子ハ第一割拂期ニ於テ明年六月拂ノ分ハ第三割拂期ニ於テ拂渡スコトニ改メ度旨及第十四項ノ趣旨ニヨレハ公債割付高確定後ニアラサレハ割拂期ニ先チ拂込ヲナスコトヲ得サルモノナリト雖モ應募者ノ便益ヲ圖リ手附金入金ノ際ト雖モ拂込ヲナスコトヲ得ルコトニ追加シ度旨明治十一年五月十日伺出タルニヨリ同月十四日之ヲ認可セリ左ニ其公告文ノ追加ヲ掲ケン

此要款書第七項ニ掲載シタル手付金及割拂拂込金ニ係ル利息ハ第一割拂拂込ノ時即チ十一年十一月三十日ニ於テ其手付金ニ對スル四箇月間ノ利息ト第一割拂ニ對スル一箇月間ノ利息トヲ呼高六歩ノ割合ナル月割ヲ以テ計算シテ拂渡スヘシ

又明治十二年上半季分ノ利息ハ第三割拂拂込ノ時即十二年四月三十日ニ於テ手付金ト第一割拂トニ對スル六箇月間ノ利息ト第二割拂ニ對スル四箇月ノ利息ト及ヒ此第三割拂拂込ニ對スル二箇月間ノ利息トヲ各其月數ニ應シ呼高六分ノ割合ヲ以テ計算シテ拂渡スヘシ

然リト雖モ引受人ノ都合ニヨリ第一又ハ第二割拂ノ時ニ於テ第三割拂拂込ヲナストキハ其期限前ノ拂込ニ係ル割引利息ノ外ニ定期ノ拂込日ヨリ向明治十二年六月三十日迄ノ利息ハ各其月數ニ應シ前同様ノ割合ヲ以テ計算シテ本人ニ拂渡スヘシ

要款書第十四項ノ趣旨ニヨレハ此公債ノ割付高定リタル時即明治十一年九月一日以後ニ非レハ引受人ハ其期日ニ先チ割拂ノ入金ヲ爲シ得サル筈ナリト云フトモ更ニ引受人ノ爲メニ一層ノ便ヲ圖リ手附金入金ノ節ニ於テモ第一ヨリ第三迄ノ割拂ヲ入金スルヲ許スヘシ

但此入金ニ係ル利息ノ割合ハ其拂込期限前之分ハ其金高六歩ノ割合ヲ以テ月數ニ應シテ計算シ其拂込期日ヨリ以後ノ分ハ明治十二年六月迄各其月數ニ應シテ呼高六歩ノ割合ヲ以テ計算シ入金ノ節直チニ之ヲ拂渡スヘシ

然リト雖モ明治十一年九月ニ至リ全般ノ申込高ヲ公債呼高ニ割附ノ時ニ於テ申込高呼高ニ超過シテ之レヲ減却セサルヘカラサル(要款第十二項ノ趣旨ニ從ヒ)トキハ其減却スヘキ分ハ最前受取タル金額ヲ其儘本人ニ拂戻ス可シ而シテ入金ノ節割引シタル利息ハ前項但書ノ割合ニヨリテ金額ヲ拂戻ス月迄ノ分ヲ差引テ本人ヨリ取戻スヘシ

又要款書第十五項ニヨレハ既定ノ拂込期日ニ於テ拂込ヲ怠ルトキハ其以前ノ拂込金ヲ沒收スルモノナリト雖モ斯クテハ募集上影響ヲ及ホスノ懸念ナキニアラサルヲ以テ第三拂込ノ期日マテハ之ヲ猶豫シ引受人ヨリ延期證書ヲ差出サシムルコトニ公告文ニ追加シ度旨明治十一年六月二十八日伺出タルニヨリ同年七月三日之ヲ認可セリ其追加ハ左ノ如シ

此要款書第十五項之趣旨ニヨレハ手附金ヲ入金スルモ定期ノ拂込ヲ怠リタル人アラハ此公債ノ割付ヲ除名シテ其以前ニ拂込ミタル金額ヲ沒收スヘキ筈ナリト雖モ引受人ノ都合ニヨリ手附金ノミヲ入金シ第一及ヒ第二割拂ノ期日ニハ其拂込ヲ爲サスシテ第三割拂ノ期日ニ於テ一時其總高ヲ入金スルコトヲ望ム者アレハ下條ニ掲載スル所ノ延期證書ヲ出サシメ以テ之ヲ許スヘシ

右ノ延期證書ハ正副二通ヲ出サシメ其地ノ銀行又ハ其代理店ニ於テ之ニ割印シ其一通ヲ本人ニ返却スヘキニ付其證書ヲ所持スル者ニ非レハ後日ニ至リ何様ノ事ヲ陳述スルモ都テ延期ノ

效ヲ有セサルモノトス  
 然リト雖モ若シ第三割拂ノ期日即チ明治十二年四月三十日ニ於テ其拂込ヲ怠リタルトキハ何等ノ事故ニ拘ハラヌ第十五項ノ趣旨ニヨリ此公債ノ割付ヲ除名スルニ付其已前ニ拂込ミタル手付金ハ本人ノ損失タルヘシ

延期證書文例

今般御募集相成候起業公債ノ内實額 圓之高引受可申ニ付其手付金ハ此處ニテ入金致シ置キ第一及第二割拂込金ハ第三割拂ノ期日即明治十二年四月三十日ニ於テ第三割拂込金ト共ニ一時ニ入金可致候萬一其期日ニ於テ入金相怠リ候ハ、兼テ差出置候手付金 圓ハ御規則之通り御沒收相成候トモ聊申分無之候仍テ延期證書差出候處如件

年 號 月 日

、 、 、 銀行 御中

住所職業

姓

名印

前書拂込金延期之儀ハ承諾致シ候ニ付其證トシテ當行ノ印章ヲ押捺致シ候也

、 、 、 銀行

斯クノ如ク公告文ニ追加ヲナスコト再三ニシテ專ラ應募者ノ便宜ヲ圖リ以テ銳意募集ニ力ヲ盡シタルノ結果之カ募集ニ應スル者頗ル多ク明治十一年五月九日ヨリ同月十五日マテ僅々一週日以内ニシテ應募申込高ハ八拾八萬五千參百五拾圓ニ達シ爾後各地ヨリノ申込ハ陸續絶エス終ニ

七月十六日ニ至リテ總額壹千貳百九拾萬圓餘ノ多キニ達シ需要額ニ超過スルコト四拾萬圓餘ナリトス然レトモ本公債ノ應募期限ハ八月三十一日ヲ以テ最終ト定メタルヲ以テ之カ申込ヲ停ムルニ由ナク猶其申込ヲ受ケタルニ指定ノ期日迄ニ申込ミタル應募申込ノ總口數三萬四千七百二十五口總金額貳千四百七拾七萬五千貳百五拾圓ニ達シ殆ント需要額ノ二倍ニ當レリ是レ異竟此募集ノ時期ノ恰モ國立銀行創設ノ好機ニ投シタルト取扱銀行ノ盡力多カリシトニ由リ此好結果ヲ生シタルモノナルヘシト雖モ抑亦當時政府信用ノ基礎已ニ固ク且ツ國國民民モ奮テ起業ノ美譽ヲ贊シ上下協力之ヲシテ然ラシタルモノト云ハサル可カラヌ  
 今右ノ應募申込高ヲ取扱店ノ所在地若クハ應募者ノ居住地ニヨリ區別スレハ左表ノ如シ

使府縣名	應募申込額	縣名	應募申込額
開拓使	一〇、四三三、五〇〇	埼玉縣	二、〇〇〇
東京府	一〇、四三三、五〇〇	群馬縣	二六、〇〇〇
京都府	二、四八四、一〇〇	千葉縣	七八、四五〇
大阪府	三、二二四、二五〇	茨城縣	一一五、八〇〇
神奈川縣	一一九、六〇〇	栃木縣	一六六、二〇〇
兵庫縣	六七四、七五〇	堺縣	八五、七五〇
長崎縣	三八一、四五〇	三重縣	五五六、五五〇
新潟縣	四〇三、九〇〇	愛知縣	五七七、四〇〇
			六二九、二〇〇

右應募者ノ身分金高及口數ヲ表出スレハ左ノ如シ

類別	引受證書金高	申込口數
華族	一九二、六五〇	三八九
士族	二六八、三〇〇	三八九
平民	二二〇、二九〇〇	二、七二八
合計	六八一、二四〇	三、八〇六

  

縣名	引受證書金高	申込口數
静岡縣	二五八、七〇〇	一四〇、三〇〇
山梨縣	二一三、四五〇	一八五、八〇〇
滋賀縣	一、五三七、三五〇	一四三、七五〇
岐阜縣	三七六、九〇〇	一四三、三〇〇
長野縣	一五五、一五〇	一〇九、一五〇
福島縣	一九五、八〇〇	七、七五〇
宮城縣	五四、九〇〇	二〇、四五〇
岩手縣	一九、四〇〇	一一九、七〇〇
青森縣	二七、三五〇	一九四、九〇〇
秋田縣	一〇、二五〇	一一五、六〇〇
山形縣	八、九〇〇	三三三、〇五〇
石川縣	三二一、二五〇	三三三、四五〇
合計	六八一、二四〇	三、八〇六

前述ノ如ク募集上好結果ヲ得テ應募總高ハ貳千四百七拾七萬圓餘ニ達シ需要額ニ超過スルト  
 千貳百貳拾七萬圓餘ナルヲ以テ之ニ對シテ相當減額セサル可カラサルニヨリ之カ減額ノ標準ヲ  
 三種ニ分チ申込高五拾圓以上千圓マテノモノハ之ヲ減少セス千五拾圓以上參千圓未滿ノモノハ  
 悉ク千圓ニ減シ參千圓以上ノモノハ需要額千貳百五拾萬圓ヨリ右兩種ノ募入額ヲ控除シタル殘  
 額ヲ申込高ニ比例シテ配當スルコト、セリ然ルニ右計算上公債證書額面ニ滿タサル端數ヲ生ス  
 ヘキハ必然ナルニヨリ其端數貳拾五圓未滿ノモノハ之ヲ切捨テ同額以上ノモノハ切上ケ以テ五  
 拾圓ノ公債ト爲シ切捨切上ヨリ生シタル過不足ハ第一三井兩銀行引受ノ額中ニ於テ之ヲ加減ス  
 ルコト、定メタリ而シテ右割戻シ金額ニ對スル利足ハ其實額ニ對シ年六分ノ月割ヲ以テ東京府  
 下ハ九月三十日迄ノ分ヲ拂渡シ其他各地ニ於テ申込ミノ分ハ十月十五日迄ノ分ヲ拂渡スコト、  
 セリ今募入額ノ割合ヲ定メ決定シタル結果ヲ表示スレハ左ノ如シ

申込高	募入高	募集超過高	合計
千圓未滿	五、九〇二、六五〇	〇	九、九〇二、六五〇
千五拾圓以上參千圓以下	一、〇三七、〇〇〇	八五二、一〇〇	一、八八八、一〇〇
參千圓以上	五、五〇六、三五〇	一一、四二四、一五〇	一六、九八四、五〇〇
合計	一二、五〇〇、〇〇〇	一二、二七五、二五〇	二四、七七五、二五〇

  

總計	共有
八、一五七、四〇〇	一、七二七
二四、七七五、二五〇	三、四七五

應募額確定後拂込ムヘキ割拂ハ都合三回ニシテ其拂込ハ明治十二年四月三十日ニ至リ終了スヘキモノナリト雖モ右末期ニ至ルマテニ規定ノ拂込ヲナサ、ル爲メ條例第三條第五節ニヨリ沒收セラレタルモノアリ即チ其金額ハ手附金トシテ入金シタルモノノ六百圓第一回割拂迄拂込ミタルモノ九拾圓第貳回割拂迄拂込ミタルモノ貳拾七圓五拾錢合計七百貳拾壹圓五拾錢ナリ是ヲ以テ之ニ對スル額面七千九百圓ハ募集上缺額トナレリ故ニ右ノ缺額ハ國債局準備掛運轉金ノ内ヲ以テ之ヲ引受ケ沒收金ハ起業基金運轉殖益ノ内ニ組込ムコト、爲セリ  
猶ホ募集ノ結果ヲ統計スレハ左ノ二表ノ如シ

第一表

事由	金額
第一國立銀行本店へ申込高	五、一四四、二五〇 <sup>円</sup>
同行支店へ申込高	三、九三四、七〇〇
三井銀行本店へ申込高	五、二八八、二五〇
同行支店へ申込高	七、一八九、九〇〇
兩銀行代理店へ申込高	四、二二八、一五〇
申込總高	二四、七七五、二五〇
募集價格高	八〇
募集額	一二、五〇〇、〇〇〇

募集金額實收高	一〇、〇〇〇、〇〇〇
募集額外超過高	一二、二七五、二五〇

第二表

取扱店	募入額	募入額	
		一口申込千圓以下	同參千圓以上
第一國立銀行	五、三九七、六〇〇 <sup>円</sup>	二、一八九、〇〇〇 <sup>円</sup>	四、二八、〇〇〇 <sup>円</sup>
三井銀行	七、一〇二、四〇〇	三、七一一、六五〇	六〇九、〇〇〇
合計	一二、五〇〇、〇〇〇	五、九〇二、六五〇	一、〇三七、〇〇〇

第七項 中山道鐵道公債

明治十六年第四十七號布告中山道鐵道公債證書條例ノ發布アルヤ大藏卿ハ之カ募集及元利金仕拂等ノ方法ヲ定メ明治十七年一月二十二日ヲ以テ此公債ノ取扱ヲ日本銀行ニ命任シ得テ工事上資金ノ需要ト市場ノ景況トヲ觀察シ同月二十三日大藏省告示第七號ヲ發シテ募集額ヲ證券々面金額五百萬圓募集最低價格ヲ九拾圓ト定メ之カ募集ノ手續ヲ示シタリ之ヲ此公債第一回ノ募集トス今募集ニ關スル事項ヲ明ニスル爲メ左ニ該告示ノ全文ヲ掲ケン



明治十六年(十二)第四十七號布告 中山道鐵道公債證書條例ニ據リ公債證書ノ内額面五百萬圓ヲ發行シ其手續左ノ通相定ム

中山道鐵道公債證書發行手續

第一條 發行公債證書ノ種類ハ大藏省ノ都合ヲ以テ交付スルモノトス

第二條 發行公債證書ノ價格ハ額面金高百圓ニ付金九拾圓トス

第三條 公債證書引受方望ノ者ハ本年二月二十日迄ニ其引受ント欲スル證書ノ金高及ヒ價格竝ニ其住所氏名ヲ記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ申込ムヘシ

但代理店ハ日本銀行ヨリ廣告セシムヘシ

第四條 公債證書引受方申込ムモノハ證書額面金高百圓ニ付金拾圓宛保證金トシテ其申込ヘキ店ヘ拂込ムヘシ

第五條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ公債證書引受方申込人ヨリ保證金拂込ミアルトキハ受取證書ヲ渡スヘシ但保證金受取證書ハ賣買スルヲ得ス

第六條 大藏省ニ於テハ本年三月三十日マテニ各申込人ヘ渡スヘキ證書ノ高ヲ定メ日本銀行ヨリ通知セシムルニ付其引受高ニ對スル金額ノ内保證金ヲ引去リタル跡金ハ第一回ハ同四月三十日迄第二回ハ同六月十五日迄ニ半額宛ヲ拂込ムヘシ但第二回ノ分ヲ第一回ニ一時ニ拂入ルモ妨ナキモノトス

第七條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ前條ノ拂込アルトキハ假證書ヲ作り保證金受取證書及ヒ現金ト引換ニ之ヲ渡スヘシ但假證書ハ官府竝日本銀行ヘ抵當ニ差入ル、ヲ除ク外

賣買スルヲ得ス

第八條 本證書ハ追テ日本銀行ヨリ假證書ト引換ニ各引受申込人ヘ交付セシムルモノトス

第九條 第六條ノ拂込金ハ期日迄ニ其申込店ヘ出金セサルトキハ第四條ノ保證金及ヒ第一回拂込金ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返與セサルモノトス

第十條 若シ保證金受取證書又ハ假證書ヲ亡失セシモノアラハ其證書ノ番記號及ヒ所持人ノ住所氏名等ヲ記シ其申込タル店ヘ速ニ報知スヘシ

第十一條 日本銀行本支店及ヒ代理店ニ於テ本人ニ就キ保證金受取證書又ハ假證書亡失ノ手續ヲ證明セシメ且兩人以上ノ證明アル證書ヲ以テ其事由ヲ保證セシメテ代リ證書ヲ相渡スヘシ但舊證書ハ無效ノ旨新聞紙等ニテ世上ヘ廣告スヘシ

第十二條 保證金及ヒ拂込ノ金高ニ對スル利子ハ年七分ノ割ヲ以テ其拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第十三條 保證金及ヒ跡金ノ利子公債證書附屬利札額(年分)ニ滿タサル利金ハ本證書交付ノ節拂渡スモノトス

右募集ニ對スル申込ハ意外ノ好結果ニシテ同年二月二十日即チ應募申込期ノ末日マテニ日本銀行本支店及代理店ヘ申込ミヲ爲シタル高八百參拾七萬六千四百圓ニシテ應募高ノ募集豫定額ニ超過スルコト實ニ參百參拾七萬六千四百圓ニ及ヘリ故ニ之ヲ募集額五百萬圓ニ對比スレハ其超過額ハ六割七分五厘強ニ當レリ而シテ發行價額以上ニテ申込ミタルモノハ條例ノ規定ニヨリ悉

皆募入トシ發行價格ニテ申込ミタルモノハ相當減却セサル可カラサルニヨリ應募額中貳拾壹萬參百圓ニ付テハ發行價格以上ノモノ即チ九拾壹圓拾五錢ヨリ九拾圓壹錢マテノモノヲ悉皆募入トシ其殘額ニ付テハ最低價格九拾圓ノモノヲ割合ヒ減少シ以テ募集額五百萬圓ニ充テ度旨明治十七年三月八日日本銀行總裁ヨリ大藏卿ニ伺出テタルヲ以テ大藏卿ハ同月十二日之ヲ認可シ證書ノ渡高ハ三月三十一日迄ニ申込人へ通知スヘキ旨指令シタリ而シテ其實收金額ハ四百五拾萬參百九拾六圓五拾四錢ニシテ發行價格ハ額面百圓ニ對シ九拾圓八厘弱ニ相當セリ今其結果ヲ地方別ニ分チテ表出スレハ左ノ如シ

府縣名	應募高	申込口數	募入高	内		募入外レ高
				高價募入高	高價内最低一價格募入高	
東京府	五二九、三〇〇	三三	三、一〇一、八〇〇	九〇〇	九〇〇	三、一〇一、九〇〇
京都府	一九七、〇〇〇	六	一、八〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	一、〇一五、〇〇〇
大阪府	一、三三三、五〇〇	八	六、四四六、〇〇〇	六、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	四、九九九、〇〇〇
神奈川縣	二、四七〇、〇〇〇	六	一、四一六、〇〇〇	〇	〇	一、〇五四、〇〇〇
兵庫縣	一、一〇〇、〇〇〇	三	二、四〇〇、〇〇〇	〇	〇	一、三〇〇、〇〇〇
長崎縣	三三九、一〇〇	二	七五七、〇〇〇	〇	〇	四一七、九〇〇
新潟縣	一、〇〇〇、〇〇〇	七	三、三〇〇、〇〇〇	〇	〇	二、三〇〇、〇〇〇
埼玉縣	一、〇〇〇、〇〇〇	一	五〇〇、〇〇〇	〇	〇	五〇〇、〇〇〇
群馬縣	一、〇〇〇、〇〇〇	一	二、一七〇、〇〇〇	〇	〇	一、一七〇、〇〇〇

府縣名	應募高	申込口數	募入高	高價募入高	高價内最低一價格募入高	募入外レ高
千葉縣	二〇〇	二	一〇〇	〇	〇	一〇〇
茨城縣	二、〇〇〇	一	一、一〇〇	〇	〇	九〇〇
栃木縣	三、七〇〇	三	一、九九〇	〇	〇	一、七〇〇
三重縣	一、六八二、〇〇〇	五	九、九〇〇、〇〇〇	〇	〇	八、二一八、〇〇〇
愛知縣	三、六四〇、〇〇〇	一	二、一五〇、〇〇〇	〇	〇	一、四九〇、〇〇〇
静岡縣	一、八〇〇、〇〇〇	一	二、一五〇、〇〇〇	〇	〇	三、〇〇〇、〇〇〇
山梨縣	一、〇〇〇、〇〇〇	一	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	一、〇〇〇、〇〇〇
滋賀縣	二、五二六、〇〇〇	一	一、六八八、〇〇〇	五、二五〇、〇〇〇	〇	一、八三八、〇〇〇
岐阜縣	一、〇〇〇、〇〇〇	六	二、四〇〇、〇〇〇	〇	〇	一、四〇〇、〇〇〇
長野縣	一、一三〇、〇〇〇	七	七、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	五、八七〇、〇〇〇
福島縣	一、〇〇〇、〇〇〇	一	八〇〇、〇〇〇	〇	〇	二、〇〇〇、〇〇〇
宮城縣	二、四〇〇、〇〇〇	一〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	一、四〇〇、〇〇〇
山形縣	一、〇〇〇、〇〇〇	一	五九〇、〇〇〇	〇	〇	四一〇、〇〇〇
福井縣	二、四〇〇、〇〇〇	一	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	一、四〇〇、〇〇〇
石川縣	八七五、〇〇〇	六〇	七、七九〇、〇〇〇	六、四四〇、〇〇〇	〇	一、三五〇、〇〇〇
富山縣	一、〇〇〇、〇〇〇	二	三、四八〇、〇〇〇	〇	〇	二、四八〇、〇〇〇
島根縣	一〇〇	一	一〇〇	〇	〇	一〇〇
鳥取縣	二〇七、〇〇〇	二	一、一八〇、〇〇〇	〇	〇	九七三、〇〇〇

合 計	北 海 道	熊 本 縣	佐 賀 縣	大 分 縣	福 岡 縣	愛 媛 縣	高 知 縣	德 島 縣	和 歌 山 縣	山 口 縣	廣 島 縣	岡 山 縣
八三六、四〇〇	一七九、〇〇〇	二九、一〇〇	一五、〇〇〇	二六、〇〇〇	五〇、〇〇〇	四一、五〇〇	一〇、四〇〇	五、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
六七八	五	一五	一	四	一	八	三	二	八	一〇	四	一六
五〇〇〇、〇〇〇	一〇、一〇〇	一七、一〇〇	八、八〇〇	一五、〇〇〇	一、二〇〇	一三、〇〇〇	六、一〇〇	三、〇〇〇	三、四〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	二、四〇〇
二一〇、一〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇	〇	一、〇〇〇
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
四七八、七〇〇	一〇、一〇〇	一七、一〇〇	八、八〇〇	一五、〇〇〇	一、二〇〇	一三、〇〇〇	六、一〇〇	三、〇〇〇	三、四〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	二、四〇〇
五三六、四〇〇	一七九、〇〇〇	二九、一〇〇	一五、〇〇〇	二六、〇〇〇	五〇、〇〇〇	四一、五〇〇	一〇、四〇〇	五、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

第二回募集ハ明治十七年五月十三日大藏省告示第五十八號ヲ以テ之ヲ發表シ募集額ヲ五百萬圓 募集最低價格ヲ九拾圓ト定メタリ其他ノ手續ニ至テモ第一回募集ニ關スル規定ニ同シク唯引受 申込期限ヲ同年六月十日迄トシ又拂込期限ヲ第一回ハ同年七月三十日迄第二回ハ同年八月三十日 迄トセルノ差異アルノミ而シテ今其募集ノ景況ヲ觀ルニ應募申込高千五百貳拾八萬四千七百圓

ニシテ其高募集豫定額ノ三倍以上ニ達シ高價ヲ以テ申込ミタル高ノミヲ以テスルモ已ニ豫定額 ヲ超過スルコト六拾七萬貳千七百圓ノ巨額ヲ算スルニ至レリ之ヲ條例第五條但書ニ價格ヲ定メ 發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ムモノニハ渡高ヲ減少セサルヘシトアルノ規定ニ據 リ高價申込高ヲ減少スヘカラストストキハ管ニ證券ノ發行高カ告示ノ豫定高ニ超過スルノミ ナラス最低價格ヲ以テ申込ミタル應募者ハ一ノ證券ヲモ得ル能ハサルノ結果トナリ之ヲ割戻ス トキハ大ニ應募者ノ失望ヲ來サ、ルヲ得ス依テ明治十七年六月二十日銀行集會所同盟各國立銀 行ハ其狀況ヲ述ヘ切ニ増發行ヲナスカ又ハ他ノ方法ニヨリ發行セラル、様取計ハレシトシ日 本銀行總裁ニ請願セリ而シテ政府ニ於テハ金圓使用ノ都合ヲ謀リ増發行ヲナスコト、シ同年六 月二十八日大藏省告示第八十號ヲ以テ前記第五十八號告示ノ豫定額ニ額面五百萬圓ヲ加ヘ都合 額面千萬圓ノ證券ヲ發行スルコト、爲シタリ此ノ如ク發行高ヲ増加シテ壹千萬圓トナシタルモ 其應募額ハ千五百貳拾八萬四千七百圓ナルヲ以テ價格以上ノ申込高ヲ控除シ殘額ハ相當ニ減却 セサルヘカラス依テ右應募額中五百六拾七萬貳千七百圓ハ價格以上ノモノ(申込價格九拾貳圓五 拾錢ヨリ九拾圓壹錢ニ至ル)ナルヲ以テ悉皆募入トシ其殘額九百六拾壹萬貳千圓ハ申込高ニ割合 ヒ減少セリ

今募集ノ結果ヲ概言センニ應募總額ハ千五百貳拾八萬四千七百圓ニシテ實收金額ハ九百萬六千 百八拾四圓四拾錢壹厘ナルヲ以テ之ヲ募集額壹千萬圓ニ對比スレハ其超過高ハ五割二分八厘強 ニシテ發行價格ハ額面百圓ニ對シ九拾圓六錢貳厘弱ニ相當セリ故ニ之ヲ前回ノ募集ニ比スレハ 募集超過高ハ一割餘ヲ減セント雖モ發行價格ハ平均五錢餘ヲ増加シタルヲ見ル左ニ其結果ヲ地





明治二十一年	〇	〇	一五二,二五〇	五二六,七五五	三三〇,〇〇〇	一六六,一七五
明治二十二年	〇	八〇〇,九〇〇	一六六,三七五	四三三,〇一三	三九一,〇五三	一六一,九九九
明治二十三年	〇	八〇〇,〇〇〇	一六二,九五五	三八九,二〇七	三三三,一〇六	一五七,一〇一
明治二十四年	〇	八〇〇,〇〇〇	一五七,一〇〇	三三三,九一七	一七三,一五七	一五二,七八八
明治二十五年	〇	八〇〇,〇〇〇	一五二,七五五	三三〇,〇九三	一七二,一三三	一四五,八八〇
明治二十六年	〇	八〇〇,〇〇〇	一四五,八八〇	一九四,六八〇	五五,二六五	一三九,四一五
明治二十七年	〇	七五〇,〇〇〇	一三九,四一〇	一三三,六一一	〇	一三三,六一一
合計	七,七五〇,〇〇〇	六,四三〇,〇〇〇	六〇八,六二五	三,七二五,六五四	二,一六五,七九五	一,四六九,八八九

一 此募集金ヲ以テ一割利付金祿公債ヲ繰上ケ支消シ置クモノトス

一 此募集金ハ來ル二十二年ヨリ年々八拾萬圓ツ、末年ハ七拾五萬圓ヲ鐵道工業費へ使用スルモノトス

一 右年々要スル處ノ金額ハ即チ利付金祿公債ノ元金ヲ償却ス可キ正當償還金ヨリ返却ヲ受クルモノトス

一 此募集金ハ證書額高百圓ニ付金九拾五圓ヲ以テ計算スト雖モ實際ノ景況ニ由リ尙ホ増減アルヘシ

斯クテ第三回ノ募集ハ明治十八年六月十三日大藏省告示第九十號ヲ以テ之ヲ發表シ募集豫定額ヲ五百萬圓募集最低價格ヲ九拾五圓ト定メタリ而シテ引受申込期限ヲ同年七月十日トシ第一回拂込期限ヲ同年八月二十日第二回拂込期限ヲ同年九月二十日トナセル外發行手續ハ第二回ニ同シ

之ヲ中山道鐵道公債ノ最終募集トス而シテ此募集ハ一層ノ盛況ヲ呈シ募集ノ初日ヨリ未タ一句ヲ經サルニ既ニ高價ノ申込高ノミヲ以テ募集豫定額ニ超過スルノ勢アリ然ルニ今回ハ終局ノ募集ニシテ起債總額ニハ條例ノ制限アルヲ以テ此餘増額ノ餘地ヲ存セス故ニ條例第五條但書ノ規定ニ從ヒ高價申込ノモノヲ悉皆募集額ニ入レンカ即チ起債總額ノ制限ヲ超過ス可ク之ヲ除却セシカ亦條例ノ成文ニ背クヘシ是ニ於テ條例ノ規定中甲乙互ニ抵觸ヲ來シ終ニ如何トモ爲ス能ハサルノ困難ヲ生シタリ因テ政府ハ已ムヲ得ス高價無減少ノ規定ニ違フモ寧ロ其起債制限額ニ從フノ可ナルニ如カサルヲ認メ高價ノ申込額中ニ就キ其最高價ナルモノヨリ順次募入シ豫定額ニ滿ツルニ至リテ之ヲ止メ其餘ハ悉皆減却スルコト、セハ高價發行ノ精神ニ適スルニヨリ明治十八年六月二十四日大藏省告示第九十五號ヲ以テ價格以上ニテ申込高募集額ニ超過スルトハ最高價ノモノヨリ順次ニ發行シ發行額ニ滿ツルヲ以テ止メ其餘額ハ悉皆減却スヘシトセリ然ルニ今此方法ニ從ヒ最高價ノモノヨリ順次ニ確定シ募集額ニ滿テントスルニ際シ同價格ニテ申込ミタルモノアルトキハ之カ取捨ノ方法ヲ設ケサルヘカラサルニヨリ先ツ發行額ヨリ最高價ノモノヲ控除シ殘額ヲ同價格申込高ニ對比シ而シテ之ヲ按分ノ率ニヨリテ配賦スヘキモノトス然レトモ計算上公債額面ニ滿タサル總數ヲ生シタルトキハ四拾五入ノ方法ニ基ツキ五拾圓以上ハ百圓ニ五拾圓未滿ハ金額減殺ヲ加ヘ五入ノ結果増加シタル額面ハ引受最多額ノモノヨリ減少スルコトニ大藏省ハ省議ヲ決定シ國債局長ハ明治十八年七月十日之ヲ日本銀行ニ通牒シタリ

茲ニ最高申込價格ヨリ順次募入ノコトヲ定ムルヤ應募者中一層競争ノ狀ヲ惹起シ遂ニ申込價格最高九拾七圓五拾錢最低九拾五圓四拾錢應募申込高千四百七拾六萬八千六百圓ニ達シ募集豫定

額ヲ超過スルコト實ニ九百七拾六萬八千六百圓ノ巨額トナリタリ而シテ其實收金額ハ四百七拾八萬四千六拾八圓五拾錢五厘其發行價格ノ平均ハ九拾五圓六拾八錢壹厘ニ上リ前二回ノ募集ニ比シテ著シキ好況ヲ呈シタリ請フ左ニ其結果ヲ地方別ニ分チ表出セン

府縣名	應募高	申入口數	募入高	募入内最高	募入外レ高	内	
						高價募入外	價續募入外
東京府	五七〇、〇〇〇	二六三	一、〇二八、〇〇〇	九七五、〇〇〇	四、八四四、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一、八四四、〇〇〇
京都府	三三三、〇〇〇	一九七	一、〇七〇、〇〇〇	九六四、〇〇〇	一、九六八、〇〇〇	一、八八〇、〇〇〇	八、八九〇
大阪府	一九八、〇〇〇	二六一	八六七、八〇〇	九六五、五〇〇	一、一三三、〇〇〇	八八四、〇〇〇	三、八九〇
神奈川縣	一七三、七〇〇	二四	一、九四七、〇〇〇	九五四、〇〇〇	一、五三九、〇〇〇	一、五三九、〇〇〇	一、一〇〇
兵庫縣	一八〇、〇〇〇	一五	六三三、〇〇〇	九七五、〇〇〇	一、一六八、〇〇〇	一、一六八、〇〇〇	五〇〇
長崎縣	一一一、〇〇〇	二七	八四六、〇〇〇	九七五、〇〇〇	二、〇七〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇
新潟縣	二六二、七〇〇	三五	一、一〇〇、〇〇〇	九六七、〇〇〇	一、五二〇、〇〇〇	一、五二〇、〇〇〇	一、〇〇〇
埼玉縣	一三〇、〇〇〇	三	一、一〇〇、〇〇〇	九六〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
群馬縣	二五二、六〇〇	二八	九三六、〇〇〇	九六五、〇〇〇	五九〇、〇〇〇	五九〇、〇〇〇	〇
千葉縣	七〇、〇〇〇	四	一、四〇〇、〇〇〇	九六一、〇〇〇	五、六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇
茨城縣	二四六、六〇〇	八	一、〇六〇、〇〇〇	九五四、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
栃木縣	三三三、七〇〇	二二	二、八五五、〇〇〇	九五五、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	〇
三重縣	一七五、〇〇〇	一五	一、〇六〇、〇〇〇	九六五、〇〇〇	六、八二〇、〇〇〇	六、八二〇、〇〇〇	五、〇〇〇

府縣名	應募高	申入口數	募入高	募入内最高	募入外レ高	内	價續募入外
						高價募入外	レ高
愛知縣	八、八〇〇、〇〇〇	一八	三、〇一七、〇〇〇	九七五、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	三、〇一七、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
靜岡縣	一、四〇六、〇〇〇	二四	一、〇一七、五〇〇	九六五、〇〇〇	三、一六〇、〇〇〇	三、一六〇、〇〇〇	七、五〇〇
山梨縣	五、一〇〇、〇〇〇	一五	一、〇〇〇、〇〇〇	九五五、〇〇〇	五、一〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
滋賀縣	一、一〇〇、〇〇〇	四	六、七六〇、〇〇〇	九六五、〇〇〇	一、六六〇、〇〇〇	一、六六〇、〇〇〇	五〇〇
岐阜縣	九、一〇〇、〇〇〇	五二	七、〇〇〇、〇〇〇	九七五、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
長野縣	四、四〇〇、〇〇〇	九	三、〇〇〇、〇〇〇	九六五、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
宮城縣	一、〇〇〇、〇〇〇	二	一、〇〇〇、〇〇〇	九六五、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
巖手縣	六〇〇、〇〇〇	一	五、〇〇〇、〇〇〇	九五五、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
青森縣	一〇〇、〇〇〇	一	〇	〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
山形縣	一、五〇〇、〇〇〇	二	一、〇〇〇、〇〇〇	九五五、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇
福島縣	六五〇、〇〇〇	四	六、一七〇、〇〇〇	九七五、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
石川縣	八、一〇〇、〇〇〇	五九	六、一七〇、〇〇〇	九六五、〇〇〇	一、九七〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
富山縣	三、九〇〇、〇〇〇	四	一、四〇〇、〇〇〇	九六五、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇
島根縣	一、八五〇、〇〇〇	三	一、〇〇〇、〇〇〇	九六五、〇〇〇	四、六〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	二、八〇〇、〇〇〇
鳥取縣	三、三〇〇、〇〇〇	四	一、〇〇〇、〇〇〇	九六五、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	一、〇〇〇
岡山縣	三、三〇〇、〇〇〇	七	一、〇〇〇、〇〇〇	九六五、〇〇〇	三、三〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
廣島縣	一、五〇〇、〇〇〇	九	一、〇〇〇、〇〇〇	九六五、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
山口縣	八、八〇〇、〇〇〇	一九	七、九〇〇、〇〇〇	九六五、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇

以上毎回募集ノ概況ハ已ニ之ヲ陳述セリ由テ左ニ詳細ヲ表示セン

事 由	第一回				第二回				第三回				合計又ハ平均
	金額	口數	平均	最高	金額	口數	平均	最高	金額	口數	平均	最高	
和歌山縣	六八、八〇〇	四二	一、六三八	九、〇〇〇	五、一〇〇	三	一、七〇〇	九、〇〇〇	一七、七〇〇	一七	一、〇四一	九、〇〇〇	
德島縣	五〇、二九〇	二七	一、八六三	九、〇〇〇	三、〇〇〇	二	一、五〇〇	九、〇〇〇	五〇、二九〇	二	二五、一四五	九、〇〇〇	
高知縣	四四、二〇〇	二四	一、八四二	九、〇〇〇	三、四〇〇	二	一、七〇〇	九、〇〇〇	九、四〇〇	一	九、四〇〇	九、〇〇〇	
愛媛縣	一〇〇、八〇〇	三三	三、〇八五	九、〇〇〇	四、七〇〇	三	一、五六六	九、〇〇〇	五、一〇〇	三	一、七〇〇	九、〇〇〇	
福岡縣	六二、五〇〇	二六	二、三六五	九、〇〇〇	三、一〇〇	二	一、五五〇	九、〇〇〇	二、七〇〇	二	一、三五〇	九、〇〇〇	
大分縣	六七、二〇〇	二二	三、〇五九	九、〇〇〇	六、三〇〇	二	三、一五〇	九、〇〇〇	三、七〇〇	二	一、八六〇	九、〇〇〇	
佐賀縣	八二、九〇〇	二二	三、七六八	九、〇〇〇	四、九〇〇	二	二、四五〇	九、〇〇〇	三、〇〇〇	二	一、五〇〇	九、〇〇〇	
熊本縣	七三、八〇〇	二二	三、三五五	九、〇〇〇	七、〇〇〇	二	三、五〇〇	九、〇〇〇	三、〇〇〇	二	一、五〇〇	九、〇〇〇	
宮崎縣	九〇〇	三	三〇〇	九、〇〇〇	七〇〇	二	三五〇	九、〇〇〇	〇	〇	〇	九、〇〇〇	
鹿兒島縣	六〇、三〇〇	二二	二、七三九	九、〇〇〇	四、三〇〇	二	二、一五〇	九、〇〇〇	一、六〇〇	二	〇、八〇〇	九、〇〇〇	
北海道	九〇、〇〇〇	一四	六、四二九	九、〇〇〇	八、五〇〇	二	四、二五〇	九、〇〇〇	五、五〇〇	二	二、七五〇	九、〇〇〇	
合計	一、四七六、八六〇	一、九〇一	七、七六八	九、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇	九、〇〇〇	一、〇七六、八六〇	一、〇〇〇	一、〇七六、八六〇	九、〇〇〇	

申込總高	八、三三六、〇〇〇	一、八四四、二七〇	一、八四四、二七〇	一、八四四、二七〇	一、八四四、二七〇	一、八四四、二七〇	一、八四四、二七〇	一、八四四、二七〇	一、八四四、二七〇	一、八四四、二七〇	一、八四四、二七〇	一、八四四、二七〇
募集最低價格	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
最低價格申込高	八、一六六、一〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
高價申込高	二、一〇九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
實收高	四、五〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
募集額外超過高	三、九三六、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
申込價格最高	九、二二五〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
本店へ申込ノ内最高價格	九、二〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
高價申込ノ内最低	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
申込價格平均	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
募入價格平均	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇
申込總口數	六七八	一、六八六	一、六八六	一、六八六	一、六八六	一、六八六	一、六八六	一、六八六	一、六八六	一、六八六	一、六八六	一、六八六
官廳申込口數	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
同上金額	一、七五〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇
銀行會社申込口數	一五三	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一	二〇一
同上金額	六、八五〇、〇〇〇	一、〇七六、八六〇	一、〇七六、八六〇	一、〇七六、八六〇	一、〇七六、八六〇	一、〇七六、八六〇	一、〇七六、八六〇	一、〇七六、八六〇	一、〇七六、八六〇	一、〇七六、八六〇	一、〇七六、八六〇	一、〇七六、八六〇
學校申込口數	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇





千圓以上壹萬圓未滿  
壹萬圓以上

一〇八〇  
一〇〇〇

一〇〇〇  
八三〇

一〇四〇  
九一五

國債證券價格ノ概況ハ七分利付金祿公債證書ハ甚タ鈍ク保合ノ姿ニシテ其相場平均一月限リ九拾四圓五拾錢參厘壹毛ナリキ  
第二回募集ノ時即チ明治十七年五月ニ於ケル東京市場ノ概況ハ金融愈々緩慢ニシテ利息ハ日歩貳錢五厘内地爲替ハ大阪宛參著拂ニテ本打四五錢ナリキ然レトモ貸付ノ如キハ殆ト休業ト均シク金銀ノ流動アルハ唯荷爲替ノ一アルノミ而シテ是レトモ米ノ荷爲替多分ヲ占メ其他ノ貨物ニ係ル荷爲替ニ至リテハ洵ニ微々タル勢ニシテ一般ノ商況甚タ活潑ナラス時方ニ夏物仕入ノ最中ナリシト雖モ孰レモ其見込ノ立タサルカ爲メ却テ其節ヨリ冬物ノ見込ヲ立テ總テノ取引ハ唯向後ヲ計ルノ有様ナリキ今茲ニ十七年五月中貸付金ノ利子歩合最高最低及其平均ヲ見ルニ左表ノ如シ

抵當貸金額ノ區別	最		低		均
	高	最	平	平	
百圓以上千圓未滿	一四〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三〇〇	
千圓以上壹萬圓未滿	一二〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	
壹萬圓以上	一〇〇〇	九〇〇	九〇〇	九五〇	

國債證券ノ景況ハ氣配引緩ミ賣品多クシテ相場下落ノ傾向ヲ示シ五月十五日ニ於ケル七分利付

金祿公債證書ノ平均相場ハ五月限リ九拾四圓五拾八錢六月限リ九拾四圓五拾八錢五厘七月限リ九拾四圓五拾八錢九厘四毛ナリキ

第三回募集ノトキ即チ明治十八年六月ニ於ケル東京市場ノ概況ハ貸借上始ント取引ナキ行様ニシテ商賈中五百圓若クハ千圓ノ金額ヲ驛遞局へ預ケ入ル、者多ク銀行モ亦在金ノ運用ニ苦ミ大藏省證券ノ發行賣出ヲ望ムノ狀ヲ呈シ利息ハ通常日歩貳錢ヨリ參錢ノ間ヲ昇降セリ隨テ商況ハ依然沈靜ニ陥リタリ今茲ニ十八年六月ニ於ケル市中貸付金ノ利子歩合最高最低及其平均ヲ見ルニ左表ノ如シ

抵當貸金額ノ區別	最		低		均
	高	最	平	平	
百圓以上千圓未滿	一五〇〇	一三〇〇	一三〇〇	一三五〇	
千圓以上壹萬圓未滿	一二〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	
壹萬圓以上	一〇八〇	九〇〇	九〇〇	九九〇	

國債證券ノ賣買價格ハ益々昇進シ七分利付金祿公債證書ハ九拾九圓臺ニ上リ殆ト百圓ニ達スルノ勢ヲ示セリ

### 第八項 金札引換無記名公債

明治十六年十二月第四十八號布號ヲ以テ金札引換無記名公債證書條例ヲ發布シ尋テ十七年一月二十二日公債ニ關スル事務ヲ日本銀行ニ命任シ命令書ヲ附與セリ而シテ此等ノ規定ニヨレハ該

公債ハ別ニ募集ノ期限ヲ定メス隨時ニ内外人民ノ申込ニ從テ證券ヲ發行スルモノニシテ其方法タルヤ公債ヲ引受ケントスル者ハ證券額面百圓ニ付百圓ノ割ヲ以テ日本銀行本支店又ハ代理店ニ紙幣ヲ納付シ證券ノ交付ヲ請求スヘク而シテ金銀貨ヲ以テ納金センコトヲ望ム者アラハ其前月ニ於ケル市中ノ平均相場ヲ以テ紙幣ニ換算スルモノトス而シテ公債事務ノ取扱ヲ命セラル、ヤ明治十七年二月日本銀行ハ大藏卿ヨリ此公債ニ係ル事務ノ取扱ヲ日本銀行ニ命任セラレタル旨及證券引受ヲ望ム者ハ東京ニ在リテハ同銀行ノ本店ニ大阪ニ在リテハ其支店ニ又横濱ニアリテハ横濱正金銀行ニ神戸ニアリテハ三井銀行分店ニ長崎ニアリテハ第十八國立銀行ニ各申込ヲ爲ス可キコトヲ廣告シタリ然ルニ實際此廣告ニ應シテ申込ヲ爲シタルモノハ甚タ多カラズシテ前後僅ニ三十六口ニ止マリ其申込ヲ受ケタル取扱店ノ如キモ唯東京ト横濱トノ二箇所ニ過キサリシト雖モ其金額ニ就キテ之ヲ觀レハ總額七百九拾貳萬九千九百圓ニ達シ之ヲ金札引換公債證書ノ發行高ニ比スレハ百貳拾六萬六百五拾圓ノ超過ヲ見ルコト、ナリタリ抑モ明治十六年以來紙幣漸ク其價格ヲ復セシニ拘ラス尙ホ此結果アリシハ亦以テ新法ノ舊法ニ比シテ便利ナリシコトヲ知ルニ足ル既ニシテ紙幣ノ整理漸次其緒ニ就キ明治十八年第十四號布告ヲ以テ紙幣兌換ノコトヲ發布シ明治十九年一月ニハ全ク銀貨ト紙幣トノ間ニ價格ノ差ナキニ至リ復タ此證券ヲ發行スルノ要ナク且ツ紙幣ノ銷却ニ由リ利子歩合大ニ低落シ六分ノ利付證券ノ發行ハ實地ニ適セサルコト、爲レリ是ニ於テ大藏大臣ハ條例第二條但書ニ大藏卿ハ財政ノ都合ヲ計リ其申込ヲ拒ムコトアルヘシトアルノ規定ニ基キ同月二十六日ヲ以テ日本銀行ニ命令シテ該證券ニ對アル引受ノ申込ヲ拒絕セシメ玆ニ全ク此證券發行ノ業ヲ終ヘタリ蓋シ此公債ハ我國紙幣ノ價格恢復上

與リテ頗ル力アリシモノト謂フヘシ而シテ證券發行高ニ就キテ其年次及申込ヲ受ケタル取扱店ヲ區別スレハ左表ノ如シ

取扱店	十七年發行	十八年發行	十九年發行	合計
本店	一、四一四、六〇〇	一、五七二、二〇〇	四、九三二、六〇〇	七、九一八、四〇〇
横濱代理店	〇	一一五、〇〇〇	〇	一一五、〇〇〇
合計	一、四一四、六〇〇	一、五八七、二〇〇	四、九三二、六〇〇	七、九二九、四〇〇

右發行ノ年次ハ證券引受申込人ヨリ紙幣ヲ納付シタル日ヲ以テ區分シタルモノニシテ實際證券交付ハ多少遅延シテ或ハ翌年ニ涉リタルモノナキニアラサルハ亦止ムヲ得サル所ナリ今玆ニ交付ノ年月ニ就テ發行額ヲ區分スレハ左表ノ如シ

證券交付年月	發行處	前年發行	其年發行	合計
十七年五月	〇	〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
同年七月	〇	〇	三、五〇〇、〇〇〇	三、五〇〇、〇〇〇
同年八月	〇	〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
同年九月	〇	〇	七、九〇〇、〇〇〇	七、九〇〇、〇〇〇
同年十月	〇	〇	五、六〇〇、〇〇〇	五、六〇〇、〇〇〇
十八年一月	一、二六〇、〇〇〇	〇	〇	一、二六〇、〇〇〇

十八年二月	〇	五〇〇	五〇〇
同年三月	〇	一〇、八〇〇	一〇、八〇〇
同年四月	〇	五、七〇〇	五、七〇〇
同年五月	〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
同年六月	〇	二七、七〇〇	二七、七〇〇
同年九月	〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同年十月	〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
同年十二月	〇	三五、四〇〇	三五、四〇〇
十九年一月	二〇〇	一九三、二六〇	一九三、二八〇
同年二月	〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
同年三月	〇	七、八一七、一〇〇	七、九二九、九〇〇
合計	一二、八〇〇		

又前表ノ發行高ニ就キ其請求者ノ種類等ヲ區分スレハ左表ノ如シ

取扱店	宮内省	皇族	官廳	銀行	一般人民	外國人	合計
本店	五八八、四〇〇	一、五三〇、〇〇〇	一、二八五、九〇〇	五六一、四〇〇	五〇五、九〇〇	一一九、〇〇〇	七、九一八、〇〇〇
横濱代理店	〇	〇	〇	〇	五〇〇	一一、〇〇〇	一一、五〇〇
合計	五八八、四〇〇	一、五三〇、〇〇〇	一、二八五、九〇〇	五六一、四〇〇	五〇六、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	七、九二九、九〇〇
申込口數	四日	五日	九日	七日	三日	八日	三日

又茲ニ明治十七年四月中横濱在留英國人「イー、ビー、ワットソン」ノ要約ニ因リ日本銀行總裁ニ於テ此公債證書ヲ同人ニ賣却スルノ契約ヲ締結シ以テ一時ニ多額ノ證券ヲ發行シ外資ノ輸入ヲ計ラントスルノ舉アリシモ竟ニ満足ノ結果ヲ得スシテ止ミタルノ一事アリ請フ聊カ其梗概ヲ述ヘシ是ヨリ先キ「イー、ビー、ワットソン」ハ書ヲ日本銀行總裁ニ寄セ公債證書引受ノコトヲ述ヘ尋テ種々ノ約款ヲ具シテ其承諾ヲ求メタルニ由リ同總裁ハ之ヲ大藏卿ニ具申セリ大藏卿亦其義ヲ嘉納シ聽許ノ指令ヲ與ヘ其旨ヲ太政官ニ申報シタリ今當時締結ノ契約條項ヲ案スルニ其要旨概略左ノ如シ

- 一 此公債證書額面壹千萬圓迄ノ高ヲ悉ク五百圓券ヲ以テ日本銀行總裁ヨリ「イー、ビー、ワットソン」ヘ賣渡スコト尤同總裁ハ此高ヲ八百萬圓迄ニ減額スルノ全權ヲ有スルモノトス
- 二 「ワットソン」ハ前記公債證書ヲ日本ニ於テ受取ルトキ或ハ其以前ニ額面百圓ニ付銀貨九拾圓ノ割合ヲ以テ其代價ヲ日本銀行ニ仕拂フモノトス而シテ此拂方ハ明治十七年七月一日ヨリ賦納シ同年十二月三十一日迄ニ終ル又公債證書ノ利子ハ同年十二月一日ニヨリ付スルモノトス
- 三 此公債證書ノ代價ハ銀地金ヲ以テ大阪造幣局若クハ横濱ニ於テ受渡ヲ爲スモノトシ一時ニ全額ヲ拂渡スカ又ハ一部分ツ、ヲ數回ニ拂渡スカハ「ワットソン」ノ便宜ニ任スコト而シテ「ワットソン」ハ其受渡ノトキ百分ノ一ノ割合ヲ以テ鑄造費ヲ仕拂若シ横濱ニ於テスルトキハ大阪造幣局迄ノ運搬費ヲモ辨出スルモノトス
- 四 前項ノ通り拂渡シタル銀地金ハ其受渡ノ當日日本銀行ニ於テ最近ノ概算ヲ以テ之ヲ現金

トシテ納金ニ記入シ追テ鑄造ノ上精算ヲ遂クルモノトス但シ玆ニ所謂銀地金ハ支那ノ林銀ヲモ含ムモノナリ

五 明治十七年十一月三十日以内ニ拂込ミタル金額ニハ總テ其拂込ミタル日ヨリ同年十一月三十日迄ノ利子ヲ一箇年六分ノ割合ニテ日本銀行ヨリ「ワットソン」ニ仕拂フモノトス又同年十二月一日以後拂込ミタル金額ニ對シテハ十二月一日ヨリ其拂込當日迄ノ利子ヲ一箇年六分ノ割合ニテ「ワットソン」ヨリ日本銀行ヘ仕拂フモノトス

六 此公債ニ關シ雙方ノ間ニ取結ヒタル約定ニ付テハ明治十七年十二月三十一日以後其義務ヲ免ル可キコトヲ互ニ約定ス

右ノ契約ニ因リ「ワットソン」ハ英國倫敦ニ歸航シ專ラ證券賣出ノコトニ斡旋セリ然ルニ此公債ノ元利金ハ銀貨ヲ以テ仕拂フヘキモノナルニヨリ歐洲市場ニ於テ十分ノ價值ヲ占ムルコト能ハス故ニ英貨ニ基キ三志八片ノ相場ヲ以テ仕拂フヘキコトニ改定セハ倫敦ニ於テ百ニ對スル九十五ノ價格ヲ以テ容易ニ壹千萬圓ノ證券ヲ賣捌キ得ヘシト爲シ其方法ハ別ニ證券ヲ變更スルヲ要セス唯在倫敦日本領事ニ於テ其裏書ヲ爲セハ足レリトスル旨「ワットソン」ヨリ之ヲ在倫敦園田領事ニ申出テ又同人代辨者タル在橫濱「ヂ、オ、ウ、オ、イ、チ、ヨ、ウ、ブ」ヨリハ之ヲ日本銀行總裁ニ通シタリ因テ園田領事ヨリ大藏卿ニ對シ電報ヲ以テ之ニ同意スルヤ否ヤヲ問合セ來リシニ大藏卿ハ明治十七年六月十六日金札公債ハ最前約定ノ通ニアラサレハ此際許可セサルナリトノ返電ヲ送り又其翌十七日日本銀行ニ令シテ其旨ヲ在橫濱「ヂ、オ、ウ、オ、イ、チ、ヨ、ウ、ブ」ニ傳達セシメタリ是ニ於テ「ワットソン」日本銀行總裁トノ約定ハ竟ニ其結果ヲ得スシテ消滅ニ歸シタリ

### 第九項 海軍公債

海軍公債ハ明治十九年六月ヨリ同二十二年三月マテノ間平價募集高價發行ノ方法ニ依リ前後四回ニ之ヲ募集シタリ左ニ募集ノ景況ヲ略陳セン

第一回募集ハ明治十九年六月十六日大藏省令第二十二號ヲ以テ其手續ヲ定メ總額ヲ五百萬圓ト豫定シ其發行價格ハ額面百圓ニ對シ百圓トシ應募者ハ明治十九年七月十日迄ニ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ申込みヘキモノト爲セリ即チ左ノ如シ

本年六月十二日勅令第四十七號海軍公債證書條例ニ據リ額面五百萬圓ノ證書ヲ發行シ其手續左ノ通相定ム

#### 海軍公債證書發行手續

第一條 發行スヘキ證書ノ種類ハ大藏省ノ都合ヲ以テ交付スルモノトス

第二條 證書ノ發行價格ハ額面金高百圓ニ付金百圓トス

第三條 證書ノ引受ヲ望ムモノハ本年七月十日マテニ其引受クヘキ證書ノ金高及ヒ價格竝ニ其住所姓名ヲ記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ申込みヘシ但シ代理店ノ名稱及ヒ場所ハ日本銀行ヨリ廣告セシムヘシ

第四條 證書引受ノモノハ證書額面金高百圓ニ付金拾圓宛保證金トシテ其申込みヘキ銀行店ヘ拂込ムヘシ

第五條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ前條保證金ノ拂込アルトキハ領收證書ヲ交付ス

ヘシ但シ此證書ハ賣買スルヲ得ス

第六條 大藏省ニ於テハ本年八月十日マテニ各申込人へ渡スヘキ證書ノ高ヲ定メ日本銀行ヨリ通知セシムルニ付其引受高ニ對スル金額ノ内保證金ヲ引去リタル跡金ノ第一回ハ來九月十五日ヨリ三十日マテ第二回ハ十一月十五日ヨリ三十日マテニ半額宛ヲ拂込ムヘシ

第七條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ前條ノ拂込アルトキハ假證書ヲ作り保證金受取證書及ヒ現金ト引換ニ之ヲ渡スヘシ但假證書ハ官府及ヒ日本銀行へ抵當ニ差入ル、ヲ得ヘシト雖モ各自ニ賣買スルヲ得ス

第八條 本證書ハ追テ日本銀行ヨリ假證書ト引換ニ各引受申込人へ交付セシムルモノトス

第九條 第六條ノ拂込金ヲ期日マテニ其申込店へ出金セサルトキハ第四條ノ保證金及ヒ第一回拂込金ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返付セサルモノトス

第十條 保證金受取證書ヲ亡失シタルトキハ其證書ノ番號及ヒ所持人ノ住所姓名等ヲ記シ其申込店へ速ニ報告スヘシ

第十一條 前條ノ場合ニ於テハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ本人ニ就キ保證金受取證書又ハ假證書亡失ノ手續ヲ證明セシメ且二人以上ノ證印アル證書ヲ以テ其事由ヲ保證セシメテ代リ證書ヲ渡シ舊證書ハ無効ノ旨新聞紙等ニテ廣告スヘシ

第十二條 保證金及ヒ拂込金高ニ對スル利子ハ一箇年百分ノ五ノ割ヲ以テ其拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其半月分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第十三條 條例第六條ニ據リ超過額減却ニ付差戻スヘキ保證金ニハ利子ヲ附セサルモノトス

第十四條 保證金及ヒ跡金ノ利子公債證書ニ附屬ノ利札額(年分)ニ滿タサル利金ハ本證書交付ノ節拂渡スモノトス

而シテ期日マテニ應募ノ申込ヲ爲シタル口數ハ二千六口ニシテ其金額總計千六百六拾四萬貳千參百圓ニ上リ募集豫定額ヲ超過スルコト實ニ千六百六拾四萬貳千參百圓ナリトス而シテ應募價格ノ如キモ最高キハ百拾圓ニ達シ百參圓六錢以上ノ申込ヲ以テ豫定額ニ滿チタリ仍テ最高價百拾圓ノモノヨリ順次募入シ百參圓六錢ノモノニ至テ割合ヒ減少ヲ行ヒテ豫定額ニ滿テ他ハ總テ之ヲ除却シタル爲メニ國庫ニ實收シタル金額ハ豫定額五百萬圓ニ對シ五百拾八萬七千八百參拾貳圓四拾參錢六厘ニシテ即チ券面金額百圓ニ付平均百參圓七拾五錢七厘弱ノ割合ニ相當セリ蓋シ此舉ヤ市場ノ金融最モ緩慢ヲ極メタルノ時機ニ投セシカ爲メ前陳ノ如ク其應募額ハ募集豫定額ニ比シテ實ニ三倍三割強ノ巨額ニ上ルノ好景況ヲ呈シタリ今其結果ヲ地方別ニ分チ表出セン

府縣名	應募高	申込口數	募入高	最高	最低	募入外レ高	外レ高價募入	價格募入外レ高
東京府	六八八、四〇〇	三二九	一、一八八、四〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	四、九八五、九〇〇	一、三三三、〇〇〇	一、〇〇〇
京都府	一、一七〇、〇〇〇	一、一八	一、一七〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、一七〇、〇〇〇	一、一七〇、〇〇〇	一、一七〇、〇〇〇
大阪府	一、一七〇、〇〇〇	一、一八	一、一七〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、一七〇、〇〇〇	一、一七〇、〇〇〇	一、一七〇、〇〇〇
神奈川縣	五、六九一、〇〇〇	一、九	五、六九一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	五、六九一、〇〇〇	五、六九一、〇〇〇	五、六九一、〇〇〇
兵庫縣	六、一八〇、〇〇〇	二、七	六、一八〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	六、一八〇、〇〇〇	六、一八〇、〇〇〇	六、一八〇、〇〇〇



宮崎縣	三六,100 円	六 日	〇 円	〇 円	三六,100 円	〇 円	〇 円	〇 円	三六,100 円
鹿兒島縣	五二,100 円	五 日	三,100 円	一〇,100 円	五二,100 円	三,100 円	一〇,100 円	〇 円	五二,100 円
北海道的	三,100 円	五 日	〇 円	〇 円	三,100 円	〇 円	〇 円	〇 円	三,100 円
合計	九一,300 円	一六 日	三,100 円	一〇,100 円	九一,300 円	三,100 円	一〇,100 円	〇 円	九一,300 円

第二回募集ハ明治二十年三月二日大藏省告示第二十一號ヲ以テ六百萬圓ヲ募集シ發行價格ハ前回ト同シクシ其應募申込期限ヲ同年三月十六日ヨリ同シク二十五日迄ト定メ又拂込ヲ二期ニ分チ第一期ハ同年四月二十日ヨリ五月十日マテ第二期ハ六月十六日ヨリ二十五日マテトセリ其他第一期若クハ其以後ニ於テ第二期分ノ全額若クハ幾分ノ拂込ヲナスモ妨ナキモノトシ以テ應募者ニ便宜ヲ與ヘタリ而シテ期日迄ニ應募ノ申込ヲ爲シタル口數ハ千二百三十三口其金額總計八百四拾四萬七千七百圓ニシテ即チ募集豫定額六百萬圓ニ超過スルコト實ニ貳百四拾四萬七千七百圓ナリ仍テ應募額中五百七拾九萬參千九百圓ハ最高價百五圓拾錢ノモノヨリ順次募入シ其殘額ハ價格百圓ノモノヲ割合ヒ減少シテ以テ豫定額ニ滿ツルコトヲ得爲メニ國庫ニ實收シタル金額ハ六百四萬八千七百拾五圓六錢六厘ニシテ之ヲ募集豫定額ニ割合フトキハ券面金額百圓ニ付平均百圓八拾壹錢貳厘弱ニ相當セリ此外拂込金延滞利子トシテ金拾圓八錢參厘ヲ收入シタルカ故ニ實際國庫ニ收入シタル金額ハ前記ノ實收額ト併セテ六百四萬八千七百貳拾五圓拾四錢九厘ト爲リシナリ蓋シ這回ノ募集ニ際シテモ市場ノ金融頗ル緩慢ナリシト雖モ其應募額ノ前回ニ比シテ著シク減少シタルハ恰モ新茶產出ノ時季ニ臨ミ前途ニ金融繁忙ノ見込アリシニ由ルモノナリ茲ニ其募集ノ結果ヲ地方別ニ表出スレハ左ノ如シ

府縣名	應募高	申込口數	募入高	内		譯	
				高價募入高	高價ノ内最低	價格募入高	募入外レ高
東京府	六,100,000 円	三,四九 日	三,七五七,三〇〇 円	三,五七六,六〇〇 円	一〇〇,〇〇〇 円	一六六,七〇〇 円	二,三三三,三〇〇 円
京都府	二,六〇〇,〇〇〇 円	一〇六 日	二,二四〇,〇〇〇 円	二,二三三,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	二,二四〇,〇〇〇 円
大阪府	四,七〇〇,〇〇〇 円	二,九 日	四,一六〇,〇〇〇 円	四,一五九,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	四,一六〇,〇〇〇 円
神奈川縣	三,三〇〇,〇〇〇 円	六 日	三,一七〇,〇〇〇 円	三,一七〇,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	三,一七〇,〇〇〇 円
兵庫縣	二,八〇〇,〇〇〇 円	一四 日	二,八〇〇,〇〇〇 円	二,八〇〇,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	二,八〇〇,〇〇〇 円
埼玉縣	二,八〇〇,〇〇〇 円	八 日	二,八〇〇,〇〇〇 円	二,八〇〇,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	二,八〇〇,〇〇〇 円
長崎縣	三,九〇〇,〇〇〇 円	一 日	三,九〇〇,〇〇〇 円	三,九〇〇,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	三,九〇〇,〇〇〇 円
新潟縣	三,三〇〇,〇〇〇 円	一五 日	三,七四〇,〇〇〇 円	二,九七〇,〇〇〇 円	〇 円	八〇〇,〇〇〇 円	九四〇,〇〇〇 円
群馬縣	一,八〇〇,〇〇〇 円	九 日	一,八三〇,〇〇〇 円	一,八三〇,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	一,八三〇,〇〇〇 円
千葉縣	八〇〇,〇〇〇 円	二 日	八〇〇,〇〇〇 円	八〇〇,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	八〇〇,〇〇〇 円
茨城縣	四,〇〇〇,〇〇〇 円	二 日	四〇〇,〇〇〇 円	四〇〇,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	四〇〇,〇〇〇 円
栃木縣	一,五〇〇,〇〇〇 円	四 日	一,五〇〇,〇〇〇 円	一,五〇〇,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	一,五〇〇,〇〇〇 円
三重縣	九,〇〇〇,〇〇〇 円	三 日	九,〇〇〇,〇〇〇 円	九,〇〇〇,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	九,〇〇〇,〇〇〇 円
愛知縣	一,七〇〇,〇〇〇 円	五 日	一,七〇〇,〇〇〇 円	一,七〇〇,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	一,七〇〇,〇〇〇 円
靜岡縣	一,八〇〇,〇〇〇 円	一四 日	一,八〇〇,〇〇〇 円	一,八〇〇,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	一,八〇〇,〇〇〇 円
山梨縣	三,九〇〇,〇〇〇 円	七 日	三,九〇〇,〇〇〇 円	三,九〇〇,〇〇〇 円	〇 円	〇 円	三,九〇〇,〇〇〇 円



滋賀縣	16,000	1	16,000	16,000	16,000	0	0
岐阜縣	30,000	1	30,000	30,000	30,000	0	0
長野縣	38,000	1	38,000	38,000	38,000	0	0
宮城縣	25,000	1	25,000	25,000	25,000	0	0
岩手縣	10,000	1	10,000	10,000	10,000	0	0
青森縣	15,000	1	15,000	15,000	15,000	0	0
山形縣	15,000	1	15,000	15,000	15,000	0	0
秋田縣	100	1	100	100	100	0	0
福島縣	11,000	1	11,000	11,000	11,000	0	0
石川縣	31,000	1	31,000	31,000	31,000	0	0
富山縣	49,000	1	49,000	49,000	49,000	0	0
島根縣	33,500	1	33,500	33,500	33,500	0	0
鳥取縣	31,700	1	31,700	31,700	31,700	0	0
岡山縣	18,600	1	18,600	18,600	18,600	0	0
廣島縣	37,500	1	37,500	37,500	37,500	0	0
山口縣	35,000	1	35,000	35,000	35,000	0	0
和歌山縣	49,700	1	49,700	49,700	49,700	0	0
徳島縣	45,600	1	45,600	45,600	45,600	0	0

高知縣	4,800	6	4,800	4,800	4,800	0	0
愛媛縣	15,000	6	15,000	15,000	15,000	0	0
福岡縣	8,500	3	8,500	8,500	8,500	0	0
大分縣	52,000	15	52,000	52,000	52,000	0	0
佐賀縣	20,500	9	20,500	20,500	20,500	0	0
熊本縣	25,800	19	25,800	25,800	25,800	0	0
鹿兒島縣	16,500	14	16,500	16,500	16,500	0	0
北海道	35,000	3	35,000	35,000	35,000	0	0
合計	4,747,700	101	4,747,700	4,747,700	4,747,700	10,210	1,187,700

第三回募集ハ明治二十一年二月二十八日大藏省告示第十九號ヲ以テ其募集額ヲ貳百萬圓ト豫定シ應募申込期限ハ同年三月十六日ヨリ同月二十五日マテト定メ又拂込ハ第一期ヲ本年四月二十日ヨリ五月五日マテ第二期ヲ六月十六日ヨリ同月三十日マテトシ其他發行價格及繰上拂等ハ前回ニ同シ期日マテニ應募ノ申込ヲ爲シタル口數四百六十一口其金額總計參百八拾四萬五千五百圓ニシテ募集豫定額貳百萬圓ニ超過スルコト百八拾四萬五千五百圓ニ及ヘリ仍テ應募額中百貳拾九萬五千參百圓ハ最高額百貳圓五拾錢ノモノヨリ順次募入シ其殘額ハ價格百圓ノモノヲ割合ヒ減少シ以テ募集額貳百萬圓ニ充テタリ而シテ之カ爲メニ國庫ニ實收シタル金額ハ貳百萬四千貳百拾圓四錢貳厘ト爲リ之ヲ募集豫定額ニ割合フトキハ券面金額百圓ニ付平均百圓貳拾壹錢壹厘弱ニ相當セリ蓋リ這回募集ノトキモ世上ノ金融ハ寧ろ緩慢ナリシニ拘ラス一般利子ノ歩台低

下セス随テ國債證券及株券ノ相場沈睡セルノ際ナリシカ爲メ其應募最高價格ハ第一回及第二回募集ノトキノ如クナルヲ得サリシト雖モ尙其應募額ハ募集豫定額ニ超過スルコト九割二分三厘弱ニ當リ第二回募集ノトキヨリハ却テ好況ヲ呈シタリ今其結果ヲ地方別ニ表出スレハ左ノ如シ

府縣名	應募高	申込口數	募入高	内		募入外レ高
				高價募入高	高價ノ内最高最低	
東京府	1,276,000	五六	768,100	1,111,000	1,000,000	507,900
京都府	1,017,000	三〇	1,017,000	1,017,000	1,000,000	17,000
大阪府	674,700	三四	674,700	674,700	600,000	74,700
神奈川府	1,700	六	600	1,100	91,000	1,094,000
兵庫縣	1,176,000	四	1,176,000	1,176,000	1,000,000	176,000
長崎縣	1,175,000	六	1,175,000	1,175,000	1,000,000	175,000
新潟縣	1,131,000	一五	575,500	1,131,000	1,000,000	131,000
埼玉縣	1,079,000	三	1,079,000	1,079,000	1,000,000	79,000
群馬縣	860,000	一	860,000	860,000	1,000,000	130,000
千葉縣	300	一	300	300	1,000,000	999,700
栃木縣	1,700	一	800	1,700	1,000,000	1,698,300
茨城縣	1,700,000	一	1,700,000	1,700,000	1,000,000	700,000
三重縣	728,000	二七	265,500	1,176,000	1,000,000	176,000

府縣名	應募高	申込口數	募入高	内		募入外レ高
				高價募入高	高價ノ内最高最低	
愛知縣	1,500	一	1,500	1,500	1,000,000	998,500
靜岡縣	367,000	一〇	367,000	367,000	1,000,000	633,000
山梨縣	700	一	700	700	1,000,000	999,300
滋賀縣	1,176,000	一	1,176,000	1,176,000	1,000,000	176,000
岐阜縣	7,000	六	7,000	7,000	1,000,000	993,000
長野縣	1,176,000	一	1,176,000	1,176,000	1,000,000	176,000
福島縣	1,176,000	一	1,176,000	1,176,000	1,000,000	176,000
宮城縣	1,176,000	一	1,176,000	1,176,000	1,000,000	176,000
岩手縣	1,176,000	一	1,176,000	1,176,000	1,000,000	176,000
青森縣	1,176,000	一	1,176,000	1,176,000	1,000,000	176,000
山形縣	1,176,000	一	1,176,000	1,176,000	1,000,000	176,000
秋田縣	1,176,000	一	1,176,000	1,176,000	1,000,000	176,000
福島縣	7,000	一	7,000	7,000	1,000,000	993,000
富山縣	311,000	一	311,000	311,000	1,000,000	689,000
石川縣	1,079,000	一	1,079,000	1,079,000	1,000,000	79,000
島根縣	7,000	一	7,000	7,000	1,000,000	993,000
鳥取縣	7,000	一	7,000	7,000	1,000,000	993,000
岡山縣	1,176,000	一	1,176,000	1,176,000	1,000,000	176,000

合 計	北 海 道	宮 崎 縣	熊 本 縣	大 分 縣	福 岡 縣	香 川 縣	德 島 縣	高 知 縣	愛 媛 縣	和 歌 山 縣	山 口 縣	廣 島 縣
三、八、五、〇〇	七、〇〇〇	三、〇〇〇	七、六、六、〇〇	三、三、〇〇〇	五、九、〇〇〇	一、一、〇〇〇	七、三、三、〇〇	五、六、〇〇〇	七、九、四、〇〇	五、三、三、〇〇	三、三、〇〇〇	一、〇、八、〇〇〇
五	四	二	九	七	六	三	一〇	五	一六	一五	六	一四
三、〇〇〇、〇〇〇	六、六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、六、六、〇〇	三、三、〇〇〇	五、九、〇〇〇	一、一、〇〇〇	七、三、三、〇〇	五、六、〇〇〇	七、九、四、〇〇	五、三、三、〇〇	三、三、〇〇〇	一、〇、八、〇〇〇
一、三、九、五、〇〇〇	六、六、〇〇〇	三、〇〇〇	七、六、六、〇〇〇	三、三、〇〇〇	五、九、〇〇〇	一、一、〇〇〇	七、三、三、〇〇〇	五、六、〇〇〇	七、九、四、〇〇〇	五、三、三、〇〇〇	三、三、〇〇〇	一、〇、八、〇〇〇
一、〇、八、〇〇〇	三、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一、三、九、五、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一、三、九、五、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

第四回募集ハ明治二十二年三月十八日大藏省告示第三十號ヲ以テ其募集額ヲ四百萬圓ト豫定シ額面百圓ノ平價ヲ以テ募集シ應募申込期限ハ同年四月一日ヨリ同月八日迄ト定メ又拂込期限ハ第一期本年四月二十七日ヨリ五月七日マテ第二期五月十六日ヨリ同月二十五日マテトスル旨ヲ公告セリ而シテ期日マテニ應募ノ申込ヲ爲シタル口數三百五十口其金額總計五百參萬參千圓ニシ

テ募集豫定額四百萬圓ニ超過スルコト百參萬參千參百圓ニ及ヘリ仍テ應募額中四百參拾貳萬四千百圓ハ最高價百壹圓八拾錢ヨリ順次募入トシ其殘額ハ百圓五錢六厘ノモノヲ割合ヒ減少シ以テ募集額貳百萬圓ニ充テタリ而シテ之カ爲メニ國庫ニ實收シタル金額ハ四百萬參千參百九拾五圓六拾參錢貳厘ト爲リ募入價格ハ券面金額百圓ニ付百圓八錢五厘弱ニ相當セリ又此外ニ拂込金延滯利子トシテ收入シタルモノ金參拾參錢八厘アルカ故ニ全ク實收ノ總額ハ四百萬參千參百九拾五圓九拾七錢ト爲ルナリ蓋シ這回ノ募集タル鐵道費補充公債及整理公債ノ募集ト相接シテ起リ募集ノコト頗ル繁劇ニ失スルノ感ナキヲ得サリシト雖モ條例規定ノ募集期限將ニ盡キントシ加フルニ金融市場ニ於テモ前回ノ整理公債募集ニ外レタル者其資金ヲ放下スヘキノ道ヲ索メツツアルノ狀況ナリシニ由リ政府ハ彼是事情ヲ酌量シ斷然募集ヲ決行シタルモノナリシカ幸ニシテ豫圖ヲ愆ラス終ニ前陳ノ如キ結果ヲ收ムルコトヲ得タリ今其募集ノ結果ヲ地方別ニ表出スレハ左ノ如シ

府 縣 名	應募高	申込口數	募入高	募入ノ内 最高 最低	募入外レ高	内 最高 最低	外レ高
東 京 府	四、九、九、〇〇	一、一	四、九、九、〇〇	四、九、九、〇〇	四、九、九、〇〇	四、九、九、〇〇	四、九、九、〇〇
京 都 府	四、九、九、〇〇	一、一	四、九、九、〇〇	四、九、九、〇〇	四、九、九、〇〇	四、九、九、〇〇	四、九、九、〇〇
大 阪 府	一、七、七、〇〇	三	一、七、七、〇〇	一、七、七、〇〇	一、七、七、〇〇	一、七、七、〇〇	一、七、七、〇〇
神 奈 川 縣	七、六、六、〇〇	五	七、六、六、〇〇	七、六、六、〇〇	七、六、六、〇〇	七、六、六、〇〇	七、六、六、〇〇

兵庫縣	11,100	四	11,100	100,000	0	0	0
長崎縣	11,000	一	11,000	100,100	0	0	0
新潟縣	18,100	五	18,100	100,100	111,700	1,700	110,000
千葉縣	6,000	二	6,000	100,100	5,000	0	5,000
茨城縣	1,000	一	1,000	100,150	0	0	0
栃木縣	300	二	300	100,500	0	0	0
奈良縣	110	一	110	100,110	0	0	0
三重縣	2,570	一八	2,570	100,500	1,710	0	0
愛知縣	9,210	三五	9,210	100,500	1,710	0	0
靜岡縣	1,100	五	1,100	100,500	0	0	0
山梨縣	1,050	四	1,050	100,100	100	100	0
滋賀縣	1,900	七	1,900	100,000	0	0	0
岐阜縣	700	二	700	100,100	0	0	0
長野縣	13,000	二	13,000	101,200	10,000	10,000	0
福島縣	4,100	二	4,100	100,110	5,000	5,000	0
宮城縣	3,000	二	3,000	100,000	0	0	0
岩手縣	10,000	一	10,000	100,400	0	0	0
山形縣	11,000	一	11,000	100,100	11,000	11,000	0

福井縣	11,000	五	11,000	100,100	1,000	1,000	0
石川縣	5,000	一	5,000	100,100	1,000	1,000	0
富山縣	110,000	一	110,000	100,100	0	0	0
島根縣	11,100	六	11,100	100,100	0	0	0
鳥取縣	11,000	二	11,000	100,100	0	0	0
岡山縣	11,000	一	11,000	100,100	0	0	0
廣島縣	110	一	110	100,100	0	0	0
山口縣	10,100	八	10,100	100,100	5,000	5,000	0
和歌山縣	6,100	一〇	6,100	100,100	2,100	2,100	0
德島縣	2,210	三	2,210	100,100	4,000	4,000	0
香川縣	4,670	三	4,670	100,100	0	0	0
高知縣	110	三	110	100,100	0	0	0
愛媛縣	3,000	八	3,000	100,100	300	300	0
福岡縣	2,600	九	2,600	100,100	1,000	1,000	0
大分縣	1,900	六	1,900	100,100	0	0	0
佐賀縣	110	一	110	100,100	1,000	1,000	0
熊本縣	10,100	一	10,100	100,100	0	0	0
宮崎縣	10,400	二	10,400	100,100	500	500	0

鹿兒島縣	111,400 円	12 円	11,400 円	101,000 円 100,100 円	10,000 円	10,000 円
北海道	1,100 円	1 円	1,100 円	100,000 円	0 円	0 円
合計	5,011,300 円	100 円	5,000,000 円	1,000,000 円	1,000,000 円	40,000 円

之ヲ要スルニ海軍公債ハ明治十九年ヨリ同二十二年マテ前後四回ニ分チ募集セラレタルモノニシテ起債總額ハ千七百萬圓ナリ而シテ之カ發行價格ハ額面百圓ニ對シ百圓即チ平價ヲ以テ最低價ト定メタルニ毎回非常ノ好況ヲ呈シ應募總額ハ參千參百九拾六萬八千八百圓ニシテ殆ント募集額ノ二倍ニ達セリ依テ最高價百拾圓ノモノヨリ百圓ニ至ルマテ順次募入トシ千七百貳拾四萬四千百五拾參圓拾七錢六厘ハ國庫ノ收入トナレリ故ニ之ヲ發行額面千七百萬圓ニ對比スルトキハ貳拾四萬四千百五拾參圓餘ノ收入ハ全ク高價發行ノ結果ニシテ其平均價格ハ百壹圓四拾參錢六厘ノ割合トナルナリ今毎回募集ノ景況ヲ概括シテ表出スレハ左ノ如シ

事	由	第一回	第二回	第三回	第四回	合計又ハ平均
本店へ申込高	6,800,000 円	5,400,000 円	11,500,000 円	6,000,000 円	6,000,000 円	14,100,000 円
支店へ申込高	1,900,000 円	6,000,000 円	6,000,000 円	1,700,000 円	11,000,000 円	11,000,000 円
代理店へ申込高	7,800,000 円	8,100,000 円	1,000,000 円	9,000,000 円	11,000,000 円	11,000,000 円
申込總高	16,500,000 円	19,500,000 円	18,500,000 円	16,700,000 円	38,000,000 円	33,600,000 円
募集最低價格	100,000 円	100,000 円	100,000 円	100,000 円	100,000 円	100,000 円
募集最高價格	5,000,000 円	6,000,000 円	11,000,000 円	6,000,000 円	6,000,000 円	14,000,000 円

最低價格申込高	高價申込高	實收高	募集額外超過高	申込價格最高	本店へ申込内最高價格	高價申込ノ内最低	申込價格平均	募入價格平均	申込總口數	官廳申込口數	同上金額	銀行會社申込口數	同上金額	學校申込口數	同上金額	病院申込口數	同上金額	社寺申込口數	
5,571,600 円	6,700,000 円	5,178,800 円	11,600,000 円	110,000 円	110,000 円	100,000 円	101,900 円	101,700 円	100,600 円	11,000 口	55,600 円	17,000 口	17,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円
5,571,600 円	6,700,000 円	5,178,800 円	11,600,000 円	110,000 円	110,000 円	100,000 円	101,900 円	101,700 円	100,600 円	11,000 口	55,600 円	17,000 口	17,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円
5,571,600 円	6,700,000 円	5,178,800 円	11,600,000 円	110,000 円	110,000 円	100,000 円	101,900 円	101,700 円	100,600 円	11,000 口	55,600 円	17,000 口	17,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円
5,571,600 円	6,700,000 円	5,178,800 円	11,600,000 円	110,000 円	110,000 円	100,000 円	101,900 円	101,700 円	100,600 円	11,000 口	55,600 円	17,000 口	17,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円
5,571,600 円	6,700,000 円	5,178,800 円	11,600,000 円	110,000 円	110,000 円	100,000 円	101,900 円	101,700 円	100,600 円	11,000 口	55,600 円	17,000 口	17,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円
5,571,600 円	6,700,000 円	5,178,800 円	11,600,000 円	110,000 円	110,000 円	100,000 円	101,900 円	101,700 円	100,600 円	11,000 口	55,600 円	17,000 口	17,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円
5,571,600 円	6,700,000 円	5,178,800 円	11,600,000 円	110,000 円	110,000 円	100,000 円	101,900 円	101,700 円	100,600 円	11,000 口	55,600 円	17,000 口	17,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円
5,571,600 円	6,700,000 円	5,178,800 円	11,600,000 円	110,000 円	110,000 円	100,000 円	101,900 円	101,700 円	100,600 円	11,000 口	55,600 円	17,000 口	17,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円
5,571,600 円	6,700,000 円	5,178,800 円	11,600,000 円	110,000 円	110,000 円	100,000 円	101,900 円	101,700 円	100,600 円	11,000 口	55,600 円	17,000 口	17,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円
5,571,600 円	6,700,000 円	5,178,800 円	11,600,000 円	110,000 円	110,000 円	100,000 円	101,900 円	101,700 円	100,600 円	11,000 口	55,600 円	17,000 口	17,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円	10,000 口	10,000 円

同上金額	600,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,070,000	1,110,000
一個人申込口數	1,677	5,121	5,121	5,121	5,121	5,157
同上金額	6,985,800,000	1,421,300,000	896,100,000	801,800,000	9,920,000,000	9,920,000,000

附 募集當時ノ金融

海軍公債募集ノトキ即チ明治十九年六月東京市場ニ於ケル金融ノ狀況ハ殆ト緩慢ノ極ニ達シ貸付資本金融場裏ニ横溢スルノ有様ニシテ銀行集會所ノ報告ニ據レハ其利子歩合ハ前月ニ比シ更ニ一層ノ低落ヲ來シ日歩ハ壹錢七厘抵當貸利子ハ金額ノ多少ニ依リ差異アルモ平均年一割五分ヨリ七分五厘六毛ノ間ニ在リタリ今茲ニ明治十九年六月中ノ利子歩合最高最低及平均ノ割合ヲ舉クレハ左表ノ如シ

抵當貸金額ノ區別	最	高	最	低	平	均
百圓以上千圓未満		1.100		0.900		1.050
千圓以上壹萬圓未満		0.946		0.706		0.813
壹萬圓以上		0.900		0.625		0.756

國債證券價格ノ景況ハ稍活潑ノ有様ニシテ七分利付金祿公債ノ如キハ六月中直取引平均相場百拾圓四拾錢ナリ

第二回募集ノトキ即チ明治二十年三月ニ於ケル東京市場ノ金融ハ商況ノ不振ト共ニ不活潑ト云

ノ外ナク當時七分ノ利付金祿公債ノ千萬圓ノ償還アリシモ殆ント市場ニ影響ヲ及サ、ルノ有様ニシテ利子歩合ノ如キハ日歩壹錢七八厘抵當貸ハ平均壹割參厘ヨリ七分六厘貳毛ノ間ニ居リタリ左ニ三月中ノ利子歩合最高最低及平均ノ割合ヲ舉ケン

抵當貸金額ノ區別	最	高	最	低	平	均
百圓以上千圓未満		1.160		0.900		1.030
千圓以上壹萬圓未満		0.925		0.765		0.845
壹萬圓以上		0.858		0.665		0.761

國債證券價格ノ景況ハ靜穩ノ有様ニシテ七分利付金祿公債ノ直取引相場ハ三月中平均百六圓九拾五錢貳厘ナリキ

第三回募集ノトキ即チ明治二十一年二月ニ於ケル東京市場ノ金融ヲ見ルニ例年此月ハ諸商業トモ一般ニ不景氣ナルヲ常トスレトモ當時ハ一層不振ノ有様ヲ呈シ隨テ金融緩慢ナリシカ唯輸入品ノ取引ニ關スル商業社會ニ於テハ漸ク繁忙ノ狀況ヲ現シタリ然レトモ尙ホ當時ノ利子歩合ハ銀行貸付日歩ノ如キ表面貳錢五厘ナルニ拘ラス實際貳錢參四厘ノ間ニテ取引セラレタルノ景況ナリ左ニ二月中ノ利子歩合最高最低及平均ノ割合ヲ舉ケン

抵當貸金額ノ區別	最	高	最	低	平	均
百圓以上千圓未満		1.100		1.000		1.100

千圓以上壹萬圓未滿	一〇八〇	八〇〇	九四〇
壹萬圓以上	一〇〇〇	七二〇	八六〇

國債證券價格ノ景況ハ靜穩ニシテ七分利付金祿公債ノ直取引相場ハ二月中平均百五圓貳拾錢九厘ナリキ

第四回募集ノトキ即チ明治二十二年三月ニ於ケル東京市場ノ金融ハ是ヨリ先キ鐵道費補充公債貳百萬圓及整理公債五百萬圓募集ノ舉アリ當時各其拂込中ナリシト雖モ之カ爲メニ著シキ影響ヲ受クルコトナク頗ル緩慢ノ有様ニシテ利子歩合ハ日步貳錢壹貳厘ノ間ヲ昇降シ抵當貸ハ平均一割一分ヨリ八分九厘ノ間ニ居リタリ左ニ三月中ノ利子歩合最高最低及平均ヲ擧ケン

抵當貸金額ノ區別	最	高	最	低	平	均
百圓以上千圓未滿		一・二〇〇		一・〇〇〇		一・一〇〇
千圓以上壹萬圓未滿		一・〇八〇		八〇〇		九四〇
壹萬圓以上		九八〇		八〇〇		八九〇

國債證券價格ノ景況ハ靜穩ニシテ七分利付金祿公債ノ直取引相場ハ三月中平均百五圓九拾壹錢整理公債ハ同百壹圓八拾七錢五厘ナリキ

第十項 整理公債

第一目 普通募集

整理公債ノ募集ハ明治十九年十月ニ起リ明治二十五年七月ニ終リ其間回ヲ累スルコト都テ五回其募集額ハ總計參千貳拾萬四千圓ニシテ爲メニ國庫ニ收入シタル實額ハ貳千九百九拾七萬千貳百拾七圓八拾參錢四厘(拂込延滞利)ト外ニ現金ノ代用トシテ六分以上利付ノ國債證券ヲ回收シタルモノ貳拾六萬貳千四百五拾圓アリ以下每回募集ノ概況ヲ略陳セン

明治十九年十月勅令第六十六號整理公債條例ノ公布アルヤ大藏大臣ハ同月二十三日ヲ以テ大藏省告示第九十八號ヲ發シ其募集ニ關スル手續ヲ定メ募集豫定額ヲ千萬圓募集最低價格ヲ券面金額百圓ニ付九拾八圓トナシタリ之ヲ第一回募集トス降リテ明治二十二年二月二十三日ニ至リ大藏省告示第十九號ヲ以テ第二回募集ノコトヲ發表シ其募集額ヲ五百萬圓ト豫定シ尋テ明治二十四年八月十二日ニハ大藏省告示第二十四號ヲ發シ募集額五百萬圓ノ豫定ヲ以テ第三回募集ヲ行ヒ翌二十五年四月五日ニハ大藏省告示第十六號ヲ發シ募集額六百萬圓ノ豫定ヲ以テ第四回募集ヲ行ヒタリ又第五回募集ハ明治二十五年七月二日大藏省告示第三十二號ヲ以テ其手續ヲ定メ募集額ヲ參百萬圓ト豫定セシカ後八月四日ニ至リ告示第三十八號ヲ以テ之ニ百萬圓ヲ加ヘ都合四百萬圓ト爲シタリ而シテ第二回ヨリ第五回ニ至ル四回ノ募集ニ於ケル募集最低價格ハ何レモ平價即チ券面金額百圓ニ付百圓ト定メタルモノニシテ其ノ他募集ノ手續ハ概ネ第一回ノ例ニ依レ

整理公債ノ第一回募集ニ關スル手續ハ明治十九年十月二十三日大藏省告示第九十八號ヲ以テ之

ヲ定メタルコト既ニ述フル如シ今其全文ヲ左ニ掲ケン

- 一 本年勅令第六十六號整理公債條例第六條ニ據リ整理公債第一回募集ノ總額ハ額面壹千萬圓ト定メ其價格ハ證書額面百圓ニ付金九拾八圓トス
  - 一 整理公債第一回募集ノ應募者ハ本年大藏省令第三十號整理公債取扱順序第一條ニ據リ來十一月十日ヨリ二十日マテニ應募金額價格及住所姓名ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ニ申込ムヘシ
  - 一 第一回募集ノ應募額ニ對スル保證金ノ割合ハ證書額面百圓ニ付金拾圓トス
  - 一 省令第三十號整理公債取扱順序第九條ニ據リ第一回應募金代リトシテ納ムル所ノ從前發行公債證書ノ種類ハ七分利付金祿公債證書トス
  - 一 大藏大臣ハ來ル十二月二十日マテニ各應募者ニ交付スヘキ整理公債證書ノ高ヲ定メ日本銀行ヨリ通知セシムルニ付其高ニ對スル金額ノ内保證金ヲ引去リタル跡金ノ拂込ヲ二期ニ分チ來明治二十年二月二十日ヨリ二十八日マテヲ第一期トシ同年三月二十日ヨリ三十一日マテヲ第二期トシ第一期ハ跡金七分ノ第二期ニ七分ノ六ヲ拂込ムヘシ但第一期ニ於テ第二期分ノ金額又ハ其幾分ヲ拂込ムモ妨ケナシ
- 凡ソ公債募集ノ結果カ金融ノ繁閑其他社會經濟ノ狀況ニ左右セラレ常ニ多少ノ變動ヲ來スコトハ論ヲ須タサル所ナリ然リ而シテ整理公債ノ募集ハ前後五回何レモ満足ナル結果ヲ得タリ先ツ第一回募集ニ就キテ之ヲ言ハンニ其募集ハ歲末ニシテ金融最モ繁忙ヲ告クルノ時ニ行ハレ頗ル其ノ時機ヲ得サルノ觀ナキニアラスト雖モ此時條例已ニ發布セラレタルニ若シ政府ニ於テ速ニ

募集ノ舉ニ出テサラシカ世人或ハ政府ノ所爲如何ヲ慮リ市場爲メニ安堵セサルノ傾向ヲ生スルヤモ亦測リ難ク政府ハ之ヲ豫防スル爲メニ斷然募集ノ議ヲ決シ條例ノ公布ニ後ル、コト僅ニ七日遂ニ募集ノ告示ヲ發表シタリ而シテ其結果市場ノ金融ハ頗ル繁忙ノ景況ヲ呈シ政府ニ於テハ募集ノ結果如何ニ就キテ慮ル所ナキニアラサリシモ實際現金ノ應募申込總額千六百參拾參萬八千七百五拾圓ニ達シ其需要高ニ超過スル事六百參拾參萬八千七百五拾圓ノ多キヲ算シ應募最高價格百五圓ニ上リ之ヲ平均スルモ尙ホ最低價格九拾八圓ニ比シテ殆ト貳圓ノ多キヲ致シ價格百圓已上ノ申込ヲ以テ需要高ニ滿チ爲メニ實收金額千萬四千八百四拾四圓四拾錢四厘ヲ得外ニ拂込延滞利子八圓四拾貳錢四厘ヲ收入シタリ是レ當時ニ於ケル金融ノ狀況ニ對シテ甚タ怪ムヘキニ似タレトモ畢竟此公債ノ取扱便利ナルト將來公債市場ヲ左右スヘキ地位ヲ占ムルノ望アリタルトニ由リ此現象ヲ來シタルモノニ外ナラス又今回ノ募集ニ於テハ整理公債取扱順序ノ定ムル所ニ從ヒ應募者中現金ノ代リトシテ七分利付金祿公債證書ヲ以テ申込ヲ爲シタルモノ拾九萬八千四百圓アリ内當籤ノ爲メ整理公債事務取扱手續第十七條ニヨリ減額シタルモノ壹萬八千七百五拾圓ニシテ差引全ク募入ト爲シタルハ拾七萬九千六百五拾圓ナリ當時七分利付國債證券ノ價格ハ適ニ平價以上ニアリシニ拘ラス尙ホ之ヲ以テ五分利付公債ニ對シテ現金ノ代リトシテ拂込ヲナサントシタルハ蓋シ公衆カ政府ノ急ニ六分以上利付國債ノ借換ヲ施行ス可キヲ察シ隨ソ永ク之ヲ所有スルコトヲ得サルヘキカ故ニ寧ロ償還期限ノ永キ整理公債ニ變換シ置クノ優レムニ如カサルコトヲ思考シタルニ依ルモノナリ今茲ニ募集ノ結果ヲ地方別ニ分チテ其概況ヲ表ボスレハ左ノ如シ



府縣名	應募高	申込口數	現金募入高	最		公債証券 以テ募入高	募入外ノ高	内	
				低	高			外ノ高	價格募入 外ノ高
東京府	1,156,350	27	8,675,000	101,500	1,015,000	65,100	2,560,000	2,560,100	1,079,000
京都府	619,350	33	17,125,000	101,000	1,015,000	0	4,480,100	4,480,100	2,275,000
大阪府	964,450	29	6,810,000	101,000	1,015,000	10,000	8,660,100	8,660,100	2,375,000
神奈川縣	413,950	34	1,820,000	100,000	1,015,000	3,000	3,340,100	3,340,100	1,111,000
兵庫縣	1,417,500	5	8,800,000	101,000	1,015,000	14,000	11,990,100	11,990,100	7,740,000
長崎縣	562,000	22	8,800,000	101,000	1,015,000	0	7,780,000	7,780,000	10,700,000
新潟縣	1,488,850	27	9,588,800	101,000	1,015,000	0	5,300,000	5,300,000	7,300,000
埼玉縣	1,367,000	17	4,000,000	100,500	1,015,000	0	1,117,900	1,117,900	7,400,000
群馬縣	951,000	23	6,100,000	101,000	1,015,000	1,000	5,100,000	5,100,000	1,400,000
千葉縣	981,000	10	4,000,000	101,000	1,015,000	1,000	5,100,000	5,100,000	1,400,000
茨城縣	1,150,000	4	1,000,000	101,000	1,015,000	1,000	3,400,000	3,400,000	0
栃木縣	319,000	9	3,400,000	100,000	1,015,000	0	1,910,000	1,910,000	5,000,000
三重縣	1,387,500	4	4,500,000	101,500	1,015,000	0	9,365,000	9,365,000	4,100,000
愛知縣	3,303,000	8	9,611,000	100,000	1,015,000	4,550	14,990,500	14,990,500	3,910,000
靜岡縣	875,500	26	2,610,000	100,000	1,015,000	9,000	6,050,000	6,050,000	6,700,000
山梨縣	777,000	7	1,525,000	110,000	1,015,000	0	6,000,000	6,000,000	2,000,000

府縣名	應募高	申込口數	現金募入高	最		公債証券 以テ募入高	募入外ノ高	内	
				低	高			外ノ高	價格募入 外ノ高
滋賀縣	1,853,500	8	4,650,000	100,000	1,015,000	1,000	1,775,000	1,775,000	6,680,000
岐阜縣	722,500	27	8,800,000	101,000	1,015,000	7,000	6,275,000	6,275,000	2,650,000
長野縣	1,870,000	25	2,995,000	100,000	1,015,000	800	1,562,500	1,562,500	2,100,000
福島縣	693,000	6	1,400,000	100,000	1,015,000	0	5,500,000	5,500,000	5,000,000
宮城縣	519,000	6	3,000,000	101,000	1,015,000	0	5,150,000	5,150,000	2,100,000
岩手縣	1,800,000	5	1,400,000	100,000	1,015,000	0	4,000,000	4,000,000	0
山形縣	330,000	7	3,500,000	100,000	1,015,000	0	2,850,000	2,850,000	2,300,000
青森縣	1,699,000	4	1,490,000	100,000	1,015,000	0	1,100,000	1,100,000	0
秋田縣	1,980,000	4	1,850,000	100,000	1,015,000	1,150	1,500,000	1,500,000	0
福井縣	1,030,000	6	1,415,000	100,000	1,015,000	2,000	8,680,000	8,680,000	3,100,000
石川縣	569,900	8	3,695,000	100,000	1,015,000	0	1,965,000	1,965,000	5,000,000
富山縣	699,950	2	1,350,000	100,000	1,015,000	0	6,860,000	6,860,000	0
島根縣	667,000	3	1,760,000	100,000	1,015,000	0	4,910,000	4,910,000	1,050,000
鳥取縣	580,000	7	0	100,000	1,015,000	0	5,800,000	5,800,000	2,000,000
岡山縣	4,375,000	2	0	100,000	1,015,000	0	4,375,000	4,375,000	7,000,000
廣島縣	889,950	17	3,375,000	100,000	1,015,000	9,700	4,550,000	4,550,000	0
山口縣	368,850	26	9,100,000	100,000	1,015,000	2,250	2,550,000	2,550,000	5,850,000
山梨縣	929,000	3	6,735,000	100,000	1,015,000	0	2,500,000	2,500,000	0
和歌山縣	929,000	3	6,735,000	100,000	1,015,000	5,000	2,900,000	2,900,000	0



東 京 府	六、七九〇、六五〇	一六〇	三、八五一、三〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、九一〇、三〇〇	一、九三〇、三〇〇	一、〇〇一、六〇〇	一、〇〇一、六〇〇
京 都 府	一、三五八、五〇〇	七二	一、〇〇、四七〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、四七〇、〇〇〇	三、四七〇、〇〇〇	七、〇〇〇
大 阪 府	二、〇三九、九五〇	九五	一、〇三九、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇
神 奈 川 縣	二、二四六、〇〇〇	一八	三、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、四一六、〇〇〇	一、四一六、〇〇〇	七、〇〇〇
兵 庫 縣	一、三三三、〇〇〇	一九	一、三三三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
埼 玉 縣	一、五〇〇、〇〇〇	一三	一、五〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
長 崎 縣	六、一五〇、〇〇〇	六	六、一五〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇
新 潟 縣	一、三三三、〇〇〇	一六	一、三三三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、一三三、〇〇〇	一、一三三、〇〇〇	七、〇〇〇
群 馬 縣	一、〇〇〇、〇〇〇	七	一、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
千 葉 縣	一、一〇〇、〇〇〇	五	一、一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
茨 城 縣	一、五〇〇、〇〇〇	三	一、五〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
栃 木 縣	一、一〇〇、〇〇〇	三	一、一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇
奈 良 縣	一、一〇〇、〇〇〇	三	一、一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇
三 重 縣	九、六〇〇、〇〇〇	六	九、六〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三、三三三、〇〇〇	三、三三三、〇〇〇	七、〇〇〇
愛 知 縣	一、三三三、〇〇〇	九	一、三三三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、六六六、〇〇〇	六、六六六、〇〇〇	七、〇〇〇
靜 岡 縣	一、〇〇〇、〇〇〇	一	一、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
山 梨 縣	一、〇〇〇、〇〇〇	一	一、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
滋 賀 縣	一、〇〇〇、〇〇〇	一	一、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇

岐 阜 縣	四、九七五、〇〇〇	一八	四、九七五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
長 野 縣	一、三三三、〇〇〇	三〇	一、三三三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六、六六六、〇〇〇	六、六六六、〇〇〇	三、〇〇〇
福 島 縣	二、六〇〇、〇〇〇	四	二、六〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇
宮 城 縣	三、〇〇〇、〇〇〇	一六	三、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇
青 森 縣	七、〇〇〇、〇〇〇	一	七、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇
山 形 縣	八、四七五、〇〇〇	一九	八、四七五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇
秋 田 縣	五、六〇〇、〇〇〇	二	五、六〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇
福 井 縣	三、五九〇、〇〇〇	三六	三、五九〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇
石 川 縣	一、四三三、〇〇〇	四	一、四三三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇
富 山 縣	一、九三三、〇〇〇	一五	一、九三三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇
島 根 縣	四、八六〇、〇〇〇	二六	四、八六〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇
島 取 縣	三、九三三、〇〇〇	一八	三、九三三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇
岡 山 縣	一、三三三、〇〇〇	一五	一、三三三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇
廣 島 縣	四、九〇〇、〇〇〇	二	四、九〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇
山 口 縣	一、三三三、〇〇〇	一	一、三三三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇
和 歌 山 縣	六、九三三、〇〇〇	三〇	六、九三三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇
德 島 縣	七、六六〇、〇〇〇	二六	七、六六〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇





證書價格ハ前回ト同シク額面百圓ニ付金百圓ニシテ應募期限ハ同年四月十六日ヨリ同月二十五日マテ拂込期限ハ同年五月二十五日ヨリ六月十五日マテ及七月一日ヨリ同月十五日マテノ二期トス而シテ第四回ノ募集ハ時機ノ宜シキヲ得タル爲メ之ヲ前回ニ比スレハ頗ル好結果ヲ奏シ應募申込總額七百拾七萬千五百圓其需要高ニ超過スルコト百拾七萬千五百圓ニ及ビ最高ノ應募價格百貳圓ノモノヨリ順次高價ノモノヲ募入シテ百圓壹厘ノモノニ至リ累計貳百七拾參萬七千四百圓ヲ採リ之ニ最低價格即チ百圓ノ價格ヲ以テセル應募申込高中參百貳拾六萬貳千六百圓ヲ加算シテ需要高ニ滿テ爲メニ實收額六百萬四千百六拾四圓六拾壹錢六厘ヲ得タリ茲ニ募入ノ結果ヲ地方別ニヨリ表出スレハ左ノ如シ

府縣名	應募高	申込口數	募入高	高價募入高		價格募入高		募入外レ高
				最廉	低	高	最廉	
東京府	4,800,000	111	3,781,100	9,600,000	100,000	2,855,500	1,015,600	
京都府	1,300,000	10	1,157,500	1,111,000	101,000	1,150,000	900	
大阪府	3,000,000	99	2,210,000	1,000,000	100,000	1,150,000	800,000	
神奈川縣	9,000,000	8	8,500,000	3,000,000	101,000	8,000,000	1,500,000	
兵庫縣	1,100,000	19	1,111,500	1,750,000	100,000	1,100,000	1,100,000	
長崎縣	1,000,000	7	1,155,000	8,000,000	100,000	1,100,000	1,500,000	
新潟縣	1,100,000	21	1,180,000	9,000,000	101,000	1,000,000	4,500,000	
埼玉縣	1,100,000	11	1,100,000	2,000,000	101,000	1,000,000	0	

府縣名	應募高	申込口數	募入高	高價募入高		價格募入高		募入外レ高
				最廉	低	高	最廉	
群馬縣	1,100,000	3	1,150,000	1,900,000	100,000	1,100,000	1,000,000	
千葉縣	2,000,000	8	1,600,000	1,900,000	100,000	1,000,000	7,000,000	
茨城縣	1,000,000	2	1,000,000	1,000,000	100,000	1,000,000	0	
栃木縣	1,100,000	5	1,100,000	1,100,000	100,000	1,100,000	0	
奈良縣	1,100,000	8	1,100,000	1,100,000	100,000	1,100,000	5,000,000	
三重縣	1,100,000	67	1,100,000	1,100,000	100,000	1,100,000	0	
愛知縣	1,600,000	116	1,100,000	1,100,000	100,000	1,100,000	1,000,000	
靜岡縣	7,600,000	18	5,500,000	7,000,000	100,000	1,100,000	1,500,000	
山梨縣	1,900,000	14	1,900,000	1,900,000	100,000	1,100,000	0	
滋賀縣	2,800,000	16	2,800,000	2,800,000	100,000	1,100,000	0	
岐阜縣	1,010,000	15	1,900,000	1,750,000	100,000	1,100,000	1,100,000	
長野縣	1,100,000	2	1,100,000	1,100,000	100,000	1,100,000	0	
福島縣	5,000,000	2	1,100,000	1,100,000	100,000	1,100,000	7,000,000	
宮城縣	1,100,000	4	1,100,000	1,100,000	100,000	1,100,000	1,000,000	
岩手縣	1,000,000	2	1,100,000	1,100,000	100,000	1,100,000	0	
青森縣	9,000,000	9	4,000,000	7,000,000	100,000	1,100,000	1,100,000	
山形縣	1,010,000	1	1,100,000	1,100,000	100,000	1,100,000	1,000,000	
秋田縣	4,500,000	4	4,500,000	4,500,000	100,000	1,100,000	1,000,000	

宮崎縣	熊本縣	佐賀縣	大分縣	福岡縣	愛媛縣	高知縣	香川縣	徳島縣	和歌山縣	山口縣	廣島縣	岡山縣	鳥取縣	島根縣	富山縣	石川縣	福井縣
2,500,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,800,000	1,915,000	5,535,000	4,815,000	1,835,500	6,585,000	4,600,000	8,450,000	4,015,000	6,000,000	9,150,000	3,100,000	1,350,000	3,300,000
3	3	9	4	14	11	19	11	66	99	33	33	29	4	13	9	12	17
4,000,000	2,500,000	1,700,000	3,100,000	1,800,000	1,915,000	5,310,000	4,815,000	1,757,500	6,465,000	4,150,000	7,450,000	3,980,000	6,000,000	9,415,000	2,565,000	1,215,000	1,875,000
1,000,000	1,250,000	1,250,000	3,100,000	3,100,000	1,915,000	4,710,000	4,815,000	1,407,500	6,000,000	4,150,000	4,740,000	3,895,000	3,900,000	9,415,000	1,040,000	1,100,000	5,000,000
100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
1,000,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,800,000	1,915,000	5,535,000	4,815,000	1,835,500	6,585,000	4,600,000	8,450,000	4,015,000	6,000,000	9,150,000	3,100,000	1,350,000	3,300,000
1,000,000	1,250,000	1,250,000	1,250,000	1,800,000	1,915,000	5,535,000	4,815,000	1,835,500	6,585,000	4,600,000	8,450,000	4,015,000	6,000,000	9,150,000	3,100,000	1,350,000	3,300,000

鹿兒島縣	沖繩縣	北海道	合計
3,300,000	100,000	200,000	7,715,000
10	-	-	1,111
2,265,000	100,000	200,000	6,765,000
1,250,000	100,000	0	2,450,000
1,000,000	100,000,000	0	3,150,000
1,100,000	0	200,000	3,150,000
4,150,000	0	0	1,111,000

第五回募集ハ明治二十五年七月二日大藏省告示第三十二號ニヨレハ總額參百萬圓應募期限來ル七月十六日ヨリ同月二十五日マテ拂込期限第一期來ル八月十六日ヨリ同月三十一日マテ第二期九月十六日ヨリ同月三十日マテニシテ發行價格等ハ前回ニ同シトス此ノ如ク當初參百萬圓ヲ募集スルノ豫定ナリシモ募集ノ當時ハ恰モ金融緩漫ノ時機ナリシヲ以テ一タヒ募集ノ告示ヲ發スルヤ忽チ多數ノ應募者アリテ未タ各地取扱店ニ於ケル募集取扱ノ總報告ニ接セサルニ其金額已ニ需要高ニ對シテ貳百六拾九萬餘圓ノ超過ヲ見ルノ好況ヲ呈スルニ至レリ是ニ於テ更ニ其募集豫定額ヲ四百萬圓ニ増額セシニ應募申込ノ總額ハ結局五百七拾七萬六千四百五拾圓ニ達シ其需要高ニ超過スルコト百七拾七萬六千四百五拾圓ニシテ最高ノ應募價格百壹圓五拾壹錢ノモノヨリ順次高價ノモノヲ募入シテ百圓壹厘ノモノニ至リ累計參百八拾九萬四千七百五拾圓ヲ採リ之ニ最低價格即チ百圓ノ價格ヲ以テセル應募申込高中拾萬五千貳百五拾圓ヲ加算シテ需要高ニ滿テ爲メニ實收額四百萬參千七百八拾六圓八拾參錢ヲ得タリ茲ニ募集ノ結果ヲ地方別ニ分チ其概況ヲ表出スレハ左ノ如シ

府縣名	應募高	申込口數	募入高	内		價格募入高	募入外レ高
				高價募入高	最低		
東京府	三,一八九,〇〇〇	一五〇	一,六三三,〇〇〇	一,五三三,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇	一,五三三,〇〇〇
京都府	二,一三三,〇〇〇	一〇六	二,一三三,〇〇〇	二,一三三,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	九〇,〇〇〇
大阪府	三,三〇〇,〇〇〇	一三三	一,九八八,〇〇〇	一,九八八,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,一五五,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
兵庫縣	九,五〇〇,〇〇〇	二八	九,三〇〇,〇〇〇	九,三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	五〇	一,四〇〇,〇〇〇
長崎縣	一,三〇〇,〇〇〇	三	一,三〇〇,〇〇〇	一,三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	一,三〇〇,〇〇〇
新潟縣	一,〇三三,〇〇〇	三	一,〇三三,〇〇〇	一,〇三三,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	五〇	一,〇三三,〇〇〇
群馬縣	六,〇〇〇,〇〇〇	一六	六,〇〇〇,〇〇〇	六,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	七〇〇,〇〇〇
千葉縣	一,五〇〇,〇〇〇	一七	一,五〇〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇	一,五〇〇,〇〇〇
茨城縣	三,七〇〇,〇〇〇	一五	三,七〇〇,〇〇〇	三,七〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	三,七〇〇,〇〇〇
栃木縣	四,九五〇,〇〇〇	八	四,六八八,〇〇〇	四,六八八,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇	四,六八八,〇〇〇
奈良縣	六,一六〇,〇〇〇	六	五,八七〇,〇〇〇	五,八七〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇	五,八七〇,〇〇〇
三重縣	三,三三〇,〇〇〇	一〇	三,三三〇,〇〇〇	三,三三〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	八五〇	三,三三〇,〇〇〇
愛知縣	一,〇三三,〇〇〇	一〇	一,〇三三,〇〇〇	一,〇三三,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	五〇〇	一,〇三三,〇〇〇
靜岡縣	六,三〇〇,〇〇〇	一一	六,三〇〇,〇〇〇	六,三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	六,三〇〇,〇〇〇

府縣名	應募高	申込口數	募入高	内		價格募入高	募入外レ高
				高價募入高	最低		
山梨縣	五,〇〇〇,〇〇〇	八	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
滋賀縣	四,〇〇〇,〇〇〇	六	四,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	四,〇〇〇,〇〇〇
岐阜縣	一,六〇〇,〇〇〇	五	一,六〇〇,〇〇〇	一,六〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇	一,六〇〇,〇〇〇
長野縣	五,五〇〇,〇〇〇	五	五,五〇〇,〇〇〇	五,五〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	五〇	五,五〇〇,〇〇〇
福島縣	八,七五〇,〇〇〇	七	八,七五〇,〇〇〇	八,七五〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	八,七五〇,〇〇〇
宮城縣	三,〇〇〇,〇〇〇	一	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
青森縣	八,〇〇〇,〇〇〇	三	八,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	八,〇〇〇,〇〇〇
山形縣	八,五七五,〇〇〇	三	八,五七五,〇〇〇	八,五七五,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,一〇〇	八,五七五,〇〇〇
秋田縣	一,〇〇〇,〇〇〇	八	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,一〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
福井縣	二,九七五,〇〇〇	三	二,九七五,〇〇〇	二,九七五,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	二,九七五,〇〇〇
石川縣	七,一〇〇,〇〇〇	一六	七,一〇〇,〇〇〇	七,一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	五〇	七,一〇〇,〇〇〇
富山縣	五,七〇〇,〇〇〇	六	五,七〇〇,〇〇〇	五,七〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一五〇	五,七〇〇,〇〇〇
島根縣	八,六〇〇,〇〇〇	九	八,六〇〇,〇〇〇	八,六〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	八,六〇〇,〇〇〇
鳥取縣	三,〇〇〇,〇〇〇	二	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
岡山縣	一,四〇〇,〇〇〇	一	一,四〇〇,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	一,四〇〇,〇〇〇
廣島縣	六,八〇〇,〇〇〇	二	六,八〇〇,〇〇〇	六,八〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	六,八〇〇,〇〇〇
山口縣	一,八〇〇,〇〇〇	三	一,八〇〇,〇〇〇	一,八〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇	一,八〇〇,〇〇〇
和歌山縣	四,九〇〇,〇〇〇	五	四,九〇〇,〇〇〇	四,九〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三〇〇	四,九〇〇,〇〇〇







六分以上利付 公債 償還同敷高	一七九、五〇〇、〇〇〇	〇〇〇、〇〇〇	八、一〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇	二、二一五、〇〇〇
拂込延滞利子收入高	八、四三三	八、〇三三	〇	〇	〇	〇	一一、一五五
計	一〇、一八五、〇三三	五、〇一五、〇三三	八、一〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇	三、三三〇、一五五
需要高	一〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
差引超過額	一八五、〇三三	一五、〇三三	二、一〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	三、七八八、〇〇〇	三、三三〇、一五五	三、三三〇、一五五

附 募集當時ノ金融

整理公債第一回募集ノ告示ハ明治十九年十月二十三日ニシテ其申込期限ハ同年十一月十日ヨリ二十日マテト定メタリ當時東京市中ノ金融ハ生絲ノ賣行滯滞ノ爲メ横濱及生絲産出地方ニ於ケル金融甚タ忙シク且ツ田租上納ノ時期ニ近ツキタル等ノ爲メ漸次繁劇ニ趨クノ景況ニシテ銀行集會所日歩貳錢日本銀行貸付利子ノ歩合ハ年六分當所割引日歩ハ壹錢六厘他所割引日歩ハ壹錢八厘ナリキ又大阪市中ノ金融ハ一般商況既ニ衰頹ノ域ヲ過キ將ニ回復ノ運ニ向ハントスルノ傾アリシト雖モ幣制大ニ其面目ヲ改メ貿易概ネ平均ヲ得從テ金利ノ割合著シキ變動ナカリシカ故ニ商估ハ尙ホ多ク其資本ヲ國債證券又ハ株券ニ注カントスルノ模様アリタリ

第二回募集ノ告示ハ明治二十二年二月二十三日ニシテ申込期限ハ同年三月六日ヨリ十二日マテナリシカ當時東京市中ノ金融ハ一般ノ商況不振ニ伴ヒ稍緩慢ノ狀況ヲ示シ銀行集會所日歩貳錢參厘日本銀行貸付利子ノ歩合ハ年六歩貳厘當所割引日歩ハ壹錢六厘五毛他所割引日歩ハ壹錢

八厘ナリキ又大阪市中ハ金融緩慢ニシテ取引不振ノ景況ヲ呈セリ

第三回募集ノ告示ハ明治二十四年八月十二日ヲ以テ之ヲ公ニシ其申込期限ハ同年八月二十四日ヨリ三十一日マテト定メタリ當時東京市中ノ金融ハ前回募集ノ時ニ比スレハ少シク資金ノ需要増加シタルカ如キ景況アリシト雖モ尙ホ銀行集會所日歩ハ貳錢六厘日本銀行貸付利子ノ歩合ハ年六歩四厘當所割引日歩ハ壹錢七厘他所割引日歩ハ壹錢九厘ナリキ又大阪市中モ尙ホ引續キ金融緩慢ノ景況ヲ示シタリ

第四回募集ノ告示ヲ發セシハ明治二十五年四月五日ニシテ其申込期限ハ同年四月十六日ヨリ二十五日迄ナリシカ當時東京市中ノ金融ハ前回募集ノ時ニ比スレハ稍緩慢ノ景況ヲ呈シ即チ銀行集會所ノ日歩ハ貳錢參厘日本銀行貸付利子ノ歩合ハ年六分參厘八毛當所割引日歩ハ壹錢七厘他所割引日歩ハ壹錢八厘五毛ナリキ而シテ大阪市中モ亦金融緩慢ノ景況ナリ

第五回募集ノ告示ハ明治二十五年七月二日ヲ以テ之ヲ公ニシ其申込期限ハ同年七月十六日ヨリ二十五日マテト定メタリ當時東京市中金融ノ景況ハ前回募集ノトキニ異ナルコトナク依然緩慢ノ状態ニシテ即チ銀行集會所日歩ハ貳錢參厘日本銀行貸付利子ノ歩合ハ年六分參厘八毛當所割引日歩ハ壹錢七厘他所割引日歩ハ壹錢八厘五毛ナリキ而シテ大阪市中モ亦依然金融緩慢ノ景況ヲ持續シタリ

茲ニ毎回ノ募集當時東京及大阪ニ於ケル金利ノ最高最低及平均ノ割合ヲ表出センカ即チ左ノ如シ

募集回次	抵當貸金額區別	年	月	東京		大阪	
				最高	最低	最高	最低
第一回	百圓以上千圓未満	十九年	十月	10000	9900	10000	9900
第一回	千圓以上壹萬圓未満	十九年	十月	10000	9900	10000	9900
第一回	壹萬圓以上	十九年	十月	10000	9900	10000	9900
第二回	百圓以上千圓未満	二十二年	二月	10000	9900	10000	9900
第二回	千圓以上壹萬圓未満	二十二年	二月	10000	9900	10000	9900
第二回	壹萬圓以上	二十二年	二月	10000	9900	10000	9900
第三回	百圓以上千圓未満	二十四年	八月	10000	9900	10000	9900
第三回	千圓以上壹萬圓未満	二十四年	八月	10000	9900	10000	9900
第三回	壹萬圓以上	二十四年	八月	10000	9900	10000	9900
第四回	百圓以上千圓未満	二十五年	七月	10000	9900	10000	9900
第四回	千圓以上壹萬圓未満	二十五年	七月	10000	9900	10000	9900
第四回	壹萬圓以上	二十五年	七月	10000	9900	10000	9900
第五回	同	同	同	同	同	同	同

又左ニ毎回ノ募集當時東京ニ於ケル國債證券ノ直取引平均相場ヲ表出セン

募集回次	年	月	七分金祿公債 利付	七分中山道鐵道公債 利付	六分金祿公債 利付	五分海軍公債 利付	五分整理公債 利付
第一回	十九年	十月	107742	112892	107271	101252	101388
第一回	同	年十一月	103922	109872	102943	101252	101388
第二回	二十二年	二月	105779	105269	105210	101779	101261
第二回	同	年三月	105910	105875	105254	101638	101825
第三回	二十四年	八月	105740	108654	106060	100572	100847
第四回	二十五年	四月	〇	103484	104224	101104	101318
第五回	同	年七月	10	101250	104523	101252	101388

第二目 臨時特別發行

臨時特別發行ハ整理公債條例第六條第二項ノ規定ニ據ルモノニシテ明治二十一年勅令第四十六號ヲ以テ此規定ノ追加アルヤ大藏大臣ハ歲計整理上ノ必要ニ由リ同年九月ニ至リ始メテ此規定ヲ適用シ整理公債證券面金額七百五十拾萬圓ヲ發行シテ之ヲ大藏省預金局ニ購入シ尋テ明治二十四年五月ニ至リ第二次ノ發行ヲ爲シ券面金額貳百萬圓ノ證券ヲ發行セリ是レ固ヨリ借換事業ノ進捗ヲ圖リタルニ由ルモノナリト雖モ又一ニハ國庫預金部ニ於テ餘裕金ヲ生シタルヲ以テ放銀ノ一良法トシテ之ヲ此證券ニ代ヘントスルノ目的ニ出テタルナリ第三次ノ發行ハ同年七月復

タ預金部ノ現在金ヲ運用シテ券面金額百萬圓ノ證券ヲ發行シタルモノニシテ第四次ハ明治二十六年四月ニ至リ六分利付金祿公債及同金札引換無記名公債ノ元金償還ヲ行フニ當リ之カ仕拂基金ニ不足ヲ生シタルニ由リ整理公債ノ募集ヲ要セシニ恰モ好シ國庫預金部ニ於テ有價證券ヲ購入スルノ必要アリシカ故ニ亦其購入ニ充テタル資金ヲ運用シテ券面金額貳百七萬千六百圓ノ發行ヲ爲シタリ降リテ明治二十八年ニ至リ征討費借入金繰上返済ノ事アリ因テ是ヨリ後此返済ノ資ニ充ツルカ爲メ亦國庫預金部ノ現在金ヲ運用シテ明治三十年五月即チ征討費借入金返済満期ノトキニ至ルマテ特別發行ヲ爲シタルコト凡テ四回其券面金額合計六百五拾壹萬七千五百五拾四ニ及ヘリ故ニ此公債ノ臨時特別發行ハ通計八回ニシテ其債額總計千九百八萬九千五百五拾四ナリトス茲ニ毎回ノ發行年月日發行額發行價格及實收額等ヲ表出スレハ左ノ如シ

發行年月日	發行額	發行價格	實收額
二十一年九月十五日	七,五〇〇,〇〇〇	一〇〇.〇〇〇	七,五〇〇,〇〇〇
二十四年五月十六日	二,〇〇〇,〇〇〇	九九.三九〇	一九八七,八〇〇.〇〇
同 年七月二十四日	一,〇〇〇,〇〇〇	九九.二九〇	九九二,九〇〇.〇〇
二十六年四月二十七日	二,〇七一,六〇〇	一〇四.八二〇	二,一七一,四五二.一二〇
二十八年十一月十四日	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇.七〇〇	二,〇一四,〇〇〇.〇〇〇
二十九年五月二十二日	二,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇.一〇〇	二,〇〇二,〇〇〇.〇〇〇
同 年十一月十六日	二,〇一五,〇〇〇	九九.三八〇	一九八二,三五七.〇〇〇
三十年五月十八日	五〇二,五五〇	九九.五五〇	四九五,〇一七.五〇〇

合計

一九,〇八九,一五〇

〇

一九,一四五,五一九.八七〇

前表發行額ノ總計ヲ以テ實收額ノ總計ニ對比スレハ券面金額百萬圓ニ付實收額百萬貳拾九錢五厘強ノ割合ニ相當ス是レ即チ發行價格ノ平均ナリ又起債總額壹億七千五百萬圓ニ對スル臨時特別發行ニ係ル起債額ノ比例ヲ求ムルニ其歩合一割九厘強ニ相當セリ而シテ毎回ノ發行價格ニ高低異同アルハ條例第六條第二項ノ規定ニ基キ市場ノ時價ニ準シタルニ由ルモノニシテ其價格ノ定メ方ニ付テハ一二沿革ノ敘ス可キモノアリ其當時ノ回議書ニ據リ左ニ其要領ヲ摘録セン

第一回 從來市場ニ於テ公債證書ノ相場ヲ立ツルヲ見ルニ利子仕拂期節ノ前月末ニ於テ半季間ノ利子金額ヲ含有シ仕拂月ニ入レハ利落トナリ其月ノ末日ニハ已ニ後期利子ノ一箇月分ヲ包含シ居ルモノ、如シ故ニ本月(即チ九月)十日ノ相場ニハ三箇月三分ノ一(七月十日マテ)ノ利子ヲ含有スルモノト認メ同日ノ相場(東京株式取引所)百壹圓貳拾錢ヨリ三箇月三分ノ一ノ利子壹圓參拾八錢八厘ヲ差引クトキハ證書額面百圓ニ付九拾九圓八拾壹錢貳厘ト爲ルト雖モ這回ノ發行タル素ト預金局ニ於テモ時價ノ低キニ乘シテ利益セントズルニ出ツルニアラスシテ多クハ四分八厘付ノ大藏省證券ヲ五分利ノ公債證書ニ交換スルコトナレハ額面ノ價格ヲ以テ之ニ應スルモ敢テ失フ處ナキノミナラス後來ニ至リ一ハ整理公債ノ時價騰貴スルノ見込ナキニアラサルト一ハ追々市場ノ金利低降スルニ際シ常ニ國庫一時ノ融通ニ應スルカ爲メ低利ヲ以テ放銀スルヨリモ寧ロ此際確定公債ニ放銀シ置クノ利アルニ由リ雙方ノ利益ノ圖リ額面ノ金額ヲ以テ發行價格ト爲ス

第二回乃至第四回 整理公債條例第六條第二項ニ市場ノ時價ニ準シタルハ相當價格算出ノ

方法ヲ定メタルモノニシテ其相當價格ナルモノハ必スシモ市場ノ時價ト一致符合セサルナ  
 リ若シ常ニ市場ノ時價ヲ以テ相當價格ト認ムルモノトセハ時價ニ準シト云フヲ要セスシテ  
 時價ニ依ルト限定ス可キモノナリ然ルニ之ヲ限定セスシテ準シト云フ所以ノモノハ單其  
 目的トスル所時價ノ外更ニ相當價格ヲ得ントスルニアレハナリ故ニ證券發行當時ノ最近一  
 週間ニ於ケル東京株式取引所平均相場(直取引)即チ所謂時價ヨリ其半期間經過日數(五月十六  
 日ノ發行ナレハ二十四年一月ヨリ五)ニ對スル利子額ヲ控除シ之ヲ發行價格ト爲ス蓋シ時價  
 ノ内ニハ自ラ此利子額ヲ包含スレトモ發行ノ證券ニ對シテハ此利子額ヲ仕拂ハサルモノナ  
 ルカ故ニ之ヲ控除スルナリ

第五回以後 東京株式取引所相場表所載ノ取引直段ナルモノハ二三仲買人ノ直取引セシモノ  
 ヲ探リテ平均シタルニ過キサレハ固ヨリ取引ノ區域狹隘ニシテ時價ノ真相ヲ得ル能ハサル  
 ノ虞アルニ由リ右取引所相場表所載ノ外中外商業新報時事新報讀賣新聞及日本新聞掲載ノ  
 相場ニ據リ而シテ以上五種ノ相場ニシテ證券發行ノトキヨリ遡リ最近一週日間ニ係ルモノ  
 ノ平均ヲ探リ此內當期間經過日數ノ利子額ヲ控除シテ發行價格ト爲ス

### 第三目 證券交換發行

證券交換發行ノ事歴ハ一方ヨリ觀ルトキハ證券交換銷却ノ事歴ニシテ事專ラ高利國債借換整理  
 ノ事業ニ屬スルモノナルカ故ニ之カ概況ノ敘述ハ借換ノ部ニ讓リ茲ニハ單ニ毎年ノ證券發行額  
 ヲ掲出スルニ止メントス即チ左表ノ如シ

年次	發行額
二十一年	二六、三八四、八〇〇
二十二年	一六、四五二、九〇〇
二十三年	一九、三一六、九五〇
二十四年	三、三四七、四五〇
二十五年	一一、四三八、一〇〇
二十六年	三〇、八五〇、三五〇
二十七年	一五、九一六、三〇〇
二十八年	一一、〇〇〇、〇〇〇
二十九年	一一、〇〇〇、〇〇〇
三十年	一一、〇〇〇、〇〇〇
合計	一一五、七〇六、八五〇

### 第十一項 鐵道費補充公債

鐵道費補充公債ハ明治二十二年一月三十一日大藏省告示第十四號ヲ以テ條例所定ノ金額貳百萬  
 圓ヲ一時ニ募集スルコト、シ之カ募集ノ手續ヲ定メ募集最低價格ヲ券面金額百圓ニ付百圓トシ  
 應募者ハ同年二月十五日ヨリ同二十日マテニ日本銀行本支店又ハ代理店へ申込ムヘキモノト爲  
 セリ其第十四號案ハ左ノ如シ

一 本年一勅令第六號鐵道費補充公債條例ニ據リ鐵道費補充公債額面貳百萬圓ヲ募集スルモノトシ其價格ハ證書額面百圓ニ付金百圓トス

一 應募者ハ來ル二月十五日ヨリ同二十日迄ニ應募金額價格及住所姓名ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店へ申込ムヘシ

一 應募者ハ申込ノトキ應募額百圓ニ付金拾圓ノ割合ヲ以テ保證金ヲ拂込ムヘシ

一 大藏大臣ハ來三月五日マテニ各應募者ニ交付スヘキ證書ノ高ヲ定メ日本銀行ヨリ通知セシムルニ付其高ニ對スル金額ノ内保證金ヲ引去リ跡金ノ拂込ヲ二期ニ分チ來三月十五日ヨリ同二十一日マテヲ第一期トシ同四月十日ヨリ同十五日マテヲ第二期トシ第一期ニ證書額面百圓ニ付金五拾圓第二期ニ殘額ヲ拂込ムヘシ

一 前各項ノ外ハ整理公債募集ノ手續ニ據ルモノトス

該告示以來申込終期迄ヲ通算シ其日子一箇月ニ滿タヌ又其申込期間ハ僅ニ五日ニ過キスト雖金融緩慢ノ響ニ乘シ募集方法其宜キヲ得タル爲メ其應募高ハ意外ノ多額ニシテ期日迄ニ應募ノ申込ヲ爲シタル口數ハ六百三十六口ニシテ其金額總計五百四拾四萬貳千參百五拾圓ニ達シ募集豫定額貳百萬圓ニ超過スル事參百四拾四萬貳千參百五拾圓ニ及ヒタリ而シテ應募價格ノ最モ高キ者ハ百四圓參拾錢ニ上リ爲ニ百圓五錢以上ノモノヲ以テ需要高ニ滿テ其實收金額ハ貳百萬七千七拾四圓四拾壹錢參厘ト爲リ之ヲ證券ノ發行額ニ割當ツル時ハ券面金額百圓ニ付平均百圓參拾五錢四厘弱ニ相當セリ又外ニ拂込延滞利子金拾六圓九拾壹錢參厘ヲ收入シタリ蓋シ此舉ヤ前述ノ如ク恰モ市場ノ金融緩慢ナルノ時機ニ投シタルヲ以テ此ノ如ク應募額ノ需要高ニ超過スル事

一倍七割二分強ノ多キヲ致スノ好景況ヲ呈シタルナリ尙其募集ノ狀況ヲ表出スレハ左ノ如シ

事由	金額及口數
本店へ申込高	三、二〇三、〇五〇〇〇
支店へ申込高	二、四九九、〇〇〇〇〇
代理店へ申込高	一、九八九、四〇〇〇〇〇
申込總高	五、四四二、三五〇〇〇〇
募集最低價格	一〇〇〇〇〇
募集最高價格	一一〇〇〇、〇〇〇〇〇
最低價格申込高	二、六一〇、八五〇〇〇〇
最高價格申込高	二、八三一、五〇〇〇〇〇
實收	二、〇〇七、〇七四、四一三
募集額外超過高	三、四三四、三三〇〇〇〇
申込價格最高	一〇四、三〇〇
本店へ申込ノ内最高價格	一〇、一〇一〇
高價申込ノ内最低	一〇〇〇〇
申込價格平均	一〇〇、一三四
募入價格平均	一〇〇、三五四

申込總口數	官廳申込口數	同上金額	銀行會社申込口數	同上金額	社寺申込口數	同上金額	一個人申込口數	同上金額
六三六	一九	二、三三八、五〇〇〇	九六	一、八二二、九〇〇〇	九	五五、三五〇〇〇	五二	一、三三三、六〇〇〇

又募集ノ結果ヲ各府縣ニ區別スレハ左表ノ如シ

府縣名	應募高	申込口數	募入高	募入ノ内最高最低	募入外レ高	内譯	
						高價募入外レ高	價格募入外レ高
東京府	三、一〇〇、〇〇〇	八二	六、〇一、〇〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	二、六〇一、〇〇〇	二、六〇一、〇〇〇	三、一〇〇、〇〇〇
京都府	八、一六五〇	四〇	四九、二〇〇	〇 〇	三、一〇〇、〇〇〇	三、一〇〇、〇〇〇	八、一六五〇
大阪府	二、四九、〇〇〇	八六	二、三三、九五〇	〇 〇	二、三三、九五〇	二、三三、九五〇	二、四九、〇〇〇
神奈川縣	一、〇〇、〇〇〇	七	三、九〇〇	〇 〇	一、〇六、〇〇〇	一、〇六、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇
兵庫縣	五、〇〇〇	四	五、一五〇	〇 〇	五〇〇	五〇〇	五、〇〇〇

府縣名	應募高	申込口數	募入高	募入ノ内最高最低	募入外レ高	内譯
長崎縣	五、一〇〇	五	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
新潟縣	一〇、七〇〇	九	六、一五〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
群馬縣	七、一五〇	四	五、七〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
千葉縣	七、七〇〇	三	七、一〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
茨城縣	一〇、〇〇〇	一	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
栃木縣	六〇〇	一	六〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
奈良縣	一、七〇〇	一〇	一、七〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
三重縣	五、八一五〇	三三	三、〇一、〇〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
愛知縣	五、七八五〇	四八	四、九、五五〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
靜岡縣	四、七五〇	一四	五、一〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
山梨縣	一、六〇〇	三	六〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
滋賀縣	五、九〇〇	一〇	三、九、〇〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
岐阜縣	一、五〇〇	一〇	一、〇一、〇〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
長野縣	二、一〇〇	一	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
福島縣	一、一五〇	四	一、一〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
宮城縣	一、一〇〇	三	一、一〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
青森縣	一、一〇〇	二	一、一〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
山形縣	一、〇〇〇	五	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇 一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇



縣	北 海 道	鹿 兒 島 縣	宮 崎 縣	熊 本 縣	大 分 縣	福 岡 縣	愛 媛 縣	高 知 縣	德 島 縣	和 歌 山 縣	山 口 縣	廣 島 縣	岡 山 縣	鳥 取 縣	島 根 縣	富 山 縣	石 川 縣	福 井 縣
合計	5,400,000	5,000,000	1,000,000	8,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	9,000,000	19,000,000	7,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	3,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
最	10,000,000	5,000,000	1,000,000	11,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	9,000,000	19,000,000	7,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	3,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
高	10,000,000	5,000,000	1,000,000	11,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	9,000,000	19,000,000	7,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	3,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
最	10,000,000	5,000,000	1,000,000	11,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	9,000,000	19,000,000	7,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	3,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
低	10,000,000	5,000,000	1,000,000	11,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	9,000,000	19,000,000	7,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	3,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
平	10,000,000	5,000,000	1,000,000	11,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	9,000,000	19,000,000	7,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	3,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000
均	10,000,000	5,000,000	1,000,000	11,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	9,000,000	19,000,000	7,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	3,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000	11,000,000

五五〇

附 募集當時ノ金融

鐵道費補充公債募集當時ノ金融ハ頗ル緩慢ノ狀況ナリシコトハ前項已ニ之ヲ述ヘタリ尙ホ進ン  
テ茲ニ聊カ其詳況ヲ説カン  
此公債募集ノ告示ヲ發シタルトキ即チ明治三十二年一月ニ於ケル市場金融ノ景況ハ當時一般ノ  
商況沈睡シ且金祿公債元利金仕拂ノ影響ヲ受ケ加フルニ生絲貿易ノ景況非常ニ活潑ナリシ等ノ  
爲メ著シク緩慢ナルノ有様ニシテ銀行集會所ノ報告ニ依ルニ普通貸付利子ノ歩合ハ平均日少貳  
錢壹貳厘ヨリ貳錢四五厘ノ間ニ昇降シ抵當貸ノ利子歩合ハ平均年一割一分ヨリ八分九厘ノ間ニ  
居リタリ茲ニ一月中ノ利子歩合最高最低及其平均ヲ舉クレハ左表ノ如シ

抵當貸金額ノ區別	最	高	最	低	平	均
百圓以上千圓未満		1.200		1.000		1.100
千圓以上壹萬圓未満		1.080		0.800		0.940
壹萬圓以上		0.980		0.800		0.890

國債證券價格ノ景況ハ靜穩ノ有様ニシテ七分利付金祿公債ノ直取引相場ハ一月中平均百四圓五  
拾五錢整理公債ハ同上百壹圓貳拾五錢七厘ナリキ

### 第十二項 鐵道公債

#### 第一目 普通募集

内國ニ於テ鐵道公債ヲ募集シタルハ前後僅ニ二回ニシテ其第一回ハ明治二十六年四月一日大藏省告示第十二號ヲ以テ募集ノ總額ヲ百萬圓ト定メ募集最低價格ハ證券券面金額百圓ニ付金百圓保證金ハ券面金額ノ一割トシ第一期拂込金ハ募入額確定ノ日保證金ヲ以テ之ニ充テ其殘金ノ拂込ハ之ヲ五期ニ分チ其他之ニ關スル手續ヲ示シタリ即チ左ノ如シ

明治二十五年六月法律第四號鐵道敷設法第四條ニ依リ鐵道公債第一回募集ノ總額及利子ノ割合應募日限等ヲ定ムル左ノ如シ

- 一 鐵道公債第一回募集ノ總額ハ壹百萬圓トシ證券ノ價格ハ額面百圓ニ付金百圓トス但應募高需要額ニ超過スルトキハ應募價格ノ高キモノヨリ順次算入シ需要額ニ滿ルニ至テ止ム
- 一 第一回鐵道公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス
- 一 應募者ハ來ル四月十六日ヨリ同月二十日マテニ應募金額價格及住所姓名ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ申込ムヘシ
- 一 應募額ニ對スル保證金ノ割合ハ證券額面百圓ニ付金拾圓トス
- 一 大藏大臣ハ來ル五月五日マテニ日本銀行ヲシテ各應募者ニ應募確定額ヲ通知セシムルニ付其高ニ對スル金額ノ内保證金ヲ以テ第一期拂込金ニ振換タルモノヲ引去リタル跡金ノ拂込ハ額面百圓ニ付左ノ區別ニ依リ拂込ムヘシ

第二期 二十六年五月二十五日マテ 此拂込金拾圓  
 第三期 同 六月二十五日マテ 此拂込金拾五圓  
 第四期 同 七月二十五日マテ 此拂込金貳拾五圓  
 第五期 同 八月二十五日マテ 此拂込金貳拾五圓  
 第六期 同 九月二十五日マテ 此拂込金拾五圓

今其募集ノ結果ヲ見ルニ應募申込ノ總額七百五拾五萬四千參百五拾圓ニ達シ募集豫定額ニ超過スルコト實ニ六百五拾五萬四千參百五拾圓ニシテ應募價格ノ最高百六圓五拾壹錢ヨリ以下百五圓七拾錢ニ至ルマテノモノ參拾八萬圓及百五圓六拾錢ノ申込高百五萬圓ノ内六拾貳萬圓ヲ以テ募入額ト爲シタルカ爲メ國庫ノ實收高ハ百五萬六千五百參拾八圓六拾錢ニ上リタリ今其詳細ノ狀況ヲ表出スレハ左ノ如シ

府縣名	應募高	申込口數	募入高	募入價額最高	募入外レ高
東京府	三、三四七、二〇〇	一七九	九二〇、二五〇	一〇六、五一一	二、四二六、五五〇
京都府	二、一八、四五〇	九九	〇	一〇五、六〇〇	二、一八、四五〇
大阪府	四、八四、八〇〇	一四三	〇	〇〇	四、八一、八〇〇
神奈川縣	一、六六、七〇〇	一〇	〇	〇〇	一、六六、七〇〇
兵庫縣	二、八、四〇〇	一七	〇	〇〇	二、八、四〇〇
長崎縣	一、五三、八五〇	二二	〇	〇〇	一、五二、七五〇

新	崎	群	千	夫	枋	奈	三	愛	靜	山	滋	岐	長	福	宮	岩	青	
海	玉	馬	葉	城	木	良	重	知	岡	梨	賀	阜	野	島	城	手	森	
縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	
一三三,二五〇	五二,四〇〇	一〇三,二〇〇	七六,〇〇〇	〇	三,三〇〇	〇	一一九,四〇〇	一五〇,二〇〇	三七八,一五〇	五八,一五〇	六,九〇〇	八三,八五〇	二九〇,三五〇	一一五,七〇〇	一五〇,七〇〇	四五,三〇〇	三,〇〇〇	二八,二〇〇
三七	五	一四	一一	〇	二	〇	五〇	八〇	一三〇	二四	一〇	四三	六三	七	五	一三	二	八
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
一三三,〇五〇	五二,四〇〇	一〇三,二〇〇	七六,〇〇〇	〇	三,三〇〇	〇	一一九,三〇〇	一五〇,二〇〇	三七六,七五〇	五七,八五〇	六,一〇〇	八三,三五〇	二九〇,三五〇	一一五,七〇〇	一五〇,七〇〇	四五,三〇〇	三,〇〇〇	八,二〇〇
二〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一〇〇	〇	一,四〇〇	三〇〇	八〇〇	五〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	二〇,〇〇〇

山	秋	福	石	富	島	島	岡	廣	山	和	德	香	高	愛	福	大	佐
形	田	井	川	山	取	根	山	島	口	歌	島	川	知	媛	岡	分	賀
縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣
四四,四五〇	二五,七五〇	五四,二五〇	二四,八〇〇	一三三,六〇〇	一六八,五五〇	九三,二〇〇	四二,五〇〇	二二,八〇〇	一一,六五〇	九七,五〇〇	一九二,七〇〇	四五,五〇〇	七七,三〇〇	四五,〇〇〇	一三六,二〇〇	一七,〇〇〇	一五,三五〇
一七	一四	四五	一五	二〇	一六二	三七	二二	一七	二六	二八	五九	六	二四	一一	四六	四	四
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
四四,四五〇	二五,五五〇	五四,二五〇	二四,三〇〇	一三三,六〇〇	八八,七〇〇	九三,二〇〇	四二,五〇〇	二二,八〇〇	一一,四五〇	九七,五〇〇	一九二,七〇〇	四五,五〇〇	七七,三〇〇	四五,〇〇〇	一三四,七〇〇	一七,〇〇〇	一五,一五〇
〇	二〇〇	〇	五〇〇	一〇〇〇	一〇〇	〇	〇	〇	二〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,五〇〇	〇	二〇〇

府 縣 名	應 募 高	申 込 口 數	募 入 高	募 入 價 額 最 高	募 入 價 額 最 低	募 入 外 高	募 入 外 低
熊 本 縣	七七、六五〇	一六	〇	〇	〇	七七、六〇〇	五〇
宮 崎 縣	五、七〇〇	二	〇	〇	〇	五、〇〇〇	七〇〇
鹿 兒 島 縣	三一、四五〇	六	〇	〇	〇	三一、四五〇	〇
沖 繩 縣	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
北 海 道	五、〇〇〇	二	〇	〇	〇	五、〇〇〇	〇
合 計	七五、五四、三五〇	一、五四六	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇九、五〇〇	一、〇〇七、六五〇	一、一八〇、八〇〇	三三、二五〇

第二回募集ハ明治二十七年二月十四日大藏省告示第三號ヲ以テ其手續ヲ定メ募集ノ總額ヲ百萬圓トシ又應募者ハ本月二十四日ヨリ三月三日マテニ申込ムヘキモノトシ其他募集最低價格保證金ノ割合及第一期拂込金ノ手續等都テ第一回ノ例ニ依レリト雖モ唯保證金ヲ以テ拂込金ニ振換ヘタル殘金ハ之ヲ一期ニ纏メテ本年三月二十四日迄ニ拂込ムヘキモノト定メタリ今募集ノ結果ヲ見ルニ應募申込ノ總額四百六拾七萬九百五拾圓ニ達シ募集豫定額ニ超過スルコト實ニ參白六拾七萬九百五拾圓ニシテ應募價格ノ最高百九圓五拾錢ヨリ以下百七圓六拾參錢マテノモノ九拾七萬參千貳百圓及百七圓六拾貳錢ノ申込高參拾五萬圓ノ内貳萬六千八百圓ヲ募入額ト爲シタルカ爲メ國庫ノ實收高ハ百八萬百拾圓參拾五錢壹厘ノ多キヲ致シタリ今其詳細ノ狀況ヲ表出スレハ左ノ如シ

府 縣 名	應 募 高	申 込 口 數	募 入 高	募 入 價 額 最 高	募 入 價 額 最 低	募 入 外 高	募 入 外 低
東 京 府	二〇、三三、二〇〇	一七一	八五、二、四〇〇	一〇〇九、五〇〇	一、〇〇七、六五〇	一、一八〇、八〇〇	〇
京 都 府	一一、一七、〇〇〇	六〇	六、八五〇	一〇〇八、〇〇〇	一〇〇七、六三〇	一〇四、八五〇	〇
大 阪 府	一〇、四、五〇〇	五〇	二四、〇五〇	一〇〇八、一〇〇	一〇〇七、七二〇	七九、七五〇	七〇〇
神 奈 川 縣	一一、五〇〇	二	〇	〇	〇	一一、五〇〇	〇
兵 庫 縣	二一、七五〇	二七	〇	〇	〇	二一、七五〇	〇
長 崎 縣	八五、五五〇	一八	五〇〇	一〇七、七〇〇	〇	八五、五〇〇	〇
新 潟 縣	六一、〇〇〇	二五	〇	〇	〇	五八、〇〇〇	三、〇〇〇
崎 玉 縣	一三、一、二〇〇	八	〇	〇	〇	一三、一、二〇〇	〇
群 馬 縣	四二、〇〇〇	六	〇	〇	〇	四二、〇〇〇	〇
千 葉 縣	一八、五〇〇	六	〇	〇	〇	一八、五〇〇	〇
茨 城 縣	一、五〇〇	四	〇	〇	〇	一、五〇〇	〇
栃 木 縣	四〇、一〇〇	三	〇	〇	〇	四〇、一〇〇	〇
奈 良 縣	四七、四〇〇	三三	〇	〇	〇	四七、四〇〇	〇
三 重 縣	六九、〇〇〇	四〇	二〇〇	一〇〇九、〇〇〇	一〇〇七、六五〇	六八、八〇〇	〇
愛 知 縣	二六六、〇〇〇	一一六	〇	〇	〇	二六六、〇〇〇	〇
靜 岡 縣	二八、〇〇〇	一六	〇	〇	〇	二八、〇〇〇	〇
山 梨 縣	四、〇〇〇	七	〇	〇	〇	四、〇〇〇	〇
滋 賀 縣	七五、三〇〇	三九	〇	〇	〇	七五、三〇〇	〇

德島縣	和歌山縣	山口縣	廣島縣	岡山縣	鳥取縣	島根縣	富山縣	石川縣	福井縣	秋田縣	山形縣	青森縣	岩手縣	宮城縣	福島縣	長野縣	岐阜縣
三三,一〇〇	一五三,四〇〇	六二,一〇〇	二四,六〇〇	八一,一〇〇	一一三,三〇〇	一八三,六五〇	一〇〇,八〇〇	三三,六〇〇	四八,五五〇	一五,七〇〇	六三,八〇〇	八〇〇	六〇,〇〇〇	六二,〇〇〇	一一,六〇〇	一一,五〇〇	三三,三三〇
八九	三六	二七	八	三三	一四	五七	七	二六	四一	一〇	二二	三	二	六	六	二四	四六
〇	〇	一六,〇〇〇	〇	一〇〇	二〇,〇〇〇	〇	〇	〇	二七,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	二,〇〇〇	〇	五〇,〇〇〇	〇
〇〇	〇〇	一〇八,〇〇〇	〇〇	一〇七,六五一	一〇八,五三〇	〇〇	〇〇	〇〇	一〇七,六六七	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	一〇八,六〇〇	〇〇	一〇八,六五〇	〇〇
三三,一〇〇	一五三,四〇〇	四六,一〇〇	二四,六〇〇	八一,〇〇〇	一一三,三〇〇	一八三,六五〇	一〇〇,八〇〇	三三,六〇〇	四八,五五〇	一五,七〇〇	五八,八〇〇	八〇〇	六〇,〇〇〇	六二,〇〇〇	一一,六〇〇	一一,五〇〇	三三,三三〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五,〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

香川縣	高知縣	愛媛縣	福岡縣	大分縣	佐賀縣	熊本縣	宮崎縣	鹿兒島縣	神戶縣	北海道	合計
二四,七五〇	一三,七〇〇	四,〇五〇	四四,六〇〇	二〇,九〇〇	二〇,〇〇〇	二五,四〇〇	〇	〇	〇	一六,五〇〇	四,六七〇,九五〇
七	一〇	四	三三	四	四	七	〇	〇	〇	五	一一,一五〇
一四,六〇〇	〇	〇	一〇,七〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一,〇〇〇,〇〇〇
一〇八,三三〇	〇〇	〇〇	一〇八,三三〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	三,六五八,二五〇
一〇,一五〇	一三,七〇〇	四,〇五〇	三四,〇〇〇	二〇,九〇〇	二〇,〇〇〇	二五,四〇〇	〇	〇	〇	一二,五〇〇	三,六五八,二五〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	四,〇〇〇	一二,七〇〇

以上二回ノ募集共ニ頗ル好結果ヲ得即チ價格百五圓六拾錢又ハ百七圓六拾貳錢以上ノ申込額ヲ以テ既ニ需要額ニ充テ尙ホ餘リアルニ至リテハ既往ノ公債募集ニ於テ其類例ナカリシ所ニシテ殊ニ應募申込ノ多キ募集豫定額ニ對シテ第一回ハ七倍六割弱第二回ハ四倍七割弱ニ上リタルカ如キハ公債募集ノ舉アリテヨリ以來未タ曾テ見サル所ノ盛況ナリ蓋シ當時ノ金融事情之ヲシテ然ラシメタルモノナリト雖モ亦以テ政府信用ノ厚キニ因ラスンハアラス

又第一回ニ於テ拂込期ヲ數期ニ分チ第二回ハ之ニ反シテ繰ニ二期ニ止メタル所以ハ畢竟鐵道建設ニ於ケル需要ノ緩急ヲ計リ之カ供給ノ時期ヲ算定シタルモノニシテ第二回ノ如キハ鐵道建設ニ要スル外國品ノ購入概シテ年度末ニ際シ多キカ故ニ之ニ伴ヒ支出スヘキ金額巨額ニ上リ爲メニ拂込度數ヲ數期ニ分ツノ逸ナカリシニ由レリ今左ニ毎回募集ノ結果ヲ表出セン

事由	第一回	第二回	合計又ハ平均
本店へ申込高	三,三三七,二〇〇,〇〇〇	二,〇三三,二〇〇,〇〇〇	五,三八〇,四〇〇,〇〇〇
支店へ申込高	四,八四八,〇〇〇,〇〇〇	一,〇四五,〇〇〇,〇〇〇	五,八九三,〇〇〇,〇〇〇
代理店へ申込高	三,七三三,三五〇,〇〇〇	二,五三三,二五〇,〇〇〇	六,二六六,六〇〇,〇〇〇
申込總高	七,五五四,三五〇,〇〇〇	四,六七〇,九五〇,〇〇〇	一二,二二五,三〇〇,〇〇〇
募集最低價格	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
募集最高價格	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
最低價格申込高	三三,九五〇,〇〇〇	一二七,〇〇〇,〇〇〇	四四,六五〇,〇〇〇
高價申込高	七,五三二,四〇〇,〇〇〇	四,六五八,二五〇,〇〇〇	一二,一九〇,六五〇,〇〇〇
實收高	一,〇五六,五三八,六〇〇	一,〇八〇,一一〇,三五一	二,一三六,六四八,九五一
募集額外超過高	六,五五四,三五〇,〇〇〇	三,六七〇,九五〇,〇〇〇	一〇,二二五,三〇〇,〇〇〇
申込價格最高	一〇六,五一〇	一〇九,五〇〇	平均 一〇八,〇〇五
本店へ申込ノ内最高價格	一〇六,五一〇	一〇九,五〇〇	平均 一〇八,〇〇五

高價申込ノ内最低	一〇〇,〇一〇	一〇〇,〇五八	平均 一〇〇,〇三三
申込價格平均	一〇二,七二二	一〇六,三九九	平均 一〇四,五六一
募入價格平均	一〇五,六五四	一〇八,〇一一	平均 一〇六,八三三
申込總口數	一,五四六	一,一五〇	平均 二,六九六
官廳申込口數	九	一一	平均 二〇
同上金額	一,三〇四,九〇〇,〇〇〇	一,六七九,七五〇,〇〇〇	平均 二,九八四,六五〇,〇〇〇
銀行會社申込口數	二七六	二二六	平均 五一二
同上金額	三,〇〇二,二五〇,〇〇〇	一,二九八,八〇〇,〇〇〇	平均 四,三〇一,〇五〇,〇〇〇
市町村組合申込口數	五	五	平均 一〇
同上金額	二,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇	平均 五,六〇〇,〇〇〇
學校申込口數	二	〇	平均 二
同上金額	一,四五〇,〇〇〇	〇	平均 一,四五〇,〇〇〇
病院申込口數	三	〇	平均 六
同上金額	一六,三五〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	平均 二一,三五〇,〇〇〇
社寺申込口數	六	一	平均 七
同上金額	一〇,三〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	平均 一〇,七〇〇,〇〇〇
一個人申込口數	一,二四五	八九四	平均 二,一三九
同上金額	三,二二六,八〇〇,〇〇〇	一,六八三,七〇〇,〇〇〇	平均 四,九一〇,五〇〇,〇〇〇

### 附 募集當時ノ金融

鐵道公債第一回募集ノ告示ハ明治二十六年四月一日ニシテ其應募申込期限ハ同月十六日ヨリ二十日マテナリシカ當時東京市中金融ハ著シク緩慢ノ狀況ヲ呈シ銀行集會所ノ日歩ハ貳錢日本銀行貸付利子歩合ハ年五分五厘當所割引日歩ハ壹錢四厘他所割引日歩ハ壹錢六厘ト云ヘル有様ニシテ大阪市中モ亦金融甚タ緩慢ノ景況ナリシナリ

茲ニ明治二十六年四月中東京大阪ニ於ケル金利ノ最高最低及平均ノ割合ヲ表出スル事左ノ如シ

抵當貸金額ノ區別	最 高	最 低	京		大		最 低	平 均
			最 高	最 低	最 高	最 低		
百圓以上千圓未満	九二九	七八一	八四八	八〇九	九〇九	八四八	七八七	九二九
千圓以上壹萬圓未満	八一八	六六八	七三五	六二四	一〇九五	八四〇	四七五	八一八
壹萬圓以上	六七九	五九〇	六二四	八四〇	八四〇	四七五	六二二	六七九

第二回募集ノ告示ハ明治二十七年二月十四日ニシテ申込期限ハ同月二十四日ヨリ同三月三日迄ナリシカ當時東京市中ノ金融ハ稍々需要増進ノ狀ヲ呈シ銀行集會所ノ日歩ハ貳錢參厘日本銀行貸付利子ノ歩合ハ年六分七厘當所割引日歩ハ壹錢九厘他所割引日歩ハ貳錢壹厘ニシテ大阪市中モ亦商工業上ノ景氣大ニ振起ノ狀況ナリシナリ

茲ニ明治二十七年二月中東京大阪ニ於ケル金利ノ最高最低及平均ノ割合ヲ表出スルコト左ノ

如シ

抵當貸金額ノ區別	最 高	最 低	京		大		最 低	平 均
			最 高	最 低	最 高	最 低		
百圓以上千圓未満	〇五二	八六四	九三六	八三六	〇五九	八七六	〇二二	〇五二
千圓以上壹萬圓未満	九四二	七九二	八五六	七三〇	九八六	八三〇	九八六	九四二
壹萬圓以上	八四六	七三〇	七八八	九一三	九一三	八四〇	九一三	八四六

又左ニ毎回募集ノ當時東京ニ於ケル國債證券ノ直取引平均相場ヲ表出セン

募 集 回 次	年 月	五分 利付 金 祿 公 債	海 軍 公 債	整 理 公 債
第 一 回	二十六年四月	一〇三・八五二	一〇四・八九一	一〇五・一五七
第 二 回	二十七年三月	一〇七・八八三	一〇八・四九〇	一〇八・八三三

### 第二目 臨時特別發行

鐵道公債ハ已ニ陳敘セシカ如ク二回ノ募集ヲ舉行シ之カ爲メ明治二十六年中ニ券面金額貳百萬圓ノ證券ヲ發行セシカ二十七年中以降ハ總テ國庫預金部若クハ債金部ノ現在金ヲ運用シ整理公債條例第六條第二項ニ定メタル特別發行ノ方法ニ依リ臨時ニ證券ヲ發行シタリ其發行證券ノ券面高總計千五百九拾萬七千參百五拾圓ナリトス

明治二十七年年度ニ於ケル鐵道建設費ハ二十六年度ヨリ繰越シタル募集金八拾九萬九千餘圓アルヲ以テ年首ニ於ケル費用ハ之ヲ以テ支辨スルコトヲ得タリト雖モ爾來國債證券ノ相場漸次下落シ景況ヲ呈シ且ツ巨額ナル軍事公債募集ノ舉アルニ際スル等煩ル本公債ノ募集ニ便ナラツルノ時機ニ遭遇セシヲ以テ輒ク募集ノ舉ニ出ツルコト能ハスシテ遷延途ニ年度末ニ及ヘリ因テ政府ハ前述ノ如ク國庫預金部ノ現在金ヲ運用シテ券面金額貳百萬圓ノ特別發行ヲ爲シ以テ漸ク同年度ニ於ケル鐵道建設費ノ需要ヲ充タシタリ越ヘテ翌二十八年年度ニ至リテハ鐵道建設費ノ支出豫算百五拾貳萬圓ナリシカ之ニ二十六、二十七兩年度ノ鐵道建設費豫算合計四百五拾六萬圓中已ニ起債シタル公債四百萬圓ヲ控除シタル殘額五拾六萬圓ヲ加フレハ其金額貳百八萬圓ト爲ルノ計算ニシテ是レ當ニ二十八年年度中ニ於テ起債ス可キ金額ナリ故ニ大藏大臣ハ鐵道會議ノ諮詢ヲ經テ經濟上ノ狀況ニ應シ年度内ニ於テ隨時之カ發行ヲ爲ス可キコト、決定シ其結果二十八年中ニ於テ券面金額貳百萬圓ノ證券ヲ發行シタリ特テ二十九年年度以後モ市場金融ノ狀況頗ル公債ノ募集ニ便ナラサル所アリシヲ以テ亦臨時特別發行ノ法ヲ用キ二十九年年度ニ四百萬圓三十年度ニ七百九拾萬七千參百五拾圓ノ起債ヲ爲シタリ然ルニ三十一年度ニ至リテハ終ニ普通募集ハ勿論證券ノ特別發行スラ之ヲ舉行スルノ好機ヲ得サリシカ爲メ止ムヲ得ス償金特別會計ノ資金ヲ以テ鐵道建設費ヲ繰換支辨シ翌三十二年年度ニ於テ之ヲ償戻シタリ而シテ此ノ償戻ニ充ツヘキ金額及三十二年度相當鐵道建設費年割額ニ對スル資金ノ供給ニ付テハ既ニ陳敍シタルカ如ク外國市場ニ於テ英貨公債ヲ募集シ之ニ充用セシモノナリ

以上敘述シタル證券ノ發行ニ就キテ其年月日、發行額、發行價格及實收額ヲ表出スレハ左ノ如シ

發行年月日	發行額	發行價格	實收額
二十八年三月二十八日	二,〇〇〇,〇〇〇	九六・三六〇	一,九二七,二〇〇
同 年五月 十日	一,〇〇〇,〇〇〇	九九・二五〇	九九二,五〇〇
同 年十月 一日	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇・二〇〇	一,〇〇二,〇〇〇
三十年三月二十九日	四,〇〇〇,〇〇〇	九九・二二〇	三,九六八,八〇〇
同 年十月十一日	五,〇〇〇,〇〇〇	九五・五三〇	四,七七六,五〇〇
三十一年一月二十一日	二,八〇七,三五〇	九四・〇九〇	二,六四一,四三五
同 年三月二十九日	一,〇〇〇,〇〇〇	九〇・二一〇	九〇二,一〇〇
合 計	一五,九〇七,三五〇	〇	一五,三九八,六四五

第十三項 軍事公債

第一目 普通募集

軍事公債ノ募集ハ明治二十七年ヨリ同二十九年ニ亘リ前後三回之ヲ舉行シタルモノニシテ其募集實額總計八千九百九拾九萬六千五百圓ノ多キニ達セリ而シテ其之ニ對スル應募申込ノ金額及價格其他都テ應募ノ事蹟ハ國家非常ノ事變ニ際シ忠勇義膽ニ富メル我國民カ驟起以テ公ニ奉シタルノ狀況ヲ窺フニ足ルヘキモノ尠ナシトセス請フ以下毎回募集ノ概況ヲ略陳セン

第一回募集ハ明治二十七年八月十七日大藏省告示第三十二號ヲ以テ其事項ヲ定メ募集豫定額ヲ



參千萬圓募集最低價格ヲ證券券面金額百圓ニ付百圓保證金ヲ券面金額ノ一割トシ募入トアリタル者ノ保證金ハ之ヲ第一期ノ拂込金ニ振換ヘ殘金ノ拂込ヲ七期ニ分チ明治二十八年六月三十日ヲ以テ拂込最終ノ期日ト定メ且ソ應募者ノ都合ニ由リ全額又ハ半額ヲ一時ニ拂込ミ若クハ後期ノ分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ムコトヲ得ルモノト爲シタリ

明治二十七年勅令第四百四十四號軍事公債條例第四條ニ據リ軍事公債第一回募集ノ總額及利子ノ割合應募日限等ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 軍事公債第一回募集ノ證書總額ハ參千萬圓トシ價格ハ額面百圓ニ付其最低ヲ金百圓トス但應募高需要ノ總額ニ超過スルトキハ應募價額ノ高キモノヨリ順次ニ之ヲ取り總額參千萬圓ニ滿ルニ至テ止ム
- 一 第一回軍事公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス
- 一 募集ニ應セントスル者ハ來ル九月十日ヨリ同十三日迄ニ應募價格及住所姓名ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ同代理店ヘ申込ムヘシ
- 一 應募金ニ對スル保證金ノ割合ハ證書額面百圓ニ付金拾圓トス
- 一 大藏大臣ハ來ル九月二十日マテニ各應募者ニ交付スヘキ軍事公債證書ノ高ヲ査定シ日本銀行ヲシテ之ヲ通知セシムヘシ
- 一 前條ノ通知ヲ受ケタル應募者ニシテ額面以上ノ申込ヲ爲シタルモノハ日本銀行ヨリ通知スル期日マテニ之カ差額ヲ拂込ミ假公債證書ノ交付ヲ受クヘシ
- 一 應募ノ通知ヲ受ケタル上ハ其應募高ニ對スル保證金ハ第一期ノ拂込ト心得第二期以下左

ノ割合ニ依リ之ヲ拂込ムヘシ

應募額百圓ニ對スル拂込金額率

第一期	二十七年九月二十日マテ	此拂込金拾圓 (保證金)
第二期	同年同月三十一日マテヨリ	此拂込金拾圓
第三期	同年同月三十一日マテヨリ	此拂込金拾圓
第四期	同年同月二十八日マテヨリ	此拂込金拾圓
第五期	同年同月三十一日マテヨリ	此拂込金貳拾圓
第六期	同年同月三十日マテヨリ	此拂込金拾圓
第七期	同年同月三十一日マテヨリ	此拂込金貳拾圓
第八期	同年同月三十日マテヨリ	此拂込金拾圓

但各期拂込末日ノ日曜日ニ當ルトキハ其前日限リトス

一 前掲ノ通拂込期日ヲ定ムト雖モ應募者ノ都合ニヨリ全額又ハ半額ヲ一時ニ拂込若クハ後期ノ分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲナスコトヲ得

抑本邦ニ於テ一時ニ參千萬圓ノ公債ヲ募集シタルハ曾テ前例ナキコトナルカ故ニ其結果如何ニ付世上或ハ危懼ノ念ヲ懷キシ者ナキニアラス政府ハ最モ注意ヲ注キ或ハ地方官ニ内訓シ或ハ銀行家ニ諭示シ務メテ之カ應募ヲ獎勵シタリ

今其大藏大臣渡部國武ヨリ各地方官ニ對シテ内訓セシ所ヲ掲クレハ左ノ如シ  
 「日清ノ開戦ハ實ニ國家ノ一大事件タル今更言ヲ俟タス今般軍事公債條例發布相成候ニ就テハ

國民舉テ報國ノ義氣ヲ振興シ驟起募集ニ應シ候様致度各地方官ニ於テ宣戰 詔勅ノ主旨ヲ奉體セラレ此際管内ノ有志家奮テ募集ニ應シ良結果ヲ得候様十分ノ配意可有之此段及内訓候也又其八月十八日渡邊大藏大臣カ關東同盟銀行幹事第一銀行頭取澁澤榮一第十五銀行山本直成第三銀行頭取安田善四郎代理長谷川千藏ヲ大藏省ニ招キ官房ニ於テ諭示セシ所左ノ如シ

本日關東各銀行ノ代表者タル各位ノ出頭ヲ促シタルハ昨日書面ヲ以テ相達シタル如ク今般軍事公債募集ノ舉アルニ付本大臣微哀ノ在ル所ヲ同盟各銀行ニ通知セラレンコトヲ望ムカ爲メナリ

抑今般日清開戦ノ事タルヤ我帝國ハ實ニ萬止ムヲ得サルニ起ツ彼我正邪曲直ノ在ル所ハ宣戰ノ詔勅炳焉タルコト日月ノ如シ今又茲ニ喋々スルヲ待タスト雖モ其結果ノ如何ハ將來我國ノ東洋ニ於ケル地位ニ關シ外交上貿易上ニ及ホス所ノ利害實ニ最大至重ナル者有ツテ存スルハ決シテ疑フ可ラス

然ルニ方今ノ軍事タル全ク昔日ト其趣ヲ異ニシ其費用ヲ要スル又舊來ノ比ニ非ス全局勝敗ノ數往々軍費ノ充實セルト否ラサルトニ因ツテ分ル、者アリト云フモ敢テ誣言ニアラサルヲ信ス今回政府カ勅令第四百四十四號ヲ以テ軍事公債五千萬圓募集ノ議ヲ決定シタルモ亦此意ニ外ナラス

今ヤ我國民一般ノ公憤ハ日ニ其高度ヲ加ヘ獻金恤兵其他各般ノ義舉四方ニ起リ一國人心ノ結合一致敵愾ノ氣鬱然トシテ勃興セルコト今日ノ如クナルハ開國已來殆ント未曾有ノ情況ナリト言ツテ不可ナカルヘシ

此時ニ當リ軍事公債募集ノ舉アリ其必要ニシテ止ムヘカラサルハ前陳ノ如シト雖モ本大臣カ敢テ高利ヲ以テ應募者ヲ促スコトナク平常ノ利率ト賣價トヲ以テ一時ニ巨額ノ國債ヲ募集スルノ決心ヲ爲シタルハ全ク忠君愛國ノ心ニ富ム所ノ國民ノ至誠ニ信依シ且今強テ高利低價ノ公債ヲ發行スルコトアラハ或ハ痛ク株式其他ノ市場ヲ擾亂スルコトアラシク慮リタル微意ニ外ナラス

目下日清ノ戰爭漸ク將ニ闌ナラントス海陸ノ捷報頻リニ至ルト雖モ全局ノ大勝ヲ得此大問題ノ局ヲ結フハ前途尙甚タ近シト斷言スルコト能ハス苟モ將來我帝國ノ東洋ニ於ケル地位ヲ重シシ外交上貿易上ノ利益ヲ全フセンコトヲ慮ル者ハ力ヲ軍事供給ノ一途ニ用ヒ在外陸海軍人ヲシテ内顧ノ憂ナカラシメンコトヲ期スルハ其朝ニ在ルト野ニ在ルトヲ論セス吾人宜シク盡スヘキノ本分ナリトス

本大臣ハ忠勇義膽ニ富メル我國民ノ必スヤ蹶起シテ募集ニ應シ日ナラスシテ應募額ノ大ニ其總額ニ超過スルニ至ラシムルヲ以テ其本意トセラル、ヲ信シテ疑ハスト雖モ今ヤ宇内列國ノ眼光ハ皆一齊ニ我帝國ニ向ツテ注射セラル此時ニ當リテハ一舉一動ノ微ト雖モ大ニ注意セサルヘカラス何ソ況ンヤ戰時國債募集多寡ノ如キハ國民愛國心ノ厚薄ヲ測定スルノ標準タルニ於テヲヤ本大臣局ニ財務ニ當ル敢テ默々ニ付スル能ハス本日各位ノ出頭ヲ促シ腹藏ナク微衷ノ在ル所ヲ吐露シ各位カ此意ヲ同盟各銀行ニ致シ各銀行ハ其取引アル資産家財產家トモ謀リ共同一致一大好結果ヲ奏シ今ヤ日清戰爭ノ將ニ闌ナラントスルニ際シ全局ノ勝算ヲ一著機先ニ占領セラレンコトヲ望ム

全國銀行同盟各團體ニ向ツテモ幹事者ノ出京ヲ促シ置キタリ著京ノ上ハ本大臣ヨリ懇談スル所アルヘク各位モ亦相俱ニ商議セラル、所アラシコトヲ希フ

而シテ期限ニ至リ應募申込ノ總額ハ七千七百萬貳千六百五拾圓ニ達シ募集豫定額ニ比シテ四千七百萬貳千六百五拾圓ノ超過トナレリ仍テ應募額ノ内價格以上申込額千六百拾貳萬七千八百五拾圓價格申込額千八百參拾七萬貳千五百五拾圓合計參千萬圓ヲ以テ募入トセリ殊ニ本公債ノ應募價格ノ如キハ最モ高キモノ百四拾貳圓四拾四錢ニ上リ其他百貳拾五圓若クハ百貳拾圓ノ高價アルニ至レリ是レ此公債ノ募集ニ於ケル特色ニシテ他ニ其例ヲ見サル所ナリ當時金融漸ク繁忙ニ趣キシト五分利付國債證券ノ市場取引相場券面金額以內ニ下落セシトニ拘ラス尙ホ斯ノ如ク稀有ノ好結果ヲ得タルハ專ラ國民一致敵愾心ノ旺盛ナル個々營利ノ私情ヲ棄テ忠君愛國ノ意氣投合セシニ由ルモノト謂フヘシ今其結果ヲ地方別ニ表出スレハ左ノ如シ

府縣名	應募高	申込口數	募入高	内		外	
				高價	最低價	募入高	募入外高
東京府	27,000,000	6,400	6,812,000	100,000	7,000,000	1,912,000	1,912,000
京都府	22,800,000	4,800	7,770,000	100,000	8,000,000	1,770,000	1,770,000
大阪府	8,100,000	7,778	3,333,000	100,000	3,500,000	1,333,000	1,333,000
神奈川縣	6,726,750	2,000	2,117,000	100,000	2,300,000	1,877,000	1,877,000
兵庫縣	1,943,600	3,000	1,170,000	100,000	1,300,000	770,000	770,000
長崎縣	5,870,000	5,200	1,110,000	100,000	1,300,000	1,110,000	1,110,000

府縣名	應募高	申込口數	募入高	高價	最低價	募入高	募入外高
新瀉縣	1,036,000	1,800	612,000	100,000	1,000,000	1,770,000	4,112,000
埼玉縣	8,955,000	3,500	4,975,000	100,000	5,000,000	1,700,000	3,985,000
群馬縣	2,153,000	8,100	798,000	100,000	1,000,000	560,000	1,513,000
千葉縣	6,670,000	3,300	3,110,000	100,000	3,300,000	1,800,000	3,510,000
茨城縣	3,620,000	7,500	1,527,000	100,000	1,700,000	880,000	2,007,000
栃木縣	4,900,000	1,300	688,000	100,000	1,000,000	1,050,000	2,000,000
奈良縣	1,645,000	5,100	236,000	100,000	300,000	285,000	750,000
三重縣	1,071,500	3,700	525,500	100,000	600,000	193,500	482,000
愛知縣	1,935,000	4,500	3,990,000	100,000	4,000,000	4,000,000	1,065,000
靜岡縣	951,600	2,400	1,895,000	100,000	2,000,000	1,300,000	515,000
山梨縣	787,000	1,200	409,500	100,000	500,000	1,550,000	378,500
滋賀縣	1,650,900	6,700	650,000	100,000	700,000	380,000	950,900
岐阜縣	1,076,700	4,900	500,000	100,000	600,000	330,000	576,700
長野縣	735,600	1,600	337,000	100,000	400,000	1,260,000	300,600
福島縣	1,046,600	2,100	467,000	100,000	500,000	1,330,000	579,000
宮城縣	600,700	1,700	375,500	100,000	400,000	1,100,000	310,700
岩手縣	2,817,000	6,200	1,830,000	100,000	2,000,000	715,000	1,615,000
青森縣	2,005,000	2,900	1,200,000	100,000	1,300,000	379,000	921,000

山形縣	四六三三五〇	一三三〇〇	二四九六五〇	一六三四〇〇	一〇〇〇〇〇	八六二五〇〇	二二二七〇〇
秋田縣	二六六〇〇〇	五七九	一五六六五〇	一一一〇〇	一〇〇〇〇〇	四五五五〇	一〇九三〇〇
福島縣	六六一七〇〇	二三八六	三四八一〇〇	三四五二〇〇	一〇〇〇〇〇	九一九〇〇	二二二七〇〇
石川縣	六三三、一五〇	三四八四	三八八、一〇〇	三三、七五〇	一〇〇〇〇〇	八四四、五〇	二二二七〇〇
富山縣	一、五〇九、一〇〇	三、八九九	六三三、一五〇	三三、〇〇〇	一〇〇〇〇〇	三、二一三、五〇	八八六、八五〇
島根縣	五七、八五五〇	一、三三四	一三三、六五〇	六〇、二五〇	一〇〇〇〇〇	一、五二、四〇〇	三、六四九、〇〇
鳥取縣	二二、五五五〇	四、二七	一三三、六五〇	六〇、二五〇	一〇〇〇〇〇	一、五二、四〇〇	三、六四九、〇〇
岡山縣	八四〇、〇〇〇	一、八三三	一三三、六五〇	六〇、二五〇	一〇〇〇〇〇	一、五二、四〇〇	三、六四九、〇〇
廣島縣	六、八、一五〇	二〇、九九九	三三三、一五〇	二〇、四九〇	一〇〇〇〇〇	一、六、九〇〇	二、九六、三〇〇
山口縣	一、四〇八、九〇〇	六、七〇七	七七八、〇五〇	五三、九七五〇	一〇〇〇〇〇	二、五、一〇〇	二、九六、三〇〇
和歌山縣	四、一〇三、五〇〇	六、三二	一四九、四五〇	四三、三〇〇	一〇〇〇〇〇	一、〇七、一五〇	三、〇〇、九〇〇
徳島縣	六三、九五五〇	二、四八五	四〇〇、九〇〇	三〇、一〇〇	一〇〇〇〇〇	九八、八〇〇	三、八、六五〇
香川縣	三、六三、三五〇	一、五〇六	二四六、七五〇	一、九五、三五〇	一〇〇〇〇〇	五、一、四〇〇	一、一五、五〇〇
高知縣	四、三〇、二五〇	二、一八八	二四七、七〇〇	一七、七五〇	一〇〇〇〇〇	七、一、四〇〇	一、八三、〇五〇
愛媛縣	三三〇、九〇〇	四、三六	九六、三〇〇	四六、一〇〇	一〇〇〇〇〇	五〇、二〇〇	一、二、二〇〇
福岡縣	八、四六、〇五〇	一、三八九	四四四、〇五〇	二七、七一五〇	一〇〇〇〇〇	一、六、四九〇〇	四〇、一、七〇〇
大分縣	六九〇、六〇〇	三、八八六	二九〇、三五〇	二二、八〇〇	一〇〇〇〇〇	一、七、七五〇	四〇、一、七〇〇
佐賀縣	三、七五、八〇〇	一、五二二	一九九、二五〇	二四、六〇〇	一〇〇〇〇〇	七〇、六五〇	一、八〇、五五〇

熊本縣	八二、五九五〇	三、四七五	二九〇、〇〇〇	九七、〇五〇	一〇〇〇〇〇	三、一、九五〇	五〇、六九五〇
宮崎縣	九九、九〇〇	四、三三	五七、七〇〇	三、七〇〇	一〇〇〇〇〇	一、九、〇〇〇	四、三、三〇〇
鹿兒島縣	二、四一、七五〇	一、六八八	一三五、九五〇	一〇〇、八五〇	一〇〇〇〇〇	三、五、一〇〇	一〇、六、八五〇
沖繩縣	四六、一〇〇	三、八	四、五二〇〇	四、四〇〇	一〇〇、一〇〇	一、〇〇	一、一〇〇
北海道	八、一七〇、〇〇〇	八、五八	四六、二九五〇	三三〇、七五〇	一〇〇〇〇〇	一、四、一、一〇〇	三、四、二、〇〇〇
合計	七、七〇〇、二五六〇	一、一九〇、二五	三、〇〇〇、〇〇〇	一、一六二、七八五〇	一、四、二、四〇〇	一、八、三、七、一五〇	四、七、〇〇、二、六〇〇

第二回募集ハ明治二十七年十一月二十二日大藏省令第十九號ヲ以テ募集豫定額ヲ五千萬圓トシ  
 同月告示第四十號ヲ以テ募集最低價格ヲ證券券面金額百圓ニ付九拾五圓トシ又保證金ヲ拂込金  
 ニ振換ヘタル殘金ノ拂込ヲ六期ニ分チ明治二十八年六月三十日ヲ以テ拂込最終ノ期日ト定メタ  
 リ其他保證金ノ割合及諸般ノ手續ハ渾テ第一回募集ノトキニ異ナルコトナシ左ニ該告示ヲ抄出  
 セン

- 一 本公債證書ノ價格ハ額面百圓ニ付其最低ヲ金九拾五圓トス
- 一 募集ニ應セントスルモノハ來ル十二月十一日ヨリ同月十五日マテニ應募價格及住所姓名  
 ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店へ申込ムヘシ
- 一 證書額百圓ニ對スル拂込ノ金額率

第一期 二十七年十二月二十五日マテ 此拂込金拾圓 (保證金)  
 第二期 二十八年一月十六日マテ 此拂込金拾圓 (振換金)